7W-82

回顧錄

回顧錄序

世人多クハ曰ク學者ハ迂遠ニシテ時勢ニ闇ク世務ニ通セスト思フニ是淺見ノミ予ヲ以テ之ヲ見ルニ經國ヲ以テ其任トセル眞ノ學者ナルモノハ其平生修養ノ資ニ賴リ能ク事物ノ眞理ヲ闡明シ人情ノ機微ヲ視察シ世界ノ大勢ヲ達觀シ一朝事アルニ當リテハ之ニ處スルノ方策ヲ確立シ毅然トシテ其所信ヲ遂行スル意氣ヲ有セサル可ラス夫ノ時務ニ迂遠ナルカ若クナルハ其著眼遠大ナルカ爲メ目前ノ小事ニ齷齪ダルコトヲ欲セサルカ抑モ又其理想ヲ有スル爲メ俗人ト相容レサルノ致ストコロニシテ其實必スシモ世務ニ疎キニ非サルナリ然レトモ世ノ所

21967
T0523

国立国会
25.9.19
図書館

212441

謂學者中ニハ往々博覽强記ヲ以テ其能事ト爲シ事理ヲ明ニシ機務ニ應スルコト能ハサル者アリ其或ハ自家ノ意見ヲ吐クモ之カ遂行ノ意氣ヲ有セサル者多シ世人ノ學者ヲ輕視スル蓋其所以ナキニ非サルナリ友人戸水博士ハ家ニ萬卷ノ書ヲ藏シ日夜孜々トシテ之ヲ熟讀翫味シ其蘊蓄スルトコロ極メテ多ク且胸裏超然タル理想ヲ畫キ事ニ觸ルヽニ從ヒ毎ニ之ヲ實行セントスル强硬ノ意氣ヲ有セリ近時東亞ノ問題日ヲ追フテ切迫スルニ當リ夙ニ世界ノ大勢ニ鑑ミ深ク邦家ノ安危盛衰ノ繫ル所以ヲ察シ卓然立テ征露ノ議論ヲ公表シ百難ヲ排シテ之カ遂行ニ盡瘁シ遂ニ我帝國ヲシテ振古ノ大事ヲ斷行スルノ時機ニ至ラシメタルハ眞個學者タルノ本分ヲ發揚シタルモノト謂フ可シ此書獨リ我明治偉業ノ好史料タルノミナラス又學者ノ本領ヲ明ニスルモノナリ仍テ一言ヲ卷首ニ附シテ之ガ序ト爲スコト爾

明治三十七年五月

寺尾亨誌

回顧錄序

人ノ憂ニ先チテ憂ヒ人ノ樂ニ後レテ樂ム是レ國士ナリ日露關係未ダ迫ラサルニ當リ切リニ速カニ征露ノ師ヲ起スベシト叫ビタル者ハ戸水博士ナリ明治三十三年ノ始メ戸水博士ノ極力露討ツベシト云フヤ人皆惟ヘラク彼ハ狂ニ近シト而シテ博士顧ミサルナリ明治三十四五年ノ交日露ノ交渉漸ク世人ノ念頭ニ浮ヒ恕スベキカ屈スベキカ將タ斷乎トシテ起ツベキカヲ研究スルノ徒次第ニ多キヲ加フルニ當リ滿蒙西比利亞皆須ラク一擧ニシテ取得スベシト唱ヘタル者ハ戸水博士ナリ人皆惟ヘラク彼ハ蠻人ノミト而シテ博士顧ミサルナリ明治三十六年我

ガ當局露ト樽俎ノ間ニ折衝スルヤ其効ナキヲ論シテ直チニ砲火ノ間ニ相見ルベシト促シタル者ノ張本ハ戸水博士ナリ人皆惟ヘラク愚笑フベク野、度スベカラズト而シテ博士顧ミサルナリ博士克ク元老ヲ罵リ儕輩ヲ卑シミ外ヲ天上天下唯我獨尊ノ如クニ裝ヒ、内細心熟慮、深夜燈火ト共ニ學ヲ東西ニ尋ネ夙晨星ト共ニ識ヲ古今ニ探ル、容レラレンコトヲ人ニ求メズ敬スベキコトヲ人ニ强ヒズ泰然トシテ山ノ動カサルノ如キノ慨アリ

國交既ニ破レテ干戈茲ニ交ハリ人皆戰捷ノ快ヲ祝スルノ時ニ當リ沈思默考切リニ戰後ノ經營ヲ劃シ戰勝ノ美果ヲ收メント警告スル者ハ又戸水博士ナリ博士常ニ人ノ憂ニ先チテ憂フルモシカモ人ノ樂ニ後レテダニ樂ムコトヲ爲サズ剛毅ノ資、不屈ノ神、先見ノ明、愛國ノ情、格遙カニ國士ノ上ニ位ス

回顧錄稿成ツテ將ニ梓ニ上ラントス博士ノ寛大ナル我ニ命スルニ短評ト愚序トヲ以テス譽レノ多キヲ喜ビ拙辭ヲ耻ヅルノ義ヲ以テ辭スルノ意ナシ日本斯人ヲ得テ更ニ幾層ノ重キヲ加フルヲ思ヒ數言ヲ述ベテ敬意ヲ戸水博士ニ表シ併セテ帝國ノ前途ヲ祝ス

明治三十七年五月

中村進午

自序

明治三十七年二月八日余副嶋道正君及ヒ寺尾、高橋、中村ノ三博士ト共ニ偕樂園ニ會シ談偶マ高橋博士ノ新著滿洲問題之解決ニ及ベリ同書七博士意見書起草顚末ヲ收ムレバナリ寺尾博士余ニ謂テ曰ク吾輩滿洲問題ヲ論セシハ明治三十六年ニ始マリタルニ非ズ實ニ明治三十三年ニ始マレリ子好ンデ文ヲ綴ル請フ吾輩ノ爲メニ明治三十三年以來今日ニ至ルマデ此問題ニ關シテ奔走シタルノ事跡ヲ記セヨ是亦以テ故近衛公ノ逸事ノ一斑ヲ世ニ示スニ足ルト余ハ即時ニ之ヲ諾スルコトヲ爲サズシテ唯中村博士ト共ニ材料ヲ蒐集ス可キコトヲ約セリ十數日ヲ經テ余試ミニ材料ノ蒐集ニ着手セシニ堆積累々タリ此ニ於テ余ハ中村博士ヲ煩ハサズシテ一編ヲ草スルニ決シ二月二十六日南佐莊ニ會セシ時松浦厚君及ヒ金井、中村兩博士ニ語ルニ此事ヲ以テセリ同月二十八日草稿成リタリト雖尙明治三十三年九月富士見軒會合ノ日ニ關シテ少シク疑無キ能ハザリシカバ松浦君ヲ介シテ故近衛公ノ日記ノ謄寫ヲ乞ヒシニ明治三十三年九月八日北淸問題ニ入ル前ニ當

リ手續上ノ議論二時間ヲ費シ北京撤兵ノ可否ニ入リシガ議論紛々更ニ要領ヲ得ス云云」トノ謄寫ヲ送ラレタリ公爵家ガ特ニ余ノ爲メニ右ノ謄寫ヲ送ラレタルハ余ガ感謝ノ至ニ堪ヘザル所ニシテ松浦君ガ余ノ爲メニ謄寫ヲ請ハレシニ對シテモ亦謹テ謝辭ヲ呈ス余ハ右ノ謄寫ヲ見テ以爲ク當時公ハ國家ノ爲メニ殆ント寢食ヲ忘レラレ熱心ニ東亞問題ヲ研究セラレタレバ右日記ニ載スルノ事或ハ他會ニ關スト乃チ書ヲ以テ會合ノ月日ヲ富士見軒ニ問ヒ其答ト公ノ日記トヲ對照シ終ニ精確ニ之ヲ知ルコトヲ得タリ此ニ於テ草稿ヲ訂正シ謄寫ノ後之ヲ寺尾、中村兩博士ニ送リ評ト序トヲ乞ヒシニ本書欄外ニ記スル所ノ批評ヲ加ヘ且ツ卷首掲クル所ノ序ヲ送ラレタルハ余ノ大ニ感謝スル所ナリ本書題シテ回顧錄ト曰フ金井、中村兩博士余ニ謂テ曰ク書名甚タ佳ナラズ人之ヲ聞テ其何ノ書タルヲ知ルコト能ハズト此言一理無キニ非ズ然レトモ故陸奥伯ノ書題シテ蹇蹇錄ト曰フ余ノ書題シテ回顧錄ト曰フ亦可ナラズヤ卷末附錄有リ世界ノ趨勢及ビ東亞ニ關スル余ノ論文及ヒ演說筆記ノ主要ナルモノ幷ニ所謂七博士ノ覺書及ヒ其漢譯ヲ收ム但シ既ニ本文中ニ記シタルモノハ再錄セズ附錄中「亞細亞ノ大勢」ト題スルモノハ明治三十六年七月十四日火曜會ノ爲メニ華族會館ニ於テ演說セシ所ニシテ其筆記ハ未タ曾テ雜誌ニ掲ケラレズ唯同會ニ於テ印刷ニ付セラレシコトアルノミ本書ヲ刊スルニ當リ余ハ乞フテ之ヲ附錄中ニ收メタリ火曜會トハ德川公爵家幷ニ紀州家、一橋家、田安家等ノ組織セラレタルモノナリ他ノ論文及ヒ演說筆記ハ悉ク雜誌又ハ新聞ニ記載セラレタルモノニシテ「必ス開戰セヨ」ト題スル一篇ノ如キハ明治三十六年七月八日以後少クトモ二十種ノ新聞又ハ雜誌ニ掲ケラレタルモノナリ附錄中ニ列記スルノ順序ニ至テハ一ニ其ノ世ニ出タルノ年月ヲ以テ標準トス明治三十三年以來寺尾、中村、金井等ノ諸博士屢バ時局問題ニ關シテ意見ヲ述ヘタルモ取捨ニ困難ナルカ爲メニ附錄中ニ收メズ高橋博士ノ論文ハ同博士ノ新著ニ載スルヲ以テ余敢テ蛇足ヲ書カズ此ニ本書ヲ著ハシタルノ顚末ヲ記シ以テ序ト爲ス

明治三十七年五月

戸水寛人

回顧錄目次

第一節　明治三十三年山縣侯等ニ建議書ヲ提出シタルノ顚末……一
第二節　六敎授對外意見發表……一一
第三節　明治三十四年一月ヨリ明治三十四年四月露清密約破棄ノ時ニ至ルマデノ情況……一四七
第四節　露清密約破棄ノ時ヨリ明治三十五年四月八日滿州撤兵條約ノ時ニ至ルマテノ情況……二三三
第五節　著者ノ滿州旅行並ニ歸朝後ノ事實……二三六
第六節　滿州第二撤兵期、梅川樓ノ演說、早稻田擬國會……二七三
第七節　明治三十六年桂伯訪問……二七六
第八節　七博士建議書ノ提出……二八〇
第九節　建議書ト覺書覺書ノ發表……二九〇
第十節　七博士懲罰問題、政府ノ干涉……二九七

第十一節　富井、小野塚、建部ノ三博士……三〇四
第十二節　覺書發表ノ影響……三一二
第十三節　覺書發表後ニ於ケル意見發表……三一〇
第十四節　故近衛公……三二三
第十五節　日露戰爭……三二五
附錄……三二七

回顧錄

戸水寛人著

第一節　明治三十三年山縣侯等ニ建議書ヲ提出シタルノ顚末

明治二十七、八年日清戰爭ノ結果トシテ日本ハ臺灣及ヒ遼東半島ヲ割取シタルニ露西亞、獨逸、佛蘭西ノ三國ハ急激ニ干涉ヲ行ヒ日本ヲシテ遼東ヲ清國ニ還附セシメシカバ日本國民ハ實ニ軍旗悲風ニ飜リ杜鵑血ニ咽ブノ慨無キ能ハサリキ幸ニシテ臥薪嘗膽ノ聲ハ志士ノ間ニ起リ國民ハ隱忍靜默一陽來復ノ時ヲ待ツモノヽ如シ既ニシテ獨逸ハ露西亞ト相談ノ末膠州灣ヲ占領シ露

進午曰讀來リテ腐粟ヲ生ズ

西亞ハ租借ノ名ノ下ニ遼東半島ヲ奪ヒ英國ハ威海衛ヲ租借シ佛國ハ廣州灣ヲ借入タリ

明治三十三年ニ至リ義和團ノ騷亂起リ北京在留ノ外國臣民ハ團匪ノ包圍攻擊ヲ蒙リ其生命且夕ニ迫リタレバ列國ノ軍隊ハ之ヲ救フニ急ニシテ又他ヲ顧ミルニ遑アラザリキ此ノ時ニ當リ露人ハ恣ニ兵ヲ滿州ニ入レ忽ニシテ之ヲ占領シタルヲ以テ余ハ友人寺尾博士及ヒ中村博士等ト會スル毎ニ談之ニ及ビ共ニ慨然トシテ征露ノ輿論ヲ喚起スルノ志有リ當時憂國ノ士頭山滿氏神鞭知常氏陸實氏等國民同盟會ヲ組織シ故近衛公之カ魁首タリシヲ以テ吾輩大ニ望ヲ公ニ屬シタリ偶マ公ヨリ書翰ノ來ルアリ披テ之ヲ見レバ曰ク九月九日午後五時富士見軒ニ來レ露國ノ擧動ニ關シテ相共ニ談セント余ハ欣喜雀躍シテ同處ニ行キシニ來リ會スルモノハ故近衛公ノ外ニ富井政章井上哲次郎金井延寺尾亨松崎藏之助中村進午ノ諸博士及ヒ法學士小川平吉氏早稻田出身ノ柏原文太郎氏ナリ而シテ滿州問題ニ關シテ特ニ有名ナル陸軍少佐根津一氏及ヒ中西正樹氏モ後レテ來リ會セリ

寺尾博士ハ最モ熱心ニ研究シ其機滿州問題ニ關シテ常ニ白熱ヲ持論シタリ博士ノ稱セル滿州出ツ

進午曰ク滿州問題ハ近ク公ニメラルヘキヨシ多キ此ノ際公ノ意見ヲ得タルニ種々ノ名士ノ論ヲ得タリ

前午曰ク余カ知ル所ニ過ギサルヲ以テ吾輩ハ忽然立テ大々的演說ヲ試ミタリ

寺尾曰ク予ハ忌憚ノ辭ヲ直言ス國ト國トノ關係ハ熱罵ル他ノ道ハ一般ノ大事ノ如ク論ス豈惡ミ嫌ハンヤ

雖家ノ常ニ好ム所ニ非ズト雖他人ノ演說ヲ試ミタリ

博士ハ喉不敏ナルヲ以テ予ハ博士ノ演說ヲ聽ク能ハス

博士ハ舌鋒ノ鋭ナルヲ以テ予ハ博士ノ舌鋒ニ及ハス

博士ハ其大要ヲ述ヘタリシニ予ハ其冗長ニ失シ博士ノ容貌ハ醜惡ニ過ギ

博士ハ怒ルヲ以テ予ハ博士ノ怒ルヲ忽ニ買ヒ

得タル一二ノ要旨ヲ爲メ一二ノ要旨ヲ得タルヲ爲ス

博士ハ而シテ予ハ博士ノ而シテ予ハ博士ノ演說ヲ聽ク能ハス

博士ハ殊ニ予ハ博士ノ殊ニ予ハ博士ノ演說ヲ聽ク能ハス

果テ博士ノ行動ハ實ニ然リ

果シテ博士ノ行動ハ實ニ然リ

セノ原因ハ予ノ大過ナリ

セノ原因ハ予ノ大過ナリ

レニ以テ博士ノ世ノ如ク一般ノ道ヲ以テ博士ノ世ノ如ク一般ノ道ヲ

上博士モ予ノ如ク一般ノ道ヲ

一國ノ大事件ニ關シテ相談ハ始マレリ吾輩各考フル所ヲ述ヘタリ此問題ニ關シテ共ニ一致ノ態度ヲ取ル可キコトヲ決シタリ然レトモ其方法ニ付テハ未タ決スルトコロ有ラザリキ井上博士ハ忽然立テ大々的演說ヲ試ミタリ余ハ其演說ノ時間數ヲ記憶セズト雖他人ノ演說ヨリモ著シク長カリキ他人ハ五分、十分乃至二十分間ニ自己ノ意見ヲ述ヘタリシニ獨リ井上博士ハ熱心ノ餘大々的演說ヲ試ミタルヲ以テ吾輩ハ其演說ノ簡短ナルヲ望ミシモ敢テ之ヲ言ハザリキ既ニシテ寺尾博士ハ冷評ヲ始メタリ其冷評ハ巧妙ニシテ皮肉ナリ寺尾博士ハ頑白ナルニモ拘ラズ稍ヤ惡戲ニ長シ隨テ其冷評ハ巧妙ニシテ皮肉ナリ井上博士ハ怫然トシテ大喝シテ曰ク一國ノ大事件ニ關シテ相談ヲ開ク徹夜辭スル所ニ非ズト衆相顧ミテ微笑セリ

根津中西ノ兩氏及ビ井上博士ガ吾輩ノ會ニ出席セシハ此日ノミニシテ其以後ニハ出席セズ根津中西ノ兩氏ハ國民同盟會錚々ノ人物ニシテ大ニ國事ニ奔走シタリ吾輩ノ會合ニ出席セサリシモ別ニ大ニ爲サント欲セシ所有リシニ由リ其缺席ハ吾輩之ヲ遺憾トセズ然レトモ井上博士ノ缺席ハ吾輩之ヲ遺

ヤノ熟取可キ方法ハ確定セントスルニ當リテ博士ノ故ニ深ク更ニ一人ノ先ツルモ非ズ

將來同志ノ取ルヘキ方法ハ確定セントスルニ當リテ博士ノ故ニ深ク更ニ一人ノ先ツルモ非ズ

其實席上ニ於テ一辯ノ後ニ共ニ同志ノ席ニ非ズ

其實席上ニ於テ一辯ノ後ニ共ニ同志ノ席ニ非ズ

其事ハ以我輩ニ共ニ同志ノ席ニ非ズ

其事ハ以我輩ニ共ニ同志ノ席ニ非ズ

慨トセリ如何ドナレバ其意見ノ大要吾輩ニ同シクシテ終ニ吾輩ト事ヲ共ニセサルニ至リタリ寺尾博士ノ冷評之ヲシテ然ラシメタルカ吾輩ノ微笑之ヲシテ然ラシメタルカ抑モ亦井上博士ノ狹量之ヲシテ然ラシメタルカ何ニモセヨ熱心ニ對露硬ノ意見ヲ述タル井上博士ガ吾輩ト事ヲ共ニセサルニ至リタルハ遺憾ナリ

右九月九日ノ會ニ於テ吾輩ハ相談ノ結果當時ノ內閣總理大臣山縣侯等ニ建議スルコトニ決シタリ而シテ其建議書ノ起草ハ故近衛公ノ手ヲ經テ陸實氏ニ托スルコトニ決シタリ陸氏ハ寺尾博士ト同窓友ナリ是ヲ以テ寺尾博士ヨリモ陸氏ニ乞フ所有リタレバ陸氏ハ忽チニシテ之ヲ快諾シタリ

九月十二日夜又富士見軒ニ會セシ時陸氏及ヒ文學博士三宅雄二郎氏モ亦來レリ陸氏吾輩ニ謂テ曰ク建議書ノ提出未タ以テ足レリトス可ラズ蓋ゾ各自ノ意見ヲ世間ニ發表セサルト富井博士曰ク民法又ハ刑法ニ關シテ意見ヲ發表スルハ易々ノ業ノミ然レトモ政治談ハ余ノ長所ニ非サルヲ如何セント富井博士謙讓ノ人故ニ此ノ言ヲ爲シタルノミ當時中村博士ハ故近衛公ノ帷幕

進午曰近衛公ハ此ノ如クニシテ次第ニ健康ヲ害セラレツヽアリシナリ

寺尾曰予ノ如キ淺學短才ナリト雖其意氣才操ハ私カニ以テ自ラ任ニ國士ト大ニ自ル天狗ナルニ一人ノ者ニシテ其尤ナル者ハ會合ノ席ニ過キス

寺尾曰我輩ノ訂正シタルハ陸氏ノ第二案ナリ其初案ニハ最モ異ノ士ナリ年少ノ故ヲ以テ敢テ言論ヲ縱ニセズト雖意既ニ決スル所アルモノノ如シ余及ヒ寺尾、金井、松崎ノ諸博士ハ熱心ニ陸氏ノ言ニ同意シ議終ニ決セリ將ニ家ニ歸ラントスル時既ニ十二時三十分富士見軒ノ主人懇請シテ曰ク此ノ如ク度々會合セラレ其度毎ニ深夜マデ會合セラレテハ不便少カラス乞フ之ヲ察セヨト

九月二十七日又會合ヲ富士見軒ニ催シ陸氏ヨリ送ラレタル草稿ヲ議セリ陸氏ハ文章ニ於テハ海內第一流タルコト人ノ能ク知ル所而シテ其吾輩ノ爲メニ草シタルノ建議書案ニハ故ラニ綺羅絹繡ノ文辭ヲ弄セスシテ務メテ質朴ノ文辭ヲ用ヒタルハ吾輩ノ大ニ滿足セシ所ニシテ心中陸氏ニ對シテ大ニ感謝セシ所ナリ然レトモ書中記スル所ノ趣意ニ關シテ異議ヲ生セリ其趣意ノ實直ニシテ巧妙ナルコトハ吾輩之ヲ認メザルニアラズト雖吾輩ノ會合ハ則チ小天狗ノ會合ナレバ各自意見ヲ發表シ其意見ノ相合セサル所多キニ由リ止ムヲ得ス衆ノ最モ異議無キ點ノミヲ建議書ニ記スルニ決シ隨テ勢失禮ト知リツヽ陸氏ノ案ニ改訂ヲ加ヘサル可ラサルコトヽナリタリ而シテ之ヲ改

議多カリシ以テ予其訂正ヲ陸氏ニ託シタルノ快諾ニ代リ氏カ當時支那分割論ノ盛ニ喧伝セラレタル其國事ニ重キヲ置カルヽ致スヤ又其雅量ニ敬服セサル能ハス

進午曰顧スレバ當時支那分割論世ニ喧シカリキ

訂シタルノ結果其文章ハ陸氏ノ原案ニ比シテ劣ル所有リシハ數ノ免レサル所ナリト雖吾輩亦之ヲ如何トモスルコト能ハザリシナリ

其建議書ヲ清書スルノ一事ハ之ヲ故近衛公ニ托シ公ハ人ヲシテ之ヲ清書セシメタリ建議書ノ本文寫ハ吾輩ノ手元ニ在ラサルカ故ニ今ヤ之ヲ世人ニ示スニ由無シト雖改訂ヲ加ヘタル草稿ニ依リテ之ヲ觀レハ大體左ノ如キモノナリ

惟ミルニ支那事變ノ善後ニ關シ列國ノ聲言トシテ中外ノ諸新聞紙ニ現ル所ハ概シテ穩當ナリト雖露國ノ滿州ニ於ケル擧動又ハ獨國ノ大兵ヲ送レル意向ヲ察スレバ事實果シテ其聲言ノ如クナルヤ否ヤ未タ遽ニ斷スヘカラサルモノアリモシ名義ノ何タルヲ問ハズ土地ノ領有ヲ敢テスル如キモノアラバ其結果忽チ列國均勢談ト爲リ延テ支那分割論ト爲リ東洋ノ平和ハ容易ニ恢復スヘカラサルニ至ラン帝國將來ノ安危今ヤ一ニ外交當局者ノ技倆ニ繫ル

帝國ハ曾テ東洋平和ノ爲メニ三國ノ忠言ヲ容レテ遼東ノ占領ヲ中止シタリ今若シ支那大陸ノ壤地ヲ割取セントスルノ國アラハ帝國亦同一ノ忠言ヲ與ヘ列國環視ノ中ニ於テ斷然之ヲ抗拒スルハ至當ノ事ナリトス特ニ滿州及ヒ遼東ノ占領ハ列國ノ均勢ヲ傷ケ東洋ノ平和ヲ破ルノ點ニ於テモ帝國ノ同意スヘキ所ニ非ズ加之東洋禍亂ノ動機タル朝鮮問題ハ速ニ之ヲ決セサル可ラズ

軍備競爭ノ狀態ハ今ヤ方ニ東亞ニ移リ滿州及ヒ遼東ニ於ケル露國ノ經營ハ日ヲ逐テ進行シ山東ニ於ケル獨國ノ計畫亦甚タ小ナラズ帝國ハ戰後ノ經營トシテ軍備ニ重キヲ置キ漸ク將サニ完成セントス而カモ今ニ於テ之カ計ヲ爲サスンバ主客ノ勢恐クハ一變シテ朝鮮問題ノ如キモ亦帝國ノ力以テ解決スル能ハサラントス今回ノ變亂ニ際シ帝國カ最多ノ軍隊ヲ送リ最着ノ戰功ヲ立テ以テ北京ノ危難ヲ救援シタルハ實ニ東亞ノ現狀ヲ維持シ世界ト共ニ永ク平和ノ慶ニ賴ラント欲シタルニ因ル列國亦此意ヲ諒トシ事變ノ收結ニ關シテハ理當ニ帝國ノ主張ヲ重視スベシ好機逸スヘカラズ帝國雄飛ノ端ヲ啓クハ洵ニ今日ニアリ

進午曰文穉カニシテ意激シ陸氏ヲ待チテ初メテ此種ノ名文ヲ得

進午曰日英同盟ヲ夢想シタリシナリ

由來帝國政府ノ列國ニ對スルヤ謙讓ノ德已ニ多キニ過グ謙讓必スシモ不可ナルニ非ズ而カモ列國視テ以テ德ト爲サズ反テ帝國對外ノ怯懦ト爲スカ如キ觀有リ顧フニ今回ノ事變ニ關シ列國其利害ヲ一ニセズ普ク其歡心ヲ得ント欲スト雖得可ラズ外交當局者特ニ意ヲ此ニ致シ帝國ト利害ヲ一ニスルノ國ト相提携シ鋭意事ニ從ハヾ庶幾クハ帝國將來ノ安寧ヲ計リ東洋平和ノ基礎ヲ固クスルコトヲ得ン謹テ卑見ヲ陳ブ

明治三十三年九月二十八日

富井政章
寺尾亨
金井延
松崎藏之助
中村進午
戸水寛人

夫レ斯ノ如ク吾輩ハ滿州問題ニ關シテ數回富士見軒ニ會合シ終ニ右ノ如キ

進午曰侯先見ノ明アリ

寺尾曰三略開卷第一曰主將之法務攬英雄之心

建議書ヲ當時ノ總理大臣山縣侯等ニ提出スルコトニ決シ九月二十八日富井寺尾金井松崎中村ノ諸博士及ヒ余ノ六名ハ之ヲ携ヘ車ヲ聯ネテ山縣侯ヲ目白ノ邸ニ訪ヒタリ時ニ午後四時頃ナリ侯ハ吾輩ヲ引見セシニ其態度頗ル恭謙ニシテ其言語甚タ懇懃實ニ吾輩ノ意表ニ出タリ富井博士徐ロニ來意ヲ告ケ吾輩ノ意見ノ大要ヲ語リ各自亦陳述スル所アリタリ山縣侯曰ク日露戰爭ハ到底避ク可ラズ然レトモ余ハ今之ヲ決行スル能ハズ他日日本ハ之ヲ決行スルノ好機有ラン且ツ今ヤ內閣將サニ更迭セントス余ハ貴意ノ在ル所ヲ後繼者ニ語ルベシト侯ハ徒ニ邊幅ヲ飾ラズ胸襟ヲ開イテ吾輩ト語ルモノヽ如シ當日同志ノ一人ヨリ日英同盟論ノ可否ヲ侯ニ問ヘリ之ヲ問ヒシ所以ノモノハ他無シ日英同盟ハ此ノ時ヨリシテ吾輩多數ノ持論ニシテ建議書ノ末ニモ此ノ意ヲ洩シタレバナリ侯ハ此問ニ答ヘテ曰ク日英同盟ハ日本ノ望ム可キ所ナリ然レトモ英國果シテ日本ノ望ニ應ス可キヤ否ヤ疑ハシト既ニシテ夕陽斜ナリ吾輩辭シテ歸途ニ就カントス山縣侯玄關マデ吾輩ヲ見送リ其擧動頗ル懇切吾輩大ニ侯ガ人心ヲ收攬スルノ巧ナルニ服セリ

後若干日ヲ經テ伊藤内閣成レリ依テ十一月二十五日吾輩又車ヲ聯ネテ外務大臣加藤高明氏ヲ駿河臺ノ邸ニ訪ヘリ外交ノ機密ハ吾輩ノ聽カント欲スル所ニアラズ又氏ノ洩ラスヲ欲セサル所タル論ヲ待タスト雖之ヲ外ニシテハ氏モ亦胸襟ヲ開イテ吾輩ト快談セシモノヽ如シ而カモ氏ノ論鋒ノ鋭ナル人ヲシテ好箇外務大臣ヲ得タルノ感有ラシメタリ然レトモ吾輩ハ伊藤内閣ニ對シテハ多大ノ望ヲ屬セザリキ

總理大臣及ヒ外務大臣ノ訪問ハ畧之ヲ終リタリ此事實ガ世間一般ノ知ル所トナラザリシハ大臣及ヒ吾輩ノ間ニ之ヲ祕密ニ付セントノ内約有リシカ故ナリ

進午曰加藤氏ト二時間ノ談話ハ恰モ討キ熱心ハ國事ニ關スル意見ニ及ヒ士友諸氏ノ氏ノ論鋒ハ最モ激烈ニシテ松崎博士ニ吐露シタルモノヽ如シ而カモ氏ノ論鋒ノ鋭ナル人ナリシカ故ニ以テ對スルニ適スルモノヽ如シ深ク謝セサルシテ談論ハ深ク謝スル所ナリ

進午曰信義ハ信義ニ對ス

第二節　六教授ノ對外意見發表

九月十二日故近衛公及ヒ陸氏ノ前ニ於テ相約シタル各自ノ意見發表モ亦之ヲ遂ケサル可ラズ如何トナレバ鋭意興論ヲ喚起スルニ非サレバ吾輩ノ素論ハ之ヲ實行スルニ由無ケレバナリ此ニ於テ速記者トノ交渉其他ノ事務ハ之ヲ小川平吉氏ニ謀リ終ニ意見ヲ發表スルコトヽ爲シタリ其意見ハ則チ左ノ如シ

以印刷代筆寫

諸大家對外意見筆記

（非賣品）

拜啓愈御清穆奉賀候偖今回ノ北清時變ニ對シ我國ノ執ルヘキ方針如何ハ前途國家ノ浮沈ニ關スル重大ノ問題ト存候ヘバ御同然親切ニ之ヲ講究可致ハ目下ノ急務ニ可有之就テハ外交、國際、經濟等ノ諸學ニ精通セル諸學者ノ意見ヲ參考スルハ最モ價値アル事ト存候處幸先輩法學士小川平吉氏カ諸學者ニ就キテ其意見ヲ叩キ筆記セシメタルモノ有之候ニ付同氏ニ請フテ之ヲ別冊ノ通リ印刷致候間御參考迄供御高覽候

敬具

追而別冊諸大家意見中寺尾博士ノ分ハ九月十四日戸水博士ノ分ハ同月十六日中村學士ノ分ハ同月十七日ニ談話セラレタル趣ニ有之候間右御注意被下度候

明治三十三年十月

成田與作

目錄

法科大學教授法學博士寺尾亨君の意見……一
法科大學教授法學博士戸水寛人君の意見……二十五
國際法大家學習院教授法學士中村進午君の意見……四十九

諸大家對外意見筆記

法科大學教授法學博士寺尾亨君の意見

(1)

(問) 今度の支那の事件は詰り支那の變亂ばかりでなくして、日本の世界に對する關係が、此際のやり方に依つて定まるであらうと思ひますので、則ち今度の問題と云ふものは日本の對支那問題にあらずして、寧ろ世界列國に對する問題であらうと思ひます、殊に此東方に利害の關係の深い國、又領土を澤山持つて居る國、露西亞、獨逸、英吉利等に對するの問題であると云ふ事に歸着するであらうと思ひますので、此際に處する方針を定むるには矢張單に支那の事情を勘定して見るばかりでなく、殊に東方に利害の關係の深い露西亞の今日までの方針と、又將來取るであらうと思ふ所の方針及び其他の國が國際的の關係と云ふやうなものは最も能く見て置かぬと云ふと、方針を定むる上に付て大に困らうと思ひますので、其邊の事からして大體承はりたい

(答) 御承知の通り露西亞の南下、即ち露西亞が獨り今の歐羅巴及び西伯利地方に

居るのみで滿足せないで、尙ほ南に進んで世界の大勢を制しやうと云ふ考は餘程古いものであつて、彼の歐羅巴で所謂東方問題が、殆と此一世紀の間歐羅巴列國の外交上の全力を盡くした位に當つて居つたのである、うれは其始め露西亞は土耳古と最も近くある爲に、亞細亞の內の國に接しましたのは土耳古が一番其衝に當つて居る、しかも其古い事を言ひますると、彼の十字軍時代から歐羅巴と關係をして居りましたが、其境を歐羅巴に接して居ると云ふ事から露西亞が先づ土耳古と關係を生じた、土耳古の人種が異なり、宗敎が異なり、又內政も整つて居ないと云ふことよりして其弱點に乘じて土耳古の方面から領土を擴げやうと云ふことを考へたのである、所が此露西亞が南下をしますると、所謂世界の列國の平均とか、大きく言へば大勢の上に甚しき害があると云ふので、歐洲の他の列國が之を牽制しやうとするのである、うれが數十年若くは一世紀以上の問題になつて居る、所謂彼の有名なる東方問題と稱する所のものである、則ち是は土耳古方面の事であるが、うれには屢ば條約等を結んで、今日では土耳古一ヶ國と歐羅巴の一ヶ國との關係は、則ち歐羅巴全體の問題と見做すと云ふことになつて、歐羅巴の一國と事があれば他の國が之に加つて彼の中介、メヂエーションをやると云ふやうな事になつて居つ

て、此方面は條約の爲に露西亞が縛られて居り其慾望を逞うすることは出來ない事になつて居る、其の一例を出しますると彼の黑海の中かに海軍力を無制限に置くことが出來ないと云ふ條約があつた、うれは今日既に千八百七十一年倫敦の條約で其制限だけは廢しましたけれども、まだ彼のダルダネル及びボスフォルの海峽は各國の軍艦が、ごく小さな例外を除くの外は通過が出來ないと云ふやうな事で、黑海內にある所の露國の軍艦は何れの場合に於ても外に出ることは出來ぬといふやうな制限がある、其外苟もあの地方に事がある場合、譬へば希臘の問題に付ては忽ち彼のクレート島を各國が寄ツて平時の封鎖をすると云ふやうなことがある、總て各國が相寄ツて干涉すると云ふことは畢竟條約に基いて居るものである斯かる有樣でございますから露西亞は其方面より南下することは出來ないのである、因て他の方面に向はなければ成らぬ、デ他の方面中中央亞細亞の方から見ますると、此方面が餘程天嶮の地であつて何分進むに困難である、又殆ど無人の境と云ふやうな處もありまして、境界もまだ十分に定まつて居らぬと云ふやうな所であつて、少々進んだと云つても容易に其成効を見ぬと云ふやうな有樣である、是に於て露西亞は極東の方よりして南下しやうと云ふことを從來企てゝ居るやうであ

る、尤も此極東に於て小國とは言ひながら日本が近頃の進歩を致しましたので、猥りに進むことは出來ないから今日では露西亞の爲には日本が餘程障礙物となつて居ります、現に朝鮮地方、又滿州地方等に從來手を出しましたが、彼の滿州に付ては今一々覺にませんが、最も露西亞が着眼して居る所でございますから、從來支那と數箇の條約をして、彼黑龍江沿岸の警戒の事又守備の事等に付ては殆ど五六の條約があつて猥りに進むことは出來ないことになつて居る畢竟これは屢ばあの境を侵しますから因て此の如き條約が出來て居るのである、故に支那が勢力を持つて居つて一國の權力を十分に張ることが出來る時代であれば、あの方面に於ても進み出ることは出來ないのである、されば支那が彼の廿七八年に於て我邦から衝かれた時の如きアノ試みを受けなかつた以前であるならば、露西亞は容易く支那の境を侵すことは出來なかつたのである、尤も隱密に多少の處は侵して居りましたらうか、今日の如く傍若無人に出て來ると云ふことは出來なかつたのである、因て彼の浦鹽斯德の續きよりして、寧ろ此朝鮮半島に手を出すと云ふことの必要を感じたので、是に於て近頃に至るまで常に日本と朝鮮の勢力を爭ふと云ふやうな事が出來て來たのである、尤も露西亞は此方面にばかり着目して居るのではなくして、畢竟此極東の方が從來困難でありますから、中央亞細亞から少し西によつた方の彼の阿富汗斯坦の方面にも餘程手を出して居ります、是は英吉利と專ら衝突をしまするので餘程困難を感ずる、併し是は或は英吉利が印度を領して居る事が久しく領せられないで、終には此地方は或は露西亞に多少侵されるであらうと云ふやうな考を持つて居り、又利益の點から言つても、英吉利が今日の支那に於ける如き將來の望みも少ない、因て英吉利は寧ろ亞弗利加の方に新地を開拓しやうと云ふので、ツイ其結果が南阿事件、トランスバールの事件となつた、大躰の政略から言へばさうなつて居るのである、此の如く露西亞は阿富汗斯坦方面にも手を出して居る、けれども是は餘程困難である、又餘程將來に屬する、容易にまだ今日其方から出ると云ふことは望まれない是に於て露西亞は極東に全力を盡すと云ふことに成ッて來て居るやうである、而して聞く所に依りまするとと今日の如き此清國の事件を利用して、各國共同で清國事件に當つて居りながら滿州に於ては單獨の行動を爲して居ると云ふことは最早爭はれない事實である、又其從來からの計畫も餘程熟して居つて、現に今日では或部分は全く自己の占領地であつて領土の如く見做して居る所もあると云ふ位、八月十二日かの總督か司令官かの布告のやう

なものを見ても、全く黑龍江の右岸の地を露西亞の官吏が管轄して、モウ全く支那の支配を受けぬと云ふやうな事が布告してあります

りれから他の列國の有樣を見ますると、大體の點に於て露西亞の政策に英吉利が反對をすると云ふことは、從來より今日まで繼續しては居りまするが又其他の國々の間の關係を見ますると、是はモウ從來人の知つて居りますやうに彼の七十年の普佛の戰爭、あの結果として、從來の歐羅巴では三國同盟と稱へて、獨逸と墺地利と伊太利とが組んで居ると云ふ有樣であつた、所が其同盟は何時しか無くなつて來まして、今日では彼の佛蘭西が七十年の役の怨みが骨髓に徹して獨逸に仇を復しやうとするのでありますから、獨逸は又露西亞に多少結ばなければ成らぬと云ふ考を起し、佛蘭西も亦露西亞に結びたいと云ふ考を持つて居る、其由つて來る所を考へまするとと、畢竟元は獨佛の關係から來て居りますけれども、佛蘭西の元來の敵と云ふものは、普通の人民は獨逸を以て敵と致しますけれども、少し智識のある者の敵とする所は英吉利である、英吉利とは僅か海峽を隔てゝ居つて商業上なり政治上なり、又彼の航海の上に付きましても屢ば利益の衝突を來すのである、殆ど是は終天の仇とも言ふべきのである、其英吉利が露西亞と利害を異にして、露西亞

の勢力を制しやうとする敵でございますから露西亞の爲には則ち一方では英吉利も敵と云つて宜しい、故に寧ろ露西亞と佛蘭西が組んで置くが宜いと云ふ大きな上の政策と、今一は獨逸に對して少しく牽制する爲に、獨逸が佛蘭西に對しても十分なる力を盡すことの出來ぬやうにと云ふ、其二つの點からして第一に此露西亞と佛蘭西の同盟が非常に固くなつた、所が遂に今日は其同盟に獨逸が這入るやうな事になつた是は偶ま彼の日清戰爭の際の出來事であつて、我邦に對する遼東半島還付の干涉と云ふものが起つた時に、其事の起りは寧ろ獨逸であつたと云ふ話しである、獨逸が此露佛の同盟の中に加つて、さうして三國の干涉と云ふものが出來て來た、何故に加はつたかと云ひまするとと露佛が獨り親しくなると云ふと己れが甚だ危險を感ずるものであるから、露西亞と親密にする者は獨り佛蘭西人ばかりでない自分等も均しく親密にするものであると云ふ、所謂水をさすと云ふ如き精神から此三國同盟と云ふものが成立つたのである、殊に國體から言つても露西亞と獨逸はまた稍〻似た所がある、獨逸も殆と實際はまだ專制國の如き有樣である、殊に今の皇帝の勢力に於ては、露西亞の仕方と殆と異ならん如き行動が出來ますから共になつたものと思はれる、而して此獨逸は支那に於て英吉利と利益を

爭ふ、即ち商業の上に於て英吉利が占めて居る所を獨逸が之を侵しつゝある又必ず之を分けるか若くは一分を奪ひ取らうと云ふ野心のあることは明かである、殊に露西亞は商業上の利益こう多く持ちませんが政略上の利益でナニか儲けやうと云ふ其意思が相合したものと見える、是に於てか近頃の三國の同盟しましたのは歐羅巴の大勢の上の同盟であつて、佛蘭西と獨逸の關係上、歐羅巴の政策上から合併したのでありますが其結果此東洋が――所謂極東が餘程大事になつて來たのであつて、此世界列國の所謂國際問題、今日の世界の問題と云ふものは先づ極東に集中したと云ふても宜しい、何れの國も此支那に付て利益を持つて居る、又何れの國も從來支那は世界中の一大問題であると云ふことを考へて居る、唯從來からの古い大きな國民であつて、一ッに纏まつて居るので容易に手を出すことは出來ない、併し歐米人の目から見ますと人情、風俗、人種、宗教等が異つて居りまして、又支那の支那自身の研究と云ふものが十分出來て居ない、又縱令出來て居つても己れ等の目から見る時には開化の色合が違ふ、方法が違ひますからして矢張り野蠻と見て居る一種の開けぬ野蠻國と思ふて居りますから、此大國の人民が若し發達して世界に勢力を得て、其野蠻なる風俗を普及するに至つては世界の大害である、何とかして之を處分しなければ成らぬと云ふが如き事を唱へて居つたのである、或は併しられは口實であつて、異人種の、則ち彼等から見れば劣等なる所の人種である、其人民の大きなものは成べく之に勢力を持たせない己等の勢力に伏さしめ、又其利益も己等が占めたいと云ふ底意であるか知れませんけれども、口實とする所は此惡風俗を世界に傳播せしめては成らぬと云ふことにして居つた、故にごく正當な方から言ひますること、支那は何とか處分をしなければ成らぬ則ち若し改めらるゝものであるならば、之を歐米主義の開明に導きたい、斯う云ふのである、若し導かれんものであるならば之を我物とする、則ち分割と云ふやうな事が出て來るのである何れに致せ從來富んで居り、又土地も未開發の地であつて、鑛山等の利益も澤山ありますからして、各國の目は總て此極東に注がれて居るのである、デ唯大國民であるからして、猥りに手を下すことが出來なかつた、所ろが二十七八年に、東洋で進んで居るとは見認めて居られたけれどもまだ歐羅巴人の目から見れば、僅に幼稚の地位を離れた位に考へられて居つた所の小國である日本と戰つて、支那が脆くも打負けたと云ふことよりして、是では支那は與し易いものである、我先に其利を取らなければ成らぬと云ふが如き事が出て來たのである、此に於て彼の最も無法であ

ると唱へられた所の獨逸の膠州灣占領と云ふやうな事が出來、名前は借受にしても世界の平和に害があるとして、日本に還付せしめた所の遼東の一部は、續いて露西亞が占領をし其名は一部であるけれども殆ど全部に渉らんとする如き有樣である、佛蘭西も從來南の方に利益を得て居つたのを益々進めやうとするのである、併し佛蘭西はまだ近頃の有樣では餘り從來得て居つたよりも多くの利益は實際には得て居ない、英吉利も北清の方に威海衛を占領すると云ふやうな事になつて居りますか、是は併し既に支那の內部、彼の揚子江畔全體が勢力區域となつて居るので、揚子江畔と云へば御承知の通りアノ長江でありますからして、殆ど支那の中心である所は悉くと云ッても宜しい位非常に廣いものである、それが既に英吉利の勢力區域であつて、商賣上の利益を非常に得て居る、之を尙ほ今後開發するに付ては或は兵力を入れると云ふやうな時期も來るか知れない、さすれば從來英吉利が最も支那に利益を占めて居りましたから、まだ英吉利の勢力の及んで居ない處に他の國が已の勢力を及ぼすか、若くは既に英吉利の得て居る勢力をも分つて取らうと云ふやうな考になつて、要するに今日の所では世界の外交上の要點は、支那地方即ち極東に集まつて居ると云つて宜しいのである

此の如き有樣でありますから、今日こう偶ま一事件が生して、各國か共同て支那の秩序を恢復する、又其以前の仕事として焦眉の急である所の公使或は人民を救ひ出すと云ふやうな事をしましたが、是だけで支那の問題が終らうと云ふことは到底考へられない何れも平生の望みであつた所を達しやうとするのは當然の事である、茲に於て今日差當つて撤兵の問題等か出て來た場合に於ても、或は先だつて之を主張する者があつても外の者は之に應するや否や、それさへも尙ほ問題となつて居る位の事である、又其の撤兵の趣旨の如き何れが眞意であるか、甚だ此外交上の事は測り知られんのであります、而して曩にも一言しました如く飽までも列國共同して支那事件に當ると言ひながら、暴徒の蜂起等を名として滿州地方では露西亞は別に計畫をして居る、而も其計畫は一朝一夕でなくして殆ど全力を盡して居るやうな有樣である、是に至つて我日本は此列國の競爭場裡に這入つて如何に處するかと云ふことは、是も此際に於て十分なる考を及ぼさなければ成らぬのである、若し日本が此十數年以前の日本であつて殆ど世界にも知られない、支那の一部分であるかの如く文盲人には思はれて居る、文盲人ばかりてはない可なりの教育ある者でもさう思つて居ッた位の時代であつて僅かに東洋の端の一小島の國

として、僅かに此貧弱の地位を全うしやうと思ふならば、或は他の爲す所に委して置いて唯其餘澤を蒙るとか、若くは其の眞の餘澤も蒙らんで唯手先に使はれるとか、後に從ふと云ふ如きことで滿足しましたならば、或は進んで事を爲すには及ばないかも知れぬ、併し是とてもです、一個人も同じことで、苟も國として其目的を達して往く場合に唯此引込思案をして居りますれば衰へるより外ないのである、一個人が進取の氣象がなければ退歩して仕舞ふと同じことで、唯守るだけでも守ると云ふ丈の一事では到底國は榮へないのみならず、衰へ或は滅亡すると云ふやうな結果にならんとは限らぬのである、是は唯獨り己を全ふすると云ふ場合でもさうである、況や此日本の人口が本國だけを較べますれば、英吉利や佛蘭西と多くとも少くはないといふ位のことである、又之と同じく國民の自負心から言つて見ても、人種こう異なれ地の列強と多く後れを取らうとは考へぬのである、現に近頃の有樣で此度の事件に於ても兵事上の事等は更に後れを取つて居ないやうである、故に列國も昔の日本の如く小國である。又恐るゝに足らぬ國としましたならば或は度外視して置くかも知れませんが、今日の如き有樣になつた以上は矢張り十分なる一の國家として見做すに相違ない、殊に此極東が世界の競爭の舞臺となつた

以上日本が最も接近して居るのである、而して屢に言ひまする如く相當の智識もあり、益々進歩すべき人民であるからして、必ず其うちに一の十分なる重みは措かれずとも、人一人並のものとは見做されて居るに相違ない、因て此世界の競爭中に日本の態度と云ふものは大に計算の一に這入つて居るものと見て宜からうと思はれる、故に此際は最も我が日本が國際關係上に力を盡して必ず其所信を貫かなければ成りませぬ

抑も日本が若し數年若くは數十年以前より今日の如き地位でありましたならば、此極東の問題と云ふものは寧ろ日本が之を定めて、又日本が之を制せなければ成らぬ位の地位に立つて居るのである、然るを却て强國の國際上の問題を集中せしめて、此極東の問題は極東に專ら利害を持つ歐米人が之を決しやうとして、日本が之に向つて十分なる意見を行ふことが出來ぬと云ふことは甚だ殘念な次第である、若し今少し事が遲くして、今少し日本が發達した時代であつたならば、彼の亞米利加でモンロー主義を唱へた時代の如く、亞米利加は亞米利加人の亞米利加であつて歐羅巴人の容喙すべき所ではない、則ち極東は極東人が獨り之れを知つて居ると云つて、彼の極東のモンロー主義を唱へる時節も到着せないとは限らなかつ

た、然るに稍〻日本の爲には問題が早や過ぎて、今日の如く既に十分なる覺悟をせんければ成らぬと云ふやうな場合に立至つた、然らば今日の場合に於て日本は此極東に於て如何なる政策を採るべきか、獨り極東に於てと云ふばかりでなく、即ち世界の問題が極東に集まつて居りますからして、今日東洋に於て日本が採る所の政策と云ふものは、世界の上に於て日本が採る政策と見ても宜しい位である、元來廣く此東洋に對する日本の政策を言ひましたならば、大別すれば彼の支那は保全するか、若くは支那は分割せらるゝものとして其一部分を取るか、又もう一ッ想像したならば支那は日本が取ると云ふやうな想像も出來るかも知れませんが、それは先づ實際に適せない說である、要するに今日實用となる問題は一方に於ては支那を保全して共に開明に進む、則ち支那を率ゐて往くのであるか、若くは分割の勢ひになつたならば其大部分を日本に占めるであるか、此二つに分れるであらうと思ふのです、尤も今日の實際に於て各國は直に分割と云ふことは口にしませんけれども將來の勢ひに於て或は分割と云ふ結果に至るかも知れません、又今日の各國の內心には分割と云ふことを望んで居る者があるかも知れません、是等の所を一般の大勢の上から見ましたならば、日本は元と支那を分割しやうと云ふことは望まない性質のものでなければ成らぬ、或事情に當つて已を得ざる場合は格別として、出來得る限り、則ち理想としましたならば決して分割と云ふことに同意すべきものではない、如何となれば是はちと大きな話でございますけれども、理窟に於てこう有り得べき事でありませんけれども、從來の歷史に照して見ても則ち實際は英吉利人が印度に對する、又古く言ひますると葡萄牙人、西班牙人等が亞米利加の土人に對した事、又最に述べました土耳古に對する歐洲人の政策、支那、日本、朝鮮に對する歐米各國の態度等に依りますと、兎角に此黃色人種が白人種の爲に壓せられて居ると云ふ傾きがある、口に出してこう、黃色人種を壓倒すると云ふことを言ひませんけれども、多少この趨勢と云ふもの白人種の爲す所の趨勢と云ふものは之を壓しやうと云ふ考がある、既に彼の黑人種の如きは最早壓服せられて居ると云つて宜しい、獨り黃色人種がまだ壓服し得られずに居る、それは畢竟日本人が重きを爲して居ると言ひたいでありますけれども其實さうでない、支那といふ黃色人種の一大帝國があるからの事である、デなか〳〵のまだ從來からの勢力でありまして、爲し得べくんば日本は彼の同文の國であり、同人種の國であり、風俗を同うし、敎えの同じき國である、又從來の關係も最も深い國であると云ふやうな點か

ら言つても、又彼の唇齒の關係であると云ふ利害の點から言つても、之を導ひて今日の日本の如く、尙ほ將來の日本の如く率ひて、せめて此極東の黃色人種なりとも一致して彼の極東のモンロー主義と云ふものを貫くと云ふことは、出來難い事としても望むべきことである、尙ほ出來得べくんば南方の彼の暹羅等から、ずつとマラッカの方、それから印度を繫いで、阿富汗斯坦から波斯、土耳古と云ふやうに、少し大きな事にはなりますが印度人則ち黑人種を率いて黃色人種が白人種に當ると云ふやうな考も、空想かも知れんけれども起しても宜いことである、其位の事でございますから無論支那は保全すると云ふことが日本人の採るべき正當な政策であると言はなければならぬ、併ながら事は理論の如く往くものではない、又其時機によつては多少變じなければ成らない、若し日本の希望を達することが出來ない、又其力が及ばない、時期が早過ぎたと云ふことで彼の歐米に於ける支那分割論の如きものがあつて、果して分割をせらるゝ云ふことの場合に當つたならば、必ずしも平生の所論のみを執ッて、支那の國を脊負ッて立つて列國に當ると云ふことも出來兼ねる、是は又利害の關係も考へ、或は分割の一部に這入ると云ふやうな事も必ずしも無いとは限らんのであるが、一般に善いと信じた所の政策を貫く道があつたならば、飽までも其道に依らなければ成らぬと思ふのであります

而して今日の各國の中でいづれの國が分割しやうと云ふ決心即ち支那の領土を蠶蝕しやうと云ふ考を持ッて居るかと云ふと、是は最早明かであると云つても宜しい即ち最も甚だしいのは露西亞である、曩にも述べました如く現に此滿州地方等は常に蠶蝕に懸つて居り、又既に最早蠶蝕して居ると云ふても宜しいのである、所が日本は支那を保全すると云ふことを元來の政策としましたならば、飽まで其意思は達しなければ成らない、若し此際に於て其所信を貫くことが出來ないとなれば、將來に於ても最早日本が世界の中に出て、則ち今度が初舞臺である、初舞臺に出た時に出來なかつたとすれば、將來に於ても世界の舞臺には出られぬものと見做されても致し方はなからう、是に於て幸にして數年以前より國力も養つてあり、尤もこの廿七八年の戰役の餘弊を受けて未だ其疵傷が癒らんので、少し事は早くありましたけれども、廿七八年に戰さをした時代から見ましたならば、最早國力も殆と二倍ぐらゐにはなつて居りませうし、又兵力等の點に於ても、爾來軍備擴張と云ふことで國民が非常な負擔をして居る位でありますから多少出來て居ると言はなければ成らぬ、三十五年の計畫が僅か一二年早かつたと云ふ位の事でありま

すから出來て居なければ成らんのであります、デ兵力があるからして直ちに戰ふと云ふのではありませんが、兵力は元と一國の所信を貫く爲めの必要なる機械でありますからうれが一通り整ふてあるとしたならば、飽までも自己の主張と云ふものは通さなければ成らぬ、而して若し其の主張が通らなかつたならば兵力にも訴へると云ふ決心が無ければならぬのである、又國家の行動から言つても既に兵備の爲に多額の金も費して居つて、着々うの軍備の擴張と云ふこともして居るのであるから、時機が少し早かつた位の事で兵力は弱いと云ふことを言つて姑息な處爲をすると云ふことは、一國の政府としても國民に濟まない譯である。又國民に濟まないと云ふ政府の處爲ぐらゐな事は小さな事でありますけれども、其政府が責任を負ふだけの事であるが、日本國民として此際十分なる覺悟をして十分に所信を貫くことの出來ないとすれば、最早世界に日本が望みのないものである、望みの無いのみならず彼の退嬰主義と云ふものに成りましたならば、殆と是から進むことが出來ないのみならず寧ろ退かなければ成らぬと云ふことになる、僅かに進み掛けた所のもの、自らこう世界の强國である、文明國であると信じて居つても寧ろ是は少し自惚であつて、殆とうれと同等になつたと云ふ位なものであるまだ〳〵

ナカ〳〵同一には往かんのである、うれが今此の際に退くとすれば全く本に歸つて仕舞ふ、之に反して此際非常な決心を以て國民が十分なる態度を取つて世界の舞臺で一ッ働いて見ましたならば、將來は眞に進歩した國民の一となる資格が出來るであらうと考へますので、茲に至つて實際の手段はどうするか、然らば如何なる方法を執るかと云ふことである、又其態度を執つた結果が如何であるか、是は專ら外交の政略、外交の手腕によつて種々な關係を附つけなければ成らぬ、直ちに兵力を用ひると云つて効をなすものではない、外交の手腕による事が最も必要でございますが、是には國民の輿論と云ふものが後栖になり、又國家の兵力、國家の金力と云ふものが後ろになかつた日には到底出來ない事である、而して其兵力を用ひ戰さをするに付ても、國民の輿論と云ふものが非常な助けをなし、又此金力と云ふものも國民が十分の決必をすれば、今日の所で多少の無理であるかは知れませんが決して堪へないと云ふことは無いであらうと考へるのであるデ今日露骨に言ひますると、今日の露西亞の行爲の如きは、明かに日本の執る所の政策と相容れざるものであらうと考へる、因て之を一つ制することを爲なければ成らぬ、之を制するに當つて十分なる決心を持つと云ふならば、其の以前に種々各國との交渉があ

つて、所謂この外交と云ふものが最も必要である、此外交のしやうておざりますが、是は外交家に大手腕があるか否やと云ふことを能く世間で言ひますが、さほどの大手腕でなくとも各國の勢ひの上から言つて隨分出來難いことはないであらうと思ふ少しく是は外交上の事に渡りますが、先づ此大勢の上から論じて見て、世界の列國の中で假に露西亞に對するものとしたならば日本は、單獨で之に對するは、無論政畧上外交上に於て單獨で事は爲せぬであるから、各國の利害の點から割出して、英吉利と亞米利加の如きは無論支那保全と云ふ――少なくも今日に於ては支那保全といふことの利益を持ッて居るに相違ない、英吉利は從來殆と支那の咽喉とも言ふべき商業上の實權を握ッて居る、既に得て居る所の實權を失ひさへ爲なければ宜しい、他の國から取られなければ宜しい、又區域が廣い、區域が廣いから未だ一體に及ばぬ位でありますから、其處を保つて置いて、さうして其處に往けば宜しいのであるから、却て他の國が來て妨げることを恐れる、則ち分割と云ふ如き事に付ては反對しなければ成らぬ地位に立つて居る、因て日本の主義と云ふものは贊成するに相違ない、併し是は尙は進んで、或場合に於て、極端にまで共同して日本と事を爲すや否やと云ふことは疑はしいのである、けれども何れか其の同情を

表し、多少の便宜を與へる位の事は外交上で出來なければ成らず、又隨分出來得べきであらう、さうして見ると他の一方に於て、露西亞と主義を同くして居るものは何處であるか獨逸の如き寧ろ商業上で英吉利と爭つて居るのでありますから、直に土地を望むと云ふことはないやうに思はれる、併し彼の膠州灣を占領した如き有樣、其他近頃の政策では隨分突飛なる行動がありますから、或はうれに同情を表して、露西亞と同一の目的で進むかも知れんのである、殊に從來の同盟と云ふ點からして、縱や是は共同で事をせなくとも、彼に同情を表すると云ふことは、恰も英吉利と亞米利加が日本に同情を表すると同一と言ひたいが、或は尙ほうれよりも一歩進むかも知れんです、うれから佛蘭西はどうであるか、是は是迄北清の方には餘り利害を持たないで、重に南清に關係を持つて居りますのでありますが、併し支那全體の上に於て固より利害の關係のない事はない、寧ろ是も少し畧地主義で南の方から北に上ッて來掛かつて居るのである、デ北清に直接の利益は持たんけれども、是は近來露西亞と最も親密なる交際をして居つて、所謂感情の點に於ても同一の行動に出るものと見なければ成らぬ、果して極端の行爲に付て同意するか、うれに實際加はゝるか否やと云ふことは一の問題でありますけれども、是は或は加は

ゝるかも知れぬと言はなければ成らぬ

デ是等の次第でありますから、餘程此度の事は熟慮を要する事には相違ないが、大體の點に於ては從來其勢ひが雙方に分れ日本の執る所の主義を貫徹しやうとしても、決して日本か單獨なる孤立の行爲ではなからうと思はれる、而して其に對する所の實力の强弱等の事に至ッては、或はこの軍事上の問題もありますからして私共の細かに知らん所でありますけれども、聞く所に據れば隨分やつてやれぬ事はなからうと考へられる、無論此極端の行爲に往くに當つては勝算が無ければ成らぬのであるが、稍〻等しき力と見ましたならば此際には是非進んで其處まで往くべきものと考へる、如何となれば若し此際に之を決心しなかつたならば、將來日本の發達が出來ない、獨り發達が出來ないのみならず、或は國家の安危にも關すると云ふことになる以上は、縱や萬全の策でなかつたとしても尙ほ進まなければ成らない、況や軍事上の事を聞いて見ましても、或は細かに計算をしましたならば十分なる見込があるかも知れんのである、何れに致せ是れは好い方から見ますれば千歲の一遇であつて、日本國民が將來發達の出來るや否やと云ふ問題である、又惡い方の點から見ましたならば、日本の危急に迫つて居る所の秋であると言はなければ成らぬ、因て國民が十分の決心が必要である

私共は平生政治上の事に付ては、其地位から言つても容易にまづ自分の說は持つても猥りに吐くと云ふことはせないのであるけれども、此節の如き實に一國の大事とも云ふことになつたならば、國民の本分としても必ず默して居ることが出來ぬのでありますから、一應意見を述べる次第である

法科大學教授法學博士戸水寛人君の意見

此頃支那の戰爭が起つてから日露同盟論などと云ふものが時としては出て居りますが、私などから見ると餘程たかしな議論と考へる、露西亞人の輿論を知らぬ議論と考へるシベリヤ侵畧の歴史から考へて見てもさう云ふ論は爲し得べからざるものと思ふ、先づシベリヤ侵畧の大要を申して見ると、露西亞人は餘程古い時代にはウラル山を以て世界の限と思つて居つた世界はウラル山より先には無いものと思つて居つた、所が彼の毛皮を商賣にして居るものが良い毛皮を得やうとしてもどうも良い獸皮が無いから、ソレを探すと云ふ爲に段々ウラル山より先きへ來て始めて其先を發見したので、ソレは重にノヴゴロッドの商賣人とモスコーの商賣人ですなア、さう云ふ譯で始りは素より互ひに知らなかつたが後に互ひに相知るやうになつて來た其事柄がだん〳〵に盛んになつて來たのは丁度イバン三世の頃であります、イバン三世の頃と言ひますと十五世紀の終りです、其頃にだん〳〵盛んになつて來たのです、それから其後にイバン四世が帝位に即いてから後の事でありますが、アノ露西亞にヤルマックと云ふ豪傑が出て居る、ヤルマックと

云ふのは元とは露西亞のドン河附近の一の勞働者であつたけれども身を立てゝシベリヤを治めるの大立者とまでなつたです、丁度其時代にスツロガノフと云ふ金持があつたのです、其金持の金をヤルマックが利用してシベリヤへ出て大いに其働きを顯はした、其時代は蒙古人の中にクチユームと云ふ一人の豪傑があつた、クチユームの住んで居つたのはシベルと云ふ處で今のシベリヤの西の方になつて居ります、詰りシベルと云ふ町の名からシベリヤと云ふ國の名になつたものだ、ヤルマックが此クチユームと大いに衝突して終ひにはクチユームを逐退けて仕舞つた、所がクチユームも中々にらい人間だつたものだから後にヤルマックを襲ふて之を殺して、一世の大豪傑たるヤルマックは遂にクチユームの爲に殺されて仕舞つた、ソレは千五百八十四年で丁度我邦で秀吉が明智光秀を殺した翌年です、けれどもヤルマックを殺した所のクチユームと云ふ人も後に蒙古人の爲に殺されたです、さう云ふやうに大豪傑たるヤルマックは人に殺されたと云ふやうな譯でありますけれども、ヤルマックの事業が土臺になつて露西亞がシベリヤを横領するやうになつたのです元來此シベリヤの川は幾つもある即ちヲビ川、エニセ川、レナ川など丶云ふいろ〳〵な川がある是は皆南の方から北の方へ流れて居りま

す、尤もシベリヤの地勢が南の方から北へ行つて居る、併し其支流と云ふものは東の方から西の方へ行つて居るのもあれば西の方から東の方へ行つて居るのもある、だから其支流と云ふものは殆ど相繋つて居る、うこで露西亞人が西の方から支流に傳はつて段々に東の方に行つたです、其間にはいろ〳〵の事がある例へばツングーセスと云ふ土蕃を征服させたり、ブリアツツと云ふ土蕃を征服させたり、ヤクートと云ふ土蕃を征服したりしたゾレを征服するに就ては中々激しい虐殺を行つたりした事があつて、何でも無闇に叩殺して行つたのです、ソレは餘程古い事でありますが、うれよりズツと後にムーラビヨフと云ふ一人の豪傑が出て居る、ムーラビヨフの居つたは即ち十九世紀の始りです中頃ではあるけれども寧ろ初めの方に屬して居るです、是は先達てまで外務大臣をして居つたムーラビヨフの祖父と記憶して居ります、是がシベリヤの總督となつたのは何年であつたか年は記憶しませんが年齡を言ひますと僅かに三十七であつて、珍らしい拔擢の者であつたから餘程人の注目を惹いたのです、此若いムーラビヨフが中々のやりてでありましてズン〳〵と方々を治めて行つた、シベリヤを經營した人はいろ〳〵ありますけれども先づ豪傑と云へば二人であつて、前にヤルマックが居つて後にムーラ

ビヨフが居つて、うれでシベリヤの經營と云ふものは出來たのです、露西亞人が樺太を島であると云ふことを發見したのはムーラビヨフ時代であります、大分前に露西亞人は樺太へ來たこともあるです、即ちコレツツフと云ふ人などは千七百四年に樺太へ來たことがある、千七百四年と云ふますと丁度忠臣藏の仇討よりも少々後であります、其古い時分に露西亞人が來たこともあるけれども、併し樺太などはみんな半島だと思つて居つたので、本當の島だとは考へて居なかつた、ムーラビヨフの頃にネベルスコーイと云ふ人が又船で東洋へ來て居る、此人が樺太が島であると云ふことを發見して驚いてムーラビヨフに告げたことがある、其が千八百四十八年か又は其翌年で即ち間宮林藏が死んでから四五年後であります、露西亞人が支那人と結んだアイグン條約と云ふのは是はムーラビヨフの働きに基いて居るのです是よりズツと前に露西亞人と支那人と條約を結んだ事があるうれはネルチンスクの條約で千六百八十九年に成立つて居る、ネルチンスクの條約では餘程支那人の爲に利益のあるやうになつて居る、其條約の結ばれたのは丁度清朝の初りで康熙帝の時代で、アノ康熙帝と云ふのは中々喰へない人間で其條約を結ぶに就て二人のゼスートの坊主を雇ふて居る、天主教の中にあるゼスートです、此二人は羅甸

語が能く出來る、愈々露西亞人と談判する時になつて、其坊主が羅甸語を操縦すること自由自在であつた、其時の露西亞の使節にはさうゐらい人間もなかつたからメチヤ〳〵に言くるめられて仕舞つて、腕力で行かうとしても康熙帝の方にも十分用意があるからさう云ふ譯にはいかぬ詰り言葉の點に於ても腕力の點に於ても露西亞の使節が屈して仕舞つて、餘程支那の爲に利益ある條約を結ばしめた事が出來たのであります、ムーラビヨフの支那人と結んだ條約はソレと反對で餘程露西亞に利益のある條約であります、ムーラビヨフが結んだアイグン條約と云ふのは千八百五十八年であります、其條約に依て露西亞人がアムール(黑龍江)地方を得たのであります、うれから二年後に夫の有名なるイグナチエフが北京へ來て北京條約を結んだ、是は千八百六十年即ち我が萬延元年であります、其時に結んだ北京條約に依てウスリ(烏蘇里)一帶の土地を得たのです、此の頃になりて來ますると露西亞はアムール地方やウスリ地方を取つた丈で滿足せぬので、猶ほ西比利亞鐵道を布設しつゝある次第であります、西比利亞鐵道は素はオストロフスキと云ふ人の計畫に基いたので、概算三億五千萬ルーブル即ち我日本の四億圓計の金を投じて布設する積りで、既に其の内の澤山の金を費して餘程澤山の里數に布設をし

た、處が西比利亞鐵道は迂遠だと云ふので又滿州鐵道を計畫した、露西亞の眼から見たら善は急げで瞬間に哈拉賓近傍には既に幾らか鐵道を布設した、今後益す進んで滿州を通じて之を布設することは眼前に見ゆる樣で有りませんか、元來西比利亞と云ふ所は西北が無暗に低くて東は高いです、うだから、西比利亞鐵道の西の部分は時として水に浸されることも有りませう、千六百六十九年には西比利亞西部のタラと云ふ市は洪水の爲めに一時外に遷つた事もある位です、又此等の部分には冬になると霜柱が立つてレールを痛めるも有りませう、西比利亞鐵道にはこんな弱點もありますけれども、何にせよ、露西亞は西比利亞滿州の鐵道を利用して東洋を壓倒する計畫であります、斯ふ云ふ譯で露西亞人は昔時より今日に至るまでモウ如何なる困難を經ても構はぬ、幾ら人間を澤山殺しても構はずに西の方から東の方へ侵畧して來たのです、斯の如くなる所以を考へますと云ふと露西亞人の輿論が然らしむるのであります、露西亞人の輿論で言ひますと露西亞の皇帝と云ふものは羅馬皇帝の相續人と思つて居る、東羅馬の皇帝の相續人だと思つて居るわれは其譯があるのです、露西亞で始めてツアール則ち皇帝の位に即いたのはイバン四世で、其前までは露西亞の君主はツアールと言はなかつた、ツアールの

位に即いた時に僞系圖を作つたです、露西亞の皇室と云ふものは羅馬の始めての皇帝のアウグスツスの血統であると云ふことを言つたのです、だからイバン四世が始めてツアールの位に即いたのは羅馬皇帝の相續人として位に即いたのです、イバン四世はリユーリツク家でしたが今の皇帝はリユーリツク家でないローマノフ家です併ローマノフ家はリユーリツク家の跡を繼いだゝけの事でありますから、露西亞人の眼から見たならば露西亞の皇帝は矢張り羅馬皇帝の相續人であります、羅馬は元來世界を横領しつゝあつた國である、だから露西亞人も矢張り昔から世界を横領する積りで居つたのである、現に古い時代に於て彼得大帝ですなアの方の蠻民などは宗教で以て取ることも出來るなどゝ云ふことを言つて居る、日本にニコライなどが來て居るのは多分其雄圖を襲ふて居るのでありませう、それから彼得大帝よりも少し後にです、彼得三世位の頃に當りませう、露西亞で日本語學校を興した事がある、何の爲に日本語學校を興したか知りませんけれども恐らくは日本を併呑するの積りでやつたらうと思ひます、ソレを興したのは日本で言ふと物徂徠だとか新井白石、室鳩巣などが死んでよりも少し後の事であります、日

本は矢張り強くない時代でさうして露西亞の勇氣と云ふものは益々振つて居つた時代でございます、又其後大豪傑たるムーラビヨフがシベリヤの都たるイルクツクに居つて東の方に發するに臨んで宴會を張つたです、其時に出來ました詩を見ると云ふとりれは中々にらいことを言つて居る「ゼンギスカンの支配した土地」などゝ云ふことを言つて居る、「大豪傑たるゼンギスカンの支配した土地」と云ふことを言つて居る、世界併呑の氣性と云ふものは其處に現はれて居る、露西亞人の眼から見ますと露西亞の皇帝は羅馬皇帝の相續人であつてしかもゼンギスカンの支配して居つた土地に君臨して居るから益々其雄圖を繼いで世界を併呑しなければならぬと云ふことは露西亞人の輿論であります、日本人民が事を爲す時には深い考はないでいつも眼先の事を考へて居るのですが、露西亞人などは中々さうでない、中々大きな目的を立てる、さうしてソレを遂行するに就ては格別急ぎはしない、何百年かゝても構はぬ、必ずソレを爲遂げると云ふ氣性を有つて其事に當つて居るです、今日の露西亞人は即ち世界併呑策と云ふものを始終頭の中に畫いて居つて、何百年たつてもソレを爲遂げるといふ方針を採つて居るのです、ソレでシベリヤなども東の方から西の方へだん〳〵侵掠してさうして貪婪飽くことなしと云ふ有樣である、其事を遂げる所の豪傑連中は必ずしも其事柄を豫じめ本國に諮ると云ふことはないので、ヤルヤックが仕事を爲すにもムーラビヨフが仕事を爲すにも一々本國へ報告して其命令を待つと云ふことはせずに、隨分越權の處爲をやる、やり損ずればうれ迄のと若し成功すれば本國政府の爲に褒められる、近頃露西亞公使が朝鮮に於て馬山浦を請求した事がある、アレなども本國政府の命令ではあるまいと安心して居つた日本人もあつたやうですが頓だ間違だと思ふです、本國政府の命を俟たずしてやつた仕事でもソレが成功するといつも本國政府はソレに贊成して居るのです、夫れから露西亞が元來貧婪飽くことなしなどゝ云つて人が惡口を言ひますけれどもうれは一方から見ればさうかも知れませんが他の一方から見れば中々大きな希望を懷いて仕事をして居る、寧ろ欽慕しなければならぬと思ふ位です、正義などゝ云ふことは必要であるけれども又一方に於て雄大なる企畫を爲すと云ふ事も亦必要であらうと思ふです、日本人の雄大の氣性なきとは私等の嘆じて居る所であります、何れにしても露西亞人がさう云ふ譯で雄大な氣性を有つて世界併呑策を立てゝ、だん〳〵東の方に侵掠して來たのでありますから、日本人などは一方に於ては之を看做ふ事も必要であらうけれども、又

一方に於ては大いに防禦の策を講じなければならぬと思ふ、今日の日本の狀態ではなか〳〵微力であるものだから一時露西亞と結ぶと云ふことは或は必要であつたかも知れぬけれども、それは遼東半島還附以前に於て企つべき事と考へて居るです、日清戰爭以前に露西亞と相俟つて衝突しないやうにしたならば、ソレは外交から言つて見たならば餘程宜かつたらうと思ひます、けれども日本の外交家が敏腕でなかつたが爲に、盲目であつたが爲に無謀な事をして、遂に三國の干涉を蒙つて大恥辱を受けて遼東半島を還附した、還附してから後に今度は日露協商が必要だとか日露同盟が必要だとか言つた所で、それは餘程遲いと思ふです、假りに日本人の方で同盟をすると假定しましても露西亞の方では大いに疑ふです、勢ひに反して居るから露西亞人は大いに疑ふです、日本の方で和睦しやうぢやアありませんか、仲好くしやうぢやアありませんか、手を握らうぢやアありませんかと言つた所で露西亞人はなか〳〵承知しない、日本人はあんな甘言を吐いて居るけれども本當の心ぢやアあるまい、我を害するの心を以てあんな巧いことを言つて居るのだらうと思ふのは當然であります、兎に角日露同盟など〻云ふことは到底行ふべからざるの議論であります、シベリヤを通つて來た人の話、並びにシベリヤに居る

人から私の處へ來た手紙に依て考へて見ますとどうも露西亞人は早晩日本と戰爭はあるものと信じて居るらしい今度の支那騷動の起つた時などは今にも露西亞と日本と衝突して大戰爭になると考へて居つたらしい、尙ほソレばかりではありませんで日本で生じた大津事件が露西亞と同盟の妨害をなして居る、アノ事件があつたが爲に丁度大津で事の生じた月日が來ると云ふと露西亞では坊主を集めて經でも讀まして大供養をやると云ふ有樣になつて居る、それから津田三藏が露西亞の皇太子、今の皇帝を殺しかゝつた圖などを書いて置くと云ふやうなことである、露西亞の皇帝と云ふのはアノ希臘教一名露西亞教と關係のある皇室であつて、斯う云ふやうな事があると云ふと矢張り人民一般に好く思はぬそれは皇室のみに生じた事柄だと云つて捨て置かぬです、斯の如き時代に於て日本と露西亞と同盟をしやうなど〻云ふことはそれは愚論であります、今の外交家は時として外交では今日の敵は明日の味方である、明日の敵は今日の味方である、始終變化して行くものであるから一時衝突しても今又同盟は出來るものであると云ふことを言つて居るです、成程ソレは通常の有樣ではさうでありませう、けれども先程申しました事情から考へて見ると云ふと、どうしても日本と露西亞との同盟はむづ

かしからうと思ふです、一方に於ては露西亞は土地を侵掠したいと云ふ希望を有つて居るし、他の一方に於ては日本人の感情も露西亞人が害して居るし、又露西亞人の感情を日本人が害して居る、斯う云ふ時代に於て寧ろ同盟論などゝ云ふことは止したが宜からうと思ふ、露西亞人は日本人と早晩戰爭があると思つて居る、日本人もさう思つて居るです、だから今日の日本人はマア露西亞と戰爭は免かるべからざるものとして一時の計畫を立てるより外なからうと思ひます、戰爭をするに就ては向ふの都合の好い時に戰爭をしますか、日本人の都合の好い時に戰爭をしますかと云ふに、それは無論日本人の都合の好い時に戰爭するより外なからうと思ふ、私の考では今日が最も日本人の爲に戰爭するに都合の好い時であります、戰爭するに就ては兵力を計らなければならぬのであつて私は素人であるけれども之に付ては非常に骨折て處々奔走していろ〳〵其事に明い人に就いて聽いた事もある、海軍部内の秘密陸軍部内の秘密に至つては到底知ることは出來ないけれども、どちらが勝つだらうかと云ふ位の考は付いたです、無論日本の方が戰爭に勝つのです、若しも日本人が露西亞人と戰爭したならば必ず獨逸は露西亞人に加擔するでせう、佛蘭西人のことは能くは分らぬけれども或は又露西亞人に加擔す

るかも知れないだから日本人が戰爭の決心をする時には先づ此三國を相手にして戰爭をすると考へなければならぬです、それに就てはどうしても日本人が英吉利人と亞米利加人の同情を得ると云ふことが必要です、同情を得やうと云ふにはソレはいろ〳〵の方便もありませう、方便の詳しいことは唯今申さなくてもいろ〳〵の方便がある積りです、日本の外交家は此點に就て餘程力を盡して欲しい、外交家のみならず他の人と雖も機會があつたならば此點に就て十分に力を盡さなければならぬと思ふのです、世人の言ふ事を聞きますると、英吉利の同情を得ることは餘程六かしいと言つて居るものも有ます、けれども決してそんな心配は要りませぬ、英吉利は昔から露西亞の敵で殆ど不俱戴天の敵の如くに考へて居ります、加之、東洋に於ける獨逸の行動に付ては甚た惡い感情を抱いて居ります、其譯は獨逸は近頃御存じの通の商業國となりて大に英吉利と競爭をして居ります、特に東洋に於ては獨逸の勢力は著しい進歩をなしたので、英國は商業の敵として大に獨逸を恐れて居ります、此の如き有樣なるに獨逸は今回支那騷動を機會として過大の軍隊を東洋に送りて、風説によりますると山東省と江蘇省を取る考だろうです、山東省は商業には格別益に立つ所で有りますまいが、江蘇省は一體どんな場所です

か、楊子江も之を通るので、若し獨逸が江蘇省を取ることにならば、上海の對岸は獨逸に屬する事になります、うすれば、獨逸は楊子江の商業を支配するに至極便利な地位に立ちますから英吉利の憂國の士は今日に於ては既に獨逸に對して甚しき惡感情を持て居ります、こんな時代に於て日本が露西亞や獨逸などの聯合艦隊と戰はゞ英吉利の同情を得ることは六かしくは有りませぬ、英吉利は日本の勃興に付ても多少懸念することゝ思ひますけれども日本よりもいくら露西亞や獨逸を厄介物に思ふかは知れませぬ、若しも英吉利人が日本人に同情を表して居ると云ふと亞米利加人も亦同情を表するのです、亞米利加と英吉利と云ふものは始終附いて廻つて居るです、此二箇國が嚴正中立を守ることにしたならば日本人が三國を相手にしても譯なしに戰爭が出來る、若しも英吉利が嚴正中立を守つて來たならば獨逸人にしてもさう澤山の軍艦を歐羅巴から日本に送る譯にいかぬです、送る時はソレは英吉利などは默つて居るかも知れぬ、獨逸や佛蘭西の軍艦がスエスカナル(蘇士運河)を通る場合に行く時には默つて居るかも知れん、併し送つて仕舞つてから鎖ざゝれると……英吉利の軍艦で締付けられて仕舞ふと始末にいけないものになる、嚴正中立と云ふ時には素より締付ける筈はあり

ませんけれども、此嚴正中立と云ふものはイツ破れるかも知れん、固く守つて居る英吉利人がいつ中立を破るかも知れんのでありますから、兎に角中立の態度を示して居る時には澤山の軍艦を送つて呉れやうがないのです、さうなつて來ると日本人が露西亞と獨逸と佛蘭西の三國を相手にして戰爭をする事は容易の業であります、此事は處々奔走して餘程骨折ていろ〳〵の軍事のことに明るい人に就て聞いて私は結論を得たのであります、尙ほ軍事上の詳しいことは直接に軍事のことを知つて居る人に聞いた方が宜からうと思ひます、それから或は經濟上に就て杞憂を懷いて居る者がある軍艦は十分あるかも知れぬけれども金が無いから戰爭が出來ぬと言つて居る人も隨分あるやうですけれども、日本では中々金は澤山あるです、三種基金と稱して居るのがマア五千万圓ある、其内今度の支那騒動に就て幾らか使つた其額はしつかりした事は知りませんけれども概算七百万圓位でありませう、さうすれば四千三百万圓たけは殘つて居る勘定である、其外にまだ英吉利に在る日本の正金銀行などに貯へて居るものとか、其他政府の使ひ得べき金額が八千万圓以上あります、だから概算一億三千万圓ばかりと云ふものは日本の政府が使ふことが出來るのであります、外に澤山の金を使ひさへしなければ貧乏

で戰爭が出來ぬなどゝ云ふことはないことゝ思ひます、此前の日清戰爭の時に歳計剩餘と稱して居つた金額が僅か二千万圓しか無かつた、ソレですら財政に差支ないとして日本人が支那と戰爭して居る、其金額と今日日本の政府が左右し得べき金額と比較して見ると今日のは昔日の五倍餘になつて居る、之を金額にして見ますと一億三千万圓の内から日清戰爭に使つた額の二千万圓と云ふものを引いた所で一億一千万圓ほど餘計ある、そんなに澤山金があるのに貧乏で戰爭が出來ぬと云ふことはない戰爭もかなり長引くに相違ないけれどもソレだけあつたら澤山だらうと思ふ、若しも足りなかつたならば内國債も起すことが出來るのである、今日の狀態では内國債を募る事はむづかしいかも知れませんけれども、イザ戰爭となつて來れば實業の方に費す資金と云ふものも幾らか浮いて來る、だから内國債なども無論應ずる者はある、且又其の金額の全部を悉く歐羅巴へ送ると云ふのでなくして、幾分かは歐羅巴へも行くには相違ないが大部分は日本人の手に落ちる、だから金の點から見ても日本人は戰爭するだけの餘裕は十分ある、素より戰爭をすれば痛みは生ずる、多少困難を生ずる者もある、其中でも一番困難を生ずる部分は誰かと言ふと株屋です、株屋が一番困難を感ずるに違ひない、ソレに次い

では御用商人位は困難を感ずる、けれども實を申しますとりんな奴が困難を感ずる程却て日本は幸福です、今日本には金が無いから戰爭をすれば困難を生ずるなどゝ云ふ論をするのは株屋と結托して居る奴等でありませう、りんな奴はどこ迄もいぢめてやらなければならぬと思ふです、惡るい株屋などゝ結托するやうな奴は人間であつて人間でないと思ふ、りんな奴等はドシ〳〵攻擊してやつたら宜からうと思ひます、詰り私はどこ迄も主戰論者であります、戰爭しなければ日本國が到底枕を高くすることは出來ぬと思ふ、

ソコで今から數年遲れて戰爭をしたならばどうかと云ふ議論も出るかと思ふが數年遲れては駄目であります、若しも數年遲れると云ふと旅順の防備がなか〳〵盛んになる、旅順にドックも十分に出來上ると云ふ譯で、今日もドックはありますけれども未だ完全しませんが、數年の後になつたならば必ずアレは完全になるに相違ない、さうすると云ふと戰爭の爲に軍艦が壞れゝば忽ち其處で假修覆をする事が出來るのでありますから日本から見ると餘程困ることです、然るに今日は旅順のドックは十分でなし又石炭も澤山は有りません其上露西亞は此頃非常に財政困難です始末に行かぬ程困難です丁度戰爭するに便利の時であります、且又向

ふが三國聯合して來るからソレが恐ろしいと云ふならば、向ふはいつも其手を以て日本に臨むだらうと思ひます、三國さへ聯合して行けば日本人は閉口していつも此手で行けると向ふはさう言ふに相違ない、日本人が其度毎にへこむことならば、終ひには露西亞は朝鮮の馬山浦までも三國同盟して取る、ソレを獸つて居ることになる、何しろ馬山浦を取られて仕舞へば後とは論外です、馬山浦を取られて旅順と馬山浦と浦鹽斯德と聯絡して仕舞ふことになるから日本人の爲には實に困難だ、のみならず又何かの事柄に乘じて對馬をよこせと言つて三國から申込んで來る、ソレも怖いから對馬は差上げませうと言ふと其次には何を言つて來るか分らぬです、其時に至つて日本が死物狂ひになつて戰爭した所で果して三國に勝てるか何だか分らぬです、今日であるならば露西亞は始末に行かぬ程財政困難で其上旅順の防備は全からずしてドックも完備して居らぬし、あの邊の石炭の供給も餘り澤山は無い、金は日本には有餘つて居ると云ふ戰爭するに最も好い時です、此機會に乘じて戰爭した方が宜いと思ふのであります、反對論者などは何を論據として言つて居るか殆ど私には分り兼ねるのです、殊に軍備擴張が足らぬからなどと云ふ議論は餘程無責任な議論と考へて居る、是まで軍備を擴張したのは何の爲

に擴張したのでありませう、戰爭しない爲に飾物の爲に軍備を擴張したのでありますか、若しもさうでない必要な場合に戰爭をする爲と言ふならば此頃までに準備は出來て居らんければならぬ、今日まで經つて準備は出來ないと云ふ位ならば當局者が無責任な事をやつたのでありませう、さう云ふ無責任な當局者が若しも現に政府に居るならば一日も速く其場所を去らしむべきものと思ふ、又利害の點から打算して戰爭がいかぬと言ふならば今日は果して不利益な時でありませうか、私は最も利益な時であらうと思ふ、後になつたならば其利益を得ることが出來ると思ひます、又露西亞と戰爭をすると云ふ事を避けることが出來るかしら、それは中々出來ない事と考へて居る、まるで反對論者の議論などゝ云ふものは一つも採るべき所はないと思ふ、そんならマア露西亞と戰爭は宜いと假定して見る、其時にはドレを口實として戰爭したら宜からうかと云ふことになる、私は滿州から露西亞の兵を引けと云ふことを言つたら宜からうと思ふ、元來露西亞が滿州の方へ手を出したり又旅順港などを固めやうとしたものだから支那に騷動が起つて來た、何も露西亞人ばかりが惡るいと言ふのではないけれども、露西亞人の行動が大原因となつて居る、さう云ふ譯であるならば日本人が今度露西亞人に對して言ふ

べき事は澤山ある、「お前の國が今度の騒動の本を爲したのであるから滿州から兵を引揚げて仕舞へ、旅順の防備も捨て仕舞へ斯う言つたらば日本人の言ふことも正々堂々として宜からうと思ふ、若しソレできかない時には仕方がないから鐵砲を差向ける、斯う云ふ工合に戰爭する口實は幾らもある、やる方面も澤山ある、若しも其口實を以て戰爭したならば獨逸人などは膽を破られて仕舞つて默つて居るかも知れない、若し默つて居ないで露西亞人の加擔をしたならば、露西亞と一緒に併せて潰してやつたらソレ迄の事なんだ、それから戰爭した後にどうしたら宜からうと云ふことになる、是は餘程戰爭の結果にも依る事であるし、今からハッキリしたことを言ふのは六ヶ敷いことであるが、若し出來るならば私は滿州を取つたら宜からうと思ふ、滿州を取つたからと云つてさう澤山の金を費して治めなければならぬと云ふことはない、大低の事は皆あすこに住つて居る土民の自治に任して置いたなら宜からう、どうも今までは少し世話を燒過ぎるから金もかゝる、餘り世話を燒かなければそんなに金は要らぬと思ふ併し守備隊ぐらゐは留めて置かなければなりますまい、守備隊を留めると言つても別段の費用を要する必要もない、日本に在る師團の中からやつて置けば宜いので、そんな事は易いと思ふです、け

れども滿州を取つて宜いか惡るいかと云ふことは其時の樣子を見て言ふことで今からさう定めて置くことは出來ないです、だから私は自分の意見として確定した議論を述べた譯ではないのです、

中には又朝鮮を永久中立のものとしたら宜からうと云ふことを言ふ人がある、さうすれば何處の國からも手出しをする事は出來ぬのであるから大いに便利だと言ふ人がある、けれども私はソレは餘程たかしな議論と考へて居るです、中立國とする以上には其處の人民が中立の義務を守る事が出來なければならぬです、ベルヂックは今中立國となつて居るが、ベルチックの人民は能く中立の義務を守つて居る現に近頃の普佛戰爭の頃なども獨逸人がベルヂックを通して獨逸の軍隊の一部分を本國へ歸さうとした事がある、其時にベルヂックは故障を言つたです、自分の國は中立であるから獨逸の軍隊がベルヂックを經過して送られては困ると故障を言つたのです、さうすると獨逸人の言ふのには負傷兵のことだから差支なからうと言つた、けれどもベルヂック人は中々承知をしないで英吉利人に相談したです、さうしてベルヂック人の言ふ通りに其處を通過せしめないと云ふことになつて、獨逸人はトウ〳〵ベルヂックを通して負傷兵をだも送ることは出來なかつ

たのです、元來世人が一國を中立にすると云ふことに就て疎かにさう云ふ議論を立てるけれども、中立國を拵えると云ふことは中々むづかしいもので、中立國を拵える時には眞に中立の義務を盡すに適當した國でなければならぬ、今の朝鮮人民はさう云ふものを守るの腦力ありと思ふか、誰が考へても其義務を守ることは出來ないと云ふのは分り切つた話で、ベルヂック人にして始めて中立國たることが出來る、アノ人民が中立を守ることに就ては非常に骨を折つて居る、朝鮮人などゝ云ふのは昔から中立したことはない一國の體面を持つて他國と戰爭した事もない國柄で、實は他の國に從屬するのを却て喜ぶ方である、所謂事大の精神に富んで居る、他に事へると云ふ精神しか有つて居らない少し固い奴が押に付ければ何でも言ふことを聞くと云ふのは今までの歴史が證明して餘あるのです、そんな人民をアテにして中立論を吐くなどゝ云ふのは餘程無謀なことゝ思ふ、歴史を知らざるの議論と考へます、それから朝鮮を日本の手に治めると云ふことは今からさう云ふことを言得ることでもないけれども、若し世界の狀勢がいろ〳〵と變つて來て日本の手に治めなければならぬとした所で日本の方で大いに困ることもないのだ、朝鮮の形勢を地勢より研究して見まするに、東海岸の方は到底だめな處で元

山近傍だけが穀物も出來て少しは役に立つが其他はもう駄目です、併し南から西の方は大變に宜いです、慶尙、全羅、忠淸と此三道は穀物も澤山出來て中々宜いです、殊に南から西の方は海岸線が屈曲して居るので海運の便も宜いので、之を取つた所で經濟上別に損をすると云ふやうな事は少しもない、政が少しく宜しきを得たならば大變に都合が好く行く積りです、朝鮮には穀物が出來ると云ふはかりでなくて、鑛山もあるので、さう貧弱國で役に立たぬと云ふことはない、施政の方法宜しきを得たならば日本の內地までには行きますまいけれども經濟上收支償はぬと云ふやうな處ぢやアない、だから已むを得ざる場合は之を日本の手で治めても宜からうと思ふ、然るに若しもアレを中立にして置いてさうして他の一方に於て露西亞の勢力を弱めないで置く云ふと、今度事の生ずる時に大いに困るです、英吉利や又其他の國などは朝鮮に格別の利害を有つて居らぬ、最も密接なる利害を有つて居る處は日本と露西亞で、詰り事の生じた時に爭ふのは矢張り日本と露西亞であとの國はりんな事には無關係であります、是れに依て見ますと云ふと朝鮮を永久中立にすると云ふことは餘程無謀なことゝ思ふのです、朝鮮に對しては又外に補足すべき方法があると思ふです、併し其事なども戰爭の進行次第に依て決する

ことであらうと思ひます

國際法大家學習院教授法學士中村進午君の意見

(問) 今度の變乱の模様を見て視ると、隨分此際の遣り方に依ては將來の東洋の平和と云ふものも何う云ふ風になるか分らぬし、又遣り方に依ると日本の將來の國運に餘程の關係があらうと思ひます、殊に露西亞などは從前からの國是を益〻盛に進めて來て、現に滿州あたりに於ける露西亞の働作を見ると、是非滿州を取つて仕舞ひたいと云ふ有様が現はれて居る、或は此際他の國と表面手を引くことがあつても、詰り彼處を取つて仕舞うであらうと云ふ模様が見える、詰り今迄の支那は多少分割せらるゝやうになつて居つたのが、一層分割の度を高めて來て、支那がゴタ付く原因は益々殖え、日本は何時も其傍に居つて影響を蒙らなければならぬと云ふことにならうと思ひます、それで今日の日本の此際に處する方針を定めるに就ては、支那に對すると云ふよりは寧ろ歐羅巴、別けて露西亞などの仕方を見て考を立てなければならぬと思ひます、而して今度の問題からして日本の意見を定めることになると、第一に支那に於て外國が領土を取ると云ふことは宜しくない、言ひ換へれば支那保全と云ふ風な意味を以て大体の方針として居らなければなら

ぬかと思ふのですが、或は是は學問の上から決すべき問題でないかは知れぬが、大方針に對する御考を承りたい

（答）私は此露西亞が――今の普通の説ですが、バルカン半島で喰止められ、中央亞細亞で喰止められて東に出て來た、即ち極東に手を延べることになつた、若し露西亞かバルカン半島に手を延ばすことが出來、中央亞細亞に手を延ばすことが出來たならば極東の方に向つて出なかつたであらうかと云ふことを一ッ考へて見たいと思ふ、是は矢張り出たのであらうと思ふ、バルカン半島や中央亞細亞の手を引いて極東の方面に出たのではない、向ふの方に安全に出ることが出來ても此方に出て來たであらうと思ふのは、露西亞は今日まで手の延びるだけは延して居つたので、英吉利や佛蘭西の手を延ばし方と違ふ、英吉利や佛蘭西に於ては飛び〳〵に地を拵へる、然るに露西亞は自分の地に續いた處を拵へる、今日まで英吉利の領土になつて居る處佛蘭西の領土となつて居る處、皆な殖民地にしてあるのですが、英吉利の領土には日が沒せないと云ふやうなことを言ふ位に擴がつて居るが、りれは飛び〳〵なので、飛び〳〵であるから之を治める時分に非常に治め惡い、例へば印度にアレだけの領地を持つて見ても、何か事が起ると自分の國から兵を送らなければならない、又トランスバールの如きも事が起ると本國は大騒動をしなければならない、佛蘭西が殖民政略で失敗したと云ふのは、是も土地が距つて居つたから失敗したのに違いない、亞弗利加に於て殊に埃太あたりて英吉利と喧嘩をしたとか、或は一昨年はフハショダ事件で英吉利と喧嘩して、さうして甘いことが出來なかつたのは竟畢地續きでないからである露西亞はさう云ふ考を及ぼして居るか居らないか知らんが、決して殖民地と云ふやうなものを拵へない、所謂蠶食をするので自分の土地に續いた所だけから段々取つて居る、是は非常な利益であらうと思ふのは、地續きの所を蠶食するのだから、一旦緩急ある場合に兵隊を出すにも容易い、交通不便と云ふとはあつても先づ容易いと言はなければならない、千島と樺太の交換などは面白い例として見ることが出來る故に露西亞はバルカン半島なり、西比利亞なり、フヰンランドなり、高加索の地方なり、苟も手を出した所で他の國から取返されたと云ふやうなことは殆んどない、土耳其との干係に例外はあるが輙ち佛蘭西の如き失敗した歴史を一つも持つて居らないのである、今度大連灣と旅順口だけは飛離れた所に持つて居る、飛離れた所に持つて居るが、是は飛離れた所を取らうと云ふ考で取つたのではない、アンナ飛離れた所を持つて居るのは露

西亞の本意でない、則ちアソコまで露西亞の地續きにすると云ふ最近の目的點を極めただけの話である

今度は他の方の點から見て、露西亞の最强敵は英吉利であるとか獨逸であるとか、歐羅巴あたりで頻りに言ふて居る、それは事實上の敵かも知れない、今日まで此ことに就て千八百年前後からの露西亞の實際の敵かも知れない、併ながら其敵と云ふものは露西亞と戰つたとか、一時利害を異にしたとか云ふ敵であつて、永久の敵ではない、露西亞の永久の敵は支那である、其永久の敵が支那であると云ふ重なる理由は、世界で凡う一番大きな國は露西亞と支那である、支那と云ふ國はアレ程大きな國を持つて居つて、近來佛蘭西に安南を取られ、英吉利に香港を取られるやうなことをやつて居り、黑龍江地方を露西亞に取られ、伊犂の新疆を露西亞に取られるとか云ふことがあるが、兎に角それだけ取られても支那の如き大きな國は他にありはしない、亞米利加合衆國の如きは格別だが、君主政の國であつて、世界に一番大きな國を持つて居るものは支那と露西亞である、此露西亞と支那が境を接して爭はれずに居られるものでない、若し露西亞があゝ云ふ風に大きくならなかつたならば支那の方が大きくなつたに違ひない、兩者は並び立たない强敵である又支

那と露西亞は近く百年來の敵であると云ふやうな考を持つ人があるかも知れませぬが、是は匈奴の時代漢の時代から見ても、アノ時分から兩國は戰つて居るのである、支那がアレ程延びたのは支那の勢力が强かつたので、其時分は露西亞は强く、なかつた、此二國は何れが强い時分でも衝突せずに居られんことであるので、露西亞は縱し土耳古に勢力を得て地中海に出ることが出來た所で、中央亞細亞で英吉利と衝突して打勝つて印度洋に出ることが出來たにした所で露西亞のピーター大帝若くは其先祖の遺志に依つて世界を氣儘にすると云ふ考は夫れで滿足されたと云ふものでない、第一に歷史上から見て、第二に世界の一番大きな國は支那と露西亞だと云ふことを見て、露西亞が今日までやり來つた上に付て支那は露西亞の永久の敵である、何んな理由があつてもなくても、露西亞は支那の方面朝鮮の方面

――極東に出ると云ふ考は止むことの出來ないものであらうと思ふ

ソコで今度は日本はどうであるかと云ふに、日本は極東に居つて露西亞と對した事はない、日本が露西亞に對する關係は明治八年に樺太島と千島の交換をしたダツタ是一ッである、其次は遼東半島を取つた時分に三國の干涉を受けた、是だけしかない、反對に支那と日本は始終衝突があつた、第一琉球事件、第二朝鮮事件で衝突

し、其後十七年ゐれより二十七年に至る迄、朝鮮事件などで始終衝突をして居つた、此場合に露西亞は日本と直接の衝突がない、歴史上から見れば日本は支那と永久の敵でなければならんのに、總ての日本人は露西亞は恐るべきものと考へて居る、是はどう云ふ譯であるか、露西亞と直接の衝突をした、しないと云ふ理由を以て、露西亞が恐るべきである恐るべきでないと云ふことが別るのである、是は露西亞が從來未だ日本と直接の衝突をしなかつたのは、日本よりもモット強いものと衝突しなければならんかつたからである、故に露西亞は支那との衝突がなければならない、衝突と云ふことは支那を酷い目に會はすと云ふことで、是はどうして目的を達するかと云ふに其支那を自分の手に入れボツケツトに入れると云ふのと、其力を無くして仕舞ふと云ふと二ツある、支那のやうな大きなものを力の競爭で勝手にすると云ふことは露西亞の出來ないことである、露西亞の經濟が發達し軍事が進めば格別であるが今日の所では出來ない、故に露西亞の政策は、先づ軍隊の出る前に外交政略が先に出る、黑龍江沿岸を手に入れたのも、戰爭の結果ではない、伊犂の新疆を取つたのも戰爭で取つたのではない、日清戰爭の時に遼東半島から日本を逐出したのも支那に訴つて日本を逐出したのである日本を逐出すのが目的でない、

自分が取ると云ふのが目的である此の目的を露西亞は戰爭によつて貫ぬかずに外交によつて即ち一兵に衂らずに達したのであるソコで今日の場合に日本がどう處したが宜しいかと云ふことは一ッ考へなければならん、支那と結ばんか、支那に結べは今云ふたやうな理由で、支那は露西亞が永久に反對すべき――蠶食すべきものと思つて居るから、日本は露西亞を敵とする者でなければならない

然らば孤立して居るのはどうか、此孤立と云ふことは日本はちつとも手を出さずに居り、世界の事柄などに向つて日本は喙を容れない、朝鮮も露西亞の自由になさい、支那も貴方の自由になさい、世界萬國の事には喙を容れません、日本は白耳義の如く瑞西の如く局外中立にして顏を出さずに居つたならば露西亞はどうするか

是は成程世界萬國から見て露西亞の爲めに都合が宜いことかしれない、日本が支那のことに喙を容れず、他所の國のことには喙を容れずに居ると云ふことは日本を安全にするやうの外觀を呈する、ゐれでも日本は之に就て安全になりはしない、却て危うくなる、地勢上から見てもさうだらうと思ふ、夫から日本の今日の國の狀態を見ると云ふと、日本は是から退ろうくと云ふ國ではない、寧ろ進むと云ふ國なのである、日本が進む國であると云ふことは、強ち日本が他の國を取るとか、他の人民

を討ち平らけると云ふ進み方ではない、則ち段々人口も多くなり、日本の此生存條件と云ふものは段々澤山になつて來る、開けて來る、此日本の生存條件を充たすには商業上なり經濟上なりの點から伸ばさなければならない、日本の商業の一番の花客、商品の一番捌ける所は支那に相違ない、若し今言ふたやうな日本が白耳義瑞西の如く、露西亞に對しても、英吉利に對しても、佛蘭西に對しても、獨逸に對しても、一ッも手を伸ばさないやうにして、私の國は私の國の内に引込んで居りますから支那の事に付て一切口を出しません支那の商業も貿易も鑛山も鐵道も皆んなあなた方の御自由になさいませと云つたならば非常に列國から日本は感心の國柄であるアノ國は安全にして置いて遣れと云ふでありませう、世界萬國が丁度白耳義を保護し瑞西を保護する如く中立國にして置て呉れるかも知れないりうするとモウ此上伸ることは出來ない伸ることが出來なくなれば人民は漸次貧乏になり行政は整はなくなり外交も兵力も不振になり、貿易も不振になる自然さうなれば日本は實際に於て駄目になつて仕舞ふ、猶々力のない國になる、さすれば日本の策は退守すると云ふことの出來ない形勢である、日本が外國に土地を取ることは善いか惡いかは問題で日本は大陸に土地を取つたことのない國である此點に於

ては露西亞から見ても支那から見ても日本は劣る國である、アンな廣い土地を取つて、何千年も治めたと云ふことは支那の豪い所である、希臘も滅び羅馬も亡びた露西亞は今日こりアンなに豪いが二百年前は極く小さいものであつた日本は嘗て朝鮮征伐もやつて見たが、未だ大陸の土地を持つたと云ふことはない、三韓征伐の時一寸取つたが直くに取戻されてしまつただから大陸に土地を持つと云ふが日本の爲に善きことであるか惡いことであるか私は知らない、併し今私の考へるに、日本が大陸に土地を持つと云ふことは、外の國を攻めて取ると云ふやうのことでなく日本の生存條件――必要條件を確めるには實に危急存亡の時機である、日本か今日支那の事に對して手を出さすに居ると云ふことは、即ち日本が自滅するのである、經濟上で自滅するのです、どうしても日本は外國に向つて進まなければならん、即ち歐羅巴に手を伸すのでなく、實際支那と朝鮮に向つて手を伸はさなければならない、今日日本は支那とは衝突して居らない、衝突するのは露西亞であるこで露西亞と衝突することは生存條件から起ることである、露西亞は又自の生存條件――主義綱領から支那と衝突する其餘波が日本と衝突しなければならない、今日支那と云ふ國は零と見られて居る、支那は露西亞からぜロと見られて居る

日本は支那をゼロに見て居る、此空間の所が爭ふべき所である若し支那が、舊のやうな强い國なれば支那で日本が露西亞と爭ふと云ふやうなことは出來ない、各國が支那問題に付て爭ふこと列國會議で爭ふと云ふことは日本の利益か不利益かと云ふこと、或は日本が他の一ッなり二ッなりの國と同盟して爭ふのはどうであるか、或は日本單獨で爭ふのはどうであるか、大凡此三ッである、第一列國會議――列國會議と云ふことは如何にも面白いことである、今日までに最近百年間の列國會議で見ると列國會議は政略で勝つのです支那問題に付て列國會議を開ひて日本が政略で勝つ見込があるかないかと云ふことはりれが問題であらうと思ふ、列國會議の主なるものは、千八百十五年の「ウキアナ」會議に墺地利の「メッテルニッヒ」と云ふ人が非常に御馳走をしたりなどして、御馳走政略で勝を占めた、又佛蘭西の「タレーラン」と云ふ人が外交政略で胡魔化して仕舞つたのである、千八百七十八年の伯林會議、是は「ビスマルク」に宜いやうにやられて仕舞つた、英吉利と露西亞は其前から相談して英吉利はサイプラス島を取り露西亞は手を引くと云ふとは英吉利、露西亞の間に定まつて居つたと云ふが、此の談判で巧く胡魔化したのは「ビスマーク」であつた、其迄のどの列國會議を見ても胡魔化す奴が無かつたと云ふこ

とはありはしない、列國會議と云ふものは學校の相談會のやうに淡泊なもので規律正しいものでない、殆と掏摸の寄合、盜賊の寄合會議のやうなものである、又列國會議を開くとして見た所で、地勢に大なる關係を有して居る勿論北京では開けない、りれならば日本の東京で開くか、東京では他の外國が同意をする氣遣ひがない若し開けば馬鹿だ、露西亞のやうな國が日本の東京で開かうとは言はないに違ひないりれならば上海で開くと云ふことは英吉利の爲めに利益を取られると云ふことになる、故に若し列國會議を開くとすれば、歐羅巴の何處かで開くと云ふことになる、歐羅巴で開くと、日本はチットモ是に依て利益を受けると云ふことはなくなるのである、第一に樣子がチヅトモ解らない、マサカ此列國會議に日本を入れないとは言ひますまい又一ッなり二ッなりの國で、日本を入れないと云つて見た所で他の各國で承知をしない、這入るのは這入るのでありませう、這入つても日本の勢力は極めて少ないものと思ふ、丁度御客分に這入るやうなものだ、支那も入れられると見ても宜い、先づ李鴻章が往つて這入るとして見ても李鴻章は露西亞黨である、一人なり二人なり全權が這入つても露西亞に胡魔化される方が多いのだ、明治二十八年に王之春が支那から使節に遣られて、遼東半島還附のことを露西亞と

極めて仕舞つたのである、りこでどんなにしても列國會議を開けば歐羅巴で開いても露西亞で開ひても日本の爲めに都合のよいと云ふことはない日本が各國に胡魔化されるとは極りきつて居る言葉は佛蘭西語やら英吉利語やら知らないが日本の談判委員が通辯を雇つて往つてもりんなまだるいことでは往けない、佛蘭西語なり英吉利語をスッカリ聽解けて、聽解ける力があつても是と反覆辯論する程の人間があるか、此點に於ても日本は非常に不利益である、列國會議は日本の爲めに非常なる不利益である、故に開いたならば日本は到底駄目だ、りれならば二ッなり三ッなりの國と相談して支那事件を極めてしまうとはどうであるか、りれは出來ない此度支那のこと丶云ふものは露西亞も支那も獨逸も墺地利も伊太利も日本も皆加つて居る、片端の處で二三ヶ國が相談してやると言へば、露西亞は勝手に滿州を取る、獨逸は何の邊を取る、佛蘭西は南の方を得る、詰り分割と云ふことになるに過ぎない是は到底駄目だ、さうすると日本は何れかの國と同盟するか又は獨立して之に當るかと云ふ最後の問題となる、何れかの國と同盟して野心國に當ると云ふことは非常に六ケしい問題で同盟ができれば此上もないことで、あるが是れは外交家の働次第だ次に日本が獨立して當ると云ふことになれば、少くも支

那に對して日本を除ひて仕事をしたいと思ふ諸國を皆敵にしなければならない而してどう云ふ問題でもつて支那に對するか、諸國に當るかと云ふに、日本は支那を我物にしやうと云ふのでもない、日本が支那の多くの土地を分割しやうと云ふのでもない、日本の申分が正々堂々としたものであつたならば差支へない、成程支那保全と云ふことは反對する人はある、併し今日支那は保全せられて居らない、支那を保全すると云ふことは支那に盡すことではない、輙ち直接に支那の爲めに盡すことは日本が自から守ると云ふことである、支那が保全されんければ、露西亞の政策に段々呑込まれたならば、露西亞は日本の土地を取ると言はないにしても即ち土地を呑まれて亡びないでも、商業上經濟上に於て日本は亡びるのである、日本は折角今日まで進歩して來た國だのに支那が各國に自由にせられる間接の結果として其進歩が逆戻りをすることになる、是即ち日本の自滅する時である

又何れの國に於ても、戰爭をして其一つの國を取るよりは、平和の手段で一つの國を酷い目に合はす程得なことはない、露西亞は其秘訣を知つて居るりれで日本に對しても、支那に對しても、平和手段で酷い目に合はすと云ふことをするのであります、露西亞は實に亂暴の國、獨逸は實に亂暴の國であると云ふけれども彼が軍艦

を派し兵を出すのは、強ち戰爭を目的とするのでない、戰爭をせずに兵力を見せて酷い目に合はすと云ふのである、彼の終局の目的は平和の手段を以てやると云ふても駄目な話だから、戰爭をして見せるぞと云ふことである、此に於てか又日本の勢も見せなければならない、是が又日本の終局の目的であると思ふ、日本が戰爭に堪へるか堪へないか、又或一つの國と同盟しなければならないか、二つの國と同盟しなければならないかと云ふことは私共の話の出來ることではない、是は軍人なり政治家なりが軍事上の有樣から見て、向ふの兵隊が何れだけ居つて經濟の有樣は何うであるか、我國の經濟の有樣は何うであるか、何年戰爭を續けることが出來るかと云ふことを、見てやつて呉れなければならない、私は何うしても支那を保全すると云ふことは日本を保全することであらうと思ふ、支那が今日歐羅巴諸國に分割せらるゝと云ふことになる結果、日本が日本の今日の現在持つて居る土地を兵隊の力で歐羅巴各國から取られるとは思はぬ只其結果として經濟上日本が自滅する時であつて戰爭に依つて軍艦が破られたとか、兵隊が殺されたとか云ふのは、敗けても名譽である、併ながら喧嘩する勇氣もなく、グズ〳〵の間に日本が滅びると云ふのは大不名譽である、私のは是だけの話です、

りれから終りに一寸參考に申上げたいひとがある、歐羅巴の國々は決して無茶なことはしない、今日の人は三國干涉の時に、日本が戰爭をしたならば勝つたであらうと云ふやうなことを言ふ人がある、露西亞は脅嚇手段としてアノことをやつたのだと云ふ人があるが、私は疑ふ、若し露西亞佛蘭西獨逸が同盟をすれば、戰爭をして日本は敗けたかも解らない、眞の脅嚇ばかりではなかつたらうと思ふ、若し眞の脅嚇ばかりであるならば、日本の軍艦が幾らあるか調べずにやつたに違いないが日本に何れだけの石炭があつて、何れだけの軍艦があると云ふことはチヤンと調べられて居つたのである、私の確かに聞いた話に、獨逸の主計總監ベレールスと云ふ國際公法學者がある、此人が、二十八年に、日本の軍艦が何艘あつて何と云ふ軍艦が何んな構造で、速力は何の位、大砲が何門と云ふ細かな數まで調べてチヤンと机の抽斗に持つて居つたと云ふことである、彼等はさう云ふ緻密のことまでやつて居るのだから、輕々に仕事をすると云ふことは出來ない、今日獨逸が無暗に軍艦を澤山出すのは全くうれです、支那に對して今日軍艦を出す必要はない、兵隊を出す必要もない、表面は支那に對して出すのであるけれども其實は日本に對して出して居るのである、日本と云ふと狹いが、其他の諸外國に對して出して居るのです、獨

逸は今日の處露西亞を自分の味方として居る、味方と思ふて居る、實際露西亞も獨逸に背反すると云ふやうなことはしないだらうと思ふ、七月の十二日に獨逸の外務大臣のビツローと云ふ人が獨逸聯邦に通知したことがある、それは支那を分割しない支那を保全する、支那の秩序を恢復するのが目的である、北京の外國の臣民と公使とを救ふのが目的であると云ふことを言つて居る、併しソレは嘘です、彼の地の新聞は何んなことを言ふて居るかと云へば、筆を揃へて獨逸の外務大臣の宣言を以て露西亞の政略に適合して居ると云つて居る、シテ見れば獨逸と露西亞が一所になつて居ると云ふことは見ることが出來るのでありますが、支那を對手にすることは極めて容易いことで、滿洲の半分以上は取ることが出來る力はあるのです、ソレ故に獨逸の兵隊は今日だけのもので支那に於て戰爭はすることが出來るのである、然るにあれだけの軍艦を出すと云ふのは日本に對して一他の己の政略に反對するものに對して出すので、モット委しく言へは獨逸が軍艦を出したり兵隊を出したりするのは支那の土地を取ると云ふ直接の目的に供ずるのでなくして、自分等が分割すると云ふ手段を妨害する人に向つて、之に當る爲めに出して居るのである、若し佛蘭西獨逸露西亞が互に結んだと云ふならばアンナに兵隊を出す必要はない、支那以外に自分の敵とするものがあると云ふことが確かに見ることが出來る、今度參りまするワルデルゼーと云ふやうな人は、未だそれ程に名高い人ではないようでありますが、ドーして中々非常な評判の人です今の皇帝が其尊父さん即ち僅か六ケ月間天子になつた先帝に對して、皇帝廢止運動を試みた、其參謀長がワルデルゼーであると云ふ話しがある、ビスマークを追退ける時の參謀長は誰であるかと云へばワルデルゼーである、今日の獨逸宰相はホウヘンロウヘーと云ふ年を老つた人であるが、此ホウヘンロウヘーの次の候補に立つ人は誰であるか矢張りワルデルゼーである、此ワルデルゼーが今度支那に來たのは實際軍隊を指令する爲めて寄越したものとすれば、他に軍人として幾らもある、メッツ、やストラスブルヒ邊に往つて居る功績のある人などが澤山ある、而かも大謀反を企つたワルデルゼーを寄越したと云ふことを以て見ると云ふと決して其趣意は軍隊の運動だけをする積りでない、それから又政略の爲め寄越したものなれば何が政略であるか既に露西亞と締んで居るのだから、歐羅巴で出來る話し、うするとどうしても外の國に對することに見なければならない、直接に言へば英吉利と日本に對すると言はなければならぬ、それを日本が未だ平氣て傍觀して居るのは氣の

知れぬ話である

私のた話は此邊で終らうと思ふか、此等の理由を以て日本と云ふ國は先きにも云ふた通り、畏縮かんで死んで仕舞ふか、死ぬにしても潔よく死ぬかと云ふ二つである、故に潔よく死ぬと云ふ決心をすれば、或は向ふの敵を殺して仕舞うことが出來る望もあらうと思ふのです

以印刷代筆寫

諸大家對外意見筆記

(非賣品)

拜啓愈御清穆奉賀候偖今回ノ北清時變ニ對シ我國ノ執ルヘキ方針如何ハ前途國家ノ浮沈ニ關スル重大ノ問題ト存候ヘバ御同然親切ニ之ヲ講究可致ハ目下ノ急務ニ可有之就テハ外交、國際、經濟等ノ諸學ニ精通セル諸學者ノ意見ヲ參考スルハ最モ價値アル事ト存候處幸先輩法學士小川平吉氏カ諸學者ニ就キテ其意見ヲ叩キ筆記セシメタルモノ有之候ニ付同氏ニ請フテ之ヲ印刷ニ付シ御參考迄供御高覽候敬具

明治三十三年十月

成田與作

目錄

法科大學教授法學博士富井政章君の意見……一丁
法科大學教授法學博士金井延君の意見……十一丁
法學博士松崎藏之助君の意見……三十九丁

諸大家對外意見筆記

法科大學教授法學博士富井政章君の意見

清國事件の現狀よりして其成行如何を考へるに今後尙ほ幾多の時日と紛綜を重ぬることであらうと思ふ、或國の行動を見るときは實に安心ならぬことがある、今や慶親王は已に北京に歸つて李鴻章の入京を待ちつゝあるは事實である、而して列國は何れも此二人の媾和全權を承認して速かに談判の開始せられんことを計るへき筈であるに露獨二國の擧動は甚だ怪訝に堪へざる所である、露は曩に撤兵を提議して媾和談判を早くするの意向を表しながら今や清國全權の定まる時に於て遽かに其公使をして天津に引揚げしめて談判に參列せしむることを欲せざる態度を取ることになつた、獨逸の如きは今回の事件を機として海陸の大兵を送るのみならず露と內應して北京の已に陷落したるにも拘はらず元帥を派遣して之を指揮せしむる如き其目的たる英國及ひ我國の勢力を抑制して大に東洋に雄飛せんとの野心あること疑ないと思ふ、其企望を察するに膠州灣を地點として山

東一帶の地を得んとするに在ると考へる、今や媾和談判の開始に先ちて元兇の引渡を提議したる如きを以て見れば露と共に百方談判の開始を妨げて單獨交渉を開くの底意であると察せらる、若し斯の如くなれは大野心ある彼の二國は如何なる度外の要求を試むるやも知れない果して然らは列國の均勢と東洋の平和は忽ちに破れて我國は實に困難なる地位に立つことになると思ふ

露の東三省に意あることは疾より明かである、今回の事件に際しても一方に滿州を占領するの意なきことを聲言しながら又一方には着々其占領の準備を爲しつつあるは事實である、若し愈滿州の領有を實にして遼東との連絡を完成するに至らは我國と地勢上密接の關係ある朝鮮の獨立を危うして何處まで禍害の及ぶこと丶なるや知れざる譯である、我國に取つては實に死活問題と考へる、今や我國も始めて眞に列强の伍伴に入つて大に軍事上の働きを爲したることなれば是位の事に驕氣を出すは大間違であれども支那の善後處分を決定するに方つて東洋將來の平和を確保するに至るべき策を建つるには此上なき好機會であると思ふ、若し何等の畫策もなくして空しく此機會を逸するときは露の北清經營は日に完成して遂に如何ともする能はざるに至らうと考へる

今や清國事變の善後策として最も緊要と考へることは滿州遼東の占領問題を先決するに在ると思ふ、露は此際壤地を割取するの理由なきことを知れは頻りに滿州占領の意なきことを聲言すれとも實際に於ては其占領を爲しつゝあつて遼からず目的を達するの計畫なることは確かである、實に校猾なる手段を取るものなれば決して聲言に安んずることは出來ない、故に此際列國に對して滿州より撤兵することも將來如何なる名義を以ても之れを占領せざることを誓約せしむることが必要である、或は滿州遼東を中立地と爲すも亦一策であるかと思ふ、支那に對する談判は如何なる形で行はるゝや未だ分らぬが要するに先決問題として滿州遼東の結末を提議することが最も大切である、斯くすれば朝鮮の獨立問題は自然に解決せらるゝことになると思ふ。

今回支那の處分に際して間接に朝鮮の安全を保障するの策を確立することは最も肝要である、朝鮮は微弱にもせよ現に一の獨立國であつて今回の事變には直接關係ない、然るに此際我國より其處分問題を提出するは如何なるものであらうか、夫れも十分なる理由あらば各別であるが實は少し問題外である、朝鮮の處分としても今日の場合に最も正當にして且有力なるは前に述べた方法であると思ふ、世間

(4)

には朝鮮を我れに取るべしと云ふ說大に勢力あるやうである、滿州を露に委して我れに朝鮮を取るべしと主張する人もある、私の意見は露の侵略を防ぐの方法さへ確と立たば必ずしも朝鮮を取るに及はぬ、寧ろ永久に之を中立國としたい考へである、朝鮮は現に獨立國なれば今改めて之を中立國とするの必要はないやうであるが此際望ましきことは列國共同に其中立を宣言して將來何國と雖も如何なる名義を以ても其領土を占領する等の行爲を許ゞることを約定すれば之れに違反する者は列國に對して破約の責任あれば其効力決して薄弱でなからうと思ふ、今日朝鮮を我れに取らんとするは甲午戰爭の大旨に悖ることゝなる、我國と利害を同ふする國の中にも我れに野心ありとして同情を表せぬものがあるも知れぬ、滿州遼東を保全することさへ出來れば朝鮮は之を我れに取りたると同一で煩累なくして一切貿易上の利益を占むることは容易であると思ふ、若し滿州遼東の占領を妨ぐることも成らず又其場合に最後の大決心を爲す見込もないとすれば別論である、

偖此最後の決心と云ふことに附て言はねはならぬとは滿州の占領を斷念する如きは露に取つても容易ならぬことである、今日まで巨億の金を費して經營せる事業の成功に關することである故に決して我が主張に服從せないであらう、今日其經營は未だ完成して居らぬ故に提議に依りては或は表面上のみ同意するかも知れぬが如何とも口實を設けて占領を實にせんとするは當然である、我國に取つても死活問題であるとする以上は此際最後の決心を以て爭ふ覺悟がなくてはならぬ、故に結局の問題は開戰するとして勝算あるや否やである、此頃軍事に明るい人より委しく聞いた所に依れば三國を敵とするも十分勝算あると云ふことである、軍事上の事は輕々しく論すべきことでない、殊に素人でもある故に此事は述べませぬ、財政の許すことであるや否やと云ふに近來財政困難の呼聲高くて增稅の計畫さへある今日であれども國庫には目下償金部支拂殘額八千六百餘万圓ある、此他三種基金の軍費に支拂ふたる殘額凡四千万圓あつて合計一億二千六百万圓を有する譯である今之れを二十七八年役の當時僅かに二千九百万圓の剩餘金を有せしに比すれば實に四倍以上に當る、固より此金額は何れも用達の定まるあつて濫りに費消すべきものではないけれども今日は緊急支出を爲すに於て向後得易からざる好時機であるかと思ふ即ち外交上强硬の態度を取るは今日であらうと考へる

(5)

開戰は言ふまでもなく成るべくは避けたいことである、假令一旦東洋に於て勝つとも進んで城下の盟を爲さしむることは出來ず、又永久に大陸聯合の敵を持たねばならぬことは深く考ふべきことである、然れども自衛の爲めに必要なる以上は已むを得ざることと思ふ、今日に於て最も考へねばならぬと思ふことは假りに今回も謙讓に了するとするも將來永く露と圓滑なる關係を繼續することは出來るであらうか、現今の狀況では數年内に大衝突を來たすことを免れないかと思ふ、然るに今後時日を經過するに從つて彼の北清經營は着々成功して益々勝算の減少する勘定である外交上の方針を定めて最後の決心を以て其實行を計るには一日も早きを以て可とすと言ふ所以は主として此理由である私の考では若し此大決心を以て敏活に外交手腕を振はば實際戰爭までには至らぬと信ずる、畢竟の目的は外交上の勝利を望むのである、方略は一に當局者の技倆に俟つべきもので豫定の外ではあるか若し愈露の侵略を妨ぐるの方針を取らば獨力を以て其目的を達せんとせずして我國の利害を同ふする英米二國と提携することが肝要である、互に内應し聲援して成功を計らば必ず著しき効果あることと思ふ、或は遂に獨をして露と離れしむることも全然能はざることでは無からうと考へる

英米と結ぶことは普通平凡なる議論であれども苟も外交上一定の方針を立てゝ之を貫かんとする以上は必ず共に提携する國が無くてはならぬ今日まで一事件の起る毎に周章して失敗に了らざるとなかつたは畢竟確たる方針と之を貫徹するの手段を欠いたものと思ふ、現今世界の實況は主として英露の競爭であるが極東問題に附ては我國は最も緊切なる利害關係を有することであれば超然傍觀者の地位に立つて居る譯には行かない、若し是までの如く何れの國の感情をも害せざることをのみ計つて居ては到底壓せらるゝの外はないと思ふ、此事は曩に膠州灣事件の起つた時にも私は巴里に居て深く感じたことであるが過去の事は仕方がない、今日は最早何れにとも旗色を一定して勇進せねばならぬ時と信ずる、是は唯一例であるが今回我が軍隊を獨逸元帥の指揮に從はしめることを諾したるも獨逸は決して之を德とせずして反つて我が懦弱に附け込むことは明かである、英も我が左視右顧の態度を見て我を眞の友と思ふて居ないであらう實にあぶ蜂取らずで失敗する計りである、外交は機を見て縱横に策を行ふものなれば豫め保全とか分割とか又は某々國と提携する等のことを唱ふべきに非ずとの說あるが是は方針と方便とを混同したる說で論駁するの價ないと思ふ、

支那は最早自立の力を有せないから分割は到底、免れないに尙ほ保全を主張するは迂愚の極なりとの說もあるが是は畢竟露獨に抵抗する能はざることを前定したる議論である、如何にも支那は今日までの如き帝國として將來存立することを得べきやは甚だ疑はしい、畢竟は聯邦組織と爲す外はないかと考へる併し列國が分け取りする意味の分割ならば方法の存せん限りは之を防ぎたいものである、假に分割は心至の數なりとして、左なくとも之を防ぐ爲めに强國と開戰するは不利なりとすれば英露の中其何れと結ぶが得策なるやは別の一問題であると思ふ、露と結托すべしとの說もあるやうである此案でも無方針に孤立して除け物にせらるゝに比すれば遙かに上策であると思ふ、私も膠州灣事件の起つた當時に於て抗議を爲さない位ならば寧ろ此方針を取るが得策と思ふたことがある、當時に在ては露佛共に大手を擧げて我れを歡迎したであらう、獨逸の如きは必ず邪魔物にせられたに相違ない併し今日と爲つては此案は到底行はるべからざるものと思ふ、從來の行掛りもあれば我國民の意向は明かに反對であると認める、露の方も我が人心と軍備の現狀を見て決して眞面目に應じまいと思ふ、又此等の情實を念頭に置かずして虛心に能く考へるときは露との結托は地勢上よりして甚だ不利益では

ないかと思ふ、即ち其結果我れは常に露の手先きに使はれて英に當たることゝ爲り露は後ろに匿れて思ふ存分に其侵畧的經營を遂ぐることに歸するであらう、故に今となつては反對の方針を取つて二心なく英米に結ぶことを計るが得策であると思ふ(九月二十三日)

法科大學教授法學博士金井延君の意見

北清事件の善後處分は本邦の利害休戚に關する一大問題なること勿論なり元來日本の利益線といふものは大陸にまで及んで居る、此利益線を十分に守らうと云へば、外より侵入して來る所の勢力を防がなければならん、之を爲すに當り平和の外交手段を以て防げれば誠に幸ひだし、平和の手段では遂に防ぐ可らずとせば無據隨分兵力に訴へ戰爭をしても、將來我日本の發達日本の勢力の膨張のためにはやらなければならんと思ふ、而して露西亞の滿洲經營といふものは、悉くでは無いけれども或點までと云ふものは、追々日本の利益線に侵入するやうな恐れがないでは無い果してさうであるとすれば、何うしても是れは極力先つ第一着に外交手段を以て防く事に盡力しなければならんと思ふゾーするには時に或は攻勢の姿勢を採ることも必要ならむ全體退いて守るといふことのみにては追々國の利益を害するに至るの恐がある國の利益を害するのみならず、退いて守るといふ目的をも達するに至らざらんと思ふ、退いて守るの謀計を全ふする上から見ても、まゝ攻勢的の姿勢を採らなければならんと考へる

(問) 私共が考へて見るのに露西亞の今迄の國是から近頃歐羅巴の方で支へられて、アブガニスタンからトルキスタン、伊犁新疆の方へ手を出しても、英吉利の方に支へられて居るから、露西亞は全力を盡して極東の方の經營をやつて居る、うして今日此滿洲に於ける仕事といふものは、非常に大きな設備をして居つて、將來どうも恐るべき勢ひを以て極東の發達をさして居る有樣である、詰り日本が是から後大陸に勢力を段々發達膨張して行かうと云ふ時になると何うしても露西亞の發達する勢ひと衝突をすることは、何時か一遍は免かれんと思ふ、露西亞の國是といふものに隨分侵略主義になつて居りますから、さうして將來必ず衝突するといふ許りでなく、今日露西亞の思ふ通りにやらして置くと、支那の方に對して、支那の固より獨立を危くするだらうし、極端に言葉を進めて言ふと日本の地面も危くなる、即ち將來東洋に於て騷々しい種を播くやうなものと思ふ、うれであるからして今度の日本の問題を決するに就ては先づ東洋に關係をして居る列國のやり方といふものを、能く考へてやるのは勿論であるが、其の中最も露西亞のやり方といふものに對して日本は方針を定めなければならん、露西亞のやることを見て居ると滿洲邊りにて非常なことをやつて居る今日の場合に於ては何うにか手段を廻らして、アイツを滿洲から手を引かして仕舞はなければならんと思ふ、うれであるからして此際極力露西亞の滿洲經營といふものを妨げて、將來アスコには手を附けさせんやうにして往かなければ、東洋の永久の平和を破るばかりでなく、日本の向後將來の發達といふことが出來まいと思ふ、其邊は貴方は何ういふ御考でありますか

(答) うれは無論さうだらうと思ふのです、併ながら露西亞の方の側になつて考へて見ると、アレ程大きな國でありながら、さう何處にも手を附けられないといふことは堪へられんことゝ思ふデ、露西亞の今の方針即ち南進又は東進の方針はペートル大王以來の大方針であるから是れは中々一時押へ付けた所が露西亞があらん限りは遂に枉げやせんだらうと思ふ、ソコで幾らか露西亞にも花を持たせなければならん、うれは外ぢやない、詰り露西亞は先づアノ西伯利亞鐵道を延長してズーット旅順に出るし一方は山海關に出る、支那海の方に出ることになつて居るがらしてソコデアノ鐵道も露西亞の目的を好意的に解釋すれば或は全く經濟上にあるかも知れん、果して經濟上の目的を達する事のみに滿足するならば是は勿論土地の侵略とは違ふ然る以上は彼の邊に商業上の出口を持たすること位は必要

ならむ否な必ずしも露國獨占の出口となすにも及ばざる可し世界の自由港として露西亞も亦列國と共に之を經濟上の目的の爲め自由に使用するといふこと丈になす位は宜しからむ支那保全論の結果遂に此位の事に到るは免かれぬい此位に止まらば支那の爲め東洋平和の爲め先づ〳〵上出來と謂はなくてはならむ餘り押へ付けて置くものは矢張り何處かで破裂するのであると云ふことは覺悟しなければならない何時までも土地侵略の考を持て居るは露國も必ずしも必要と爲さゞ可き歟りれであるからして詰り旅順邊位は是れは此間も話したことですが、各國共同の自由港と云ひますが、世界商業上の港として、さうして西伯利亞鐵道は目下の計畫通に放任して置く位の雅量は列國之を持たなければなるまい斯やうな風にやれば格別の害はなくして宜からうと思ふ、愈々戰爭でも始マタ時には勿論一時鐵道を破壞するともあるだらうしあらゆる妨害を加えてやらなければならん其の結果といふものは詰り此兵力上の考を捨て兵力上の勢力を振ふと云ふ考を止めて侵略を斷念して仕舞ふに至らむ歟而して自由港を設け世界商業上の發達を助くることになれば獨り露西亞ばかりぢやない、他の列國も利益を得る則ち共同の利益が得らるゝ譯なり斯くなる時は豫て露西亞が多年望んで居る、何處

212441

か出口を得んとする目的は、全くは達せられんかも知れんけれども幾らか達せらるゝ譯合になる又達せさしてやるといふ花を持たせなければならんと思ふ、

(問) りれはマア至極御尤のことゝ思ひますが、それは通商貿易といふ上から言ひますると……

(答) 所が不幸にして今日の實際はさうぢやァ無い、斯やうに見ゐるからソコデ防がなければならん

(問) 今日の所では旅順は軍港にしてやつて居るが、露西亞は實際アスコニ主權を行つて自分の領地にしてやつて居る

(答) 御說の如く露西亞の滿洲經營の目的といふものが兵力を以て自分の領土を擴めやうといふ考ならば、吾邦の利害に影響する範圍内に於て何うしても極力反對をしなければならん……りれだけ言つて片一方の方は――若しもさうでなければ許して宜いといふ方は、言はんでも宜いだらうと思ひます

(問) 言はでも明かな譯ですが

(答) 其處は明かとは言へないけれども、英吉利などは其方スラモ餘り望まんかも知れん、だから言はん方が宜しい、英吉利なんぞに對する政略としては默つて居る

方が宜からう、其處から何うしても詰りは目下の形勢上支那保全を旗じるしにしなければならぬことになるのだ

(問) 何うしても支那は保全する、マア言ひ換へれば露西亞が其勢力といひ權力が支那へ蔓つて來ると云ふことは非常に危ないことになる所が今日の實際の有樣といふものは、チヤンと計畫が立つて居つて版圖としても居る

(答) 露西亞が版圖とする目的を達したならば、勿論支那保全は破れる斯くならば北清地方のみならず他の處も何うして今の儘には存在することはあるまい、さういう工合にして支那保全が破るれば、固より又露國に占領せられざる他の部分、侵害せられざる他の部分に對する露國の勢力といふものも、非常な勢ひを以て進むだらうと思ふ、露西亞の勢力が支那に對して非常に進んで來る事にならば、支那の改革支那の開發といふことは、恐らくは覺束なからう、露西亞は支那の改革とか、或は開發とかいふことに利害を持つまいし之を歡迎する方ぢやあるまいと思ふ、私は、さうすれば支那といふものは一度滿洲の部分が割取さられさうして露西亞の勢力は支那に蔓ると云ふことになつて來ると、詰り支那は益々衰へて、他の部分の分割といふことも引續いて始まりはせんかと思ふ、さうすると詰り各國が其時に

攫合つて、りれを分取りするといふやうなことが起つて來るだらうと思ふ斯くして支那保全論の實際日本に不利益になつた時は外交の局面は一變せざるを得ない其時に及で優勢の地位を占むるには今日に當り保全を旗じるしとして滿洲の分割を主張するを最も得策ならむと云ふ

(問) いかにも

(答) 列國は今日皆な支那の保全を主張して居る少なくも聲言して居るけれども此間に若しも或一國が列國の輿論に頓着せず自國の聲言を無にして何處か取るといふことがあらばりれは何うも勢ひ他の國々も其れ〳〵自分の方の都合の好い所を取らうといふ考になるだらうと思ふ、りれを防ぐ力は今日の支那にない之を將來に避け得るは支那の改革にあると思ふ、支那の分割が段々始まつて來るといふことになれば、支那は改革の望全くなきに至る可し斯くなれば畢竟東洋の平和は勿論マルで破れるし、東洋の衰運になる、日本の不利益になるといふことは是れは言はずして明かなことであると思ふ、詰り露西亞に支那分割といふことに假令寸地尺土と雖も第一着に手を着けさしたならば、モウ後とは一坪か二坪二坪か三坪となつて終には何千方里何万方里となつて皆な他國の領土となつて仕舞ふ

(問) 他國が又其間に入つて來ますからなア、りれと一番近い所は滿洲を彼が占領すると朝鮮といふ國は、國もアンナで、分らない人間であるからして、直ちに露西亞方にべタリとくつ付いて仕舞ふことになる

(答) 朝鮮のことは今言はんでも宜いけれども、滿洲か露西亞のものになると、朝鮮の獨立なんといふことはマルで望むべきことでは無い、朝鮮の獨立が危くされて仕舞へは、獨り日本の大々的不利益たるのみならず他の國々にも多少不利益に影響することになるは勿論言を俟たず

(問) 何うしても非常な影響を及ぼしませう、國防上から言つても朝鮮が露西亞の手に入つて仕舞ふと、迚も對馬海峽なども駄目だ露西亞がアノ恐ろしい勢で水の溢れたやうにやつて來るだらうと思ふ、だからして何うしても露西亞が滿洲を版圖にするやうな經營をすることは何うしても防がなければならん、要するにナンでございますな、今度の目的を決するに就ては支那に於ての、露西亞の野心を何處までも制して往かなければならん、さうして支那保全論を助けなければならん、斯ういふ御考になるですな

(答) 詰りさうですな

(問) さうすると其結果は先づ戰爭をする決心も有たなければならん

(答) 成べく戰爭を避けて外交上にて目的を達したいと思ふ、已むことなくんば戰爭までもする覺悟は無ければならんがりんならば戰爭が出來るかといふ問題になる

(問) 或は滿洲を露西亞が手を引いて仕舞ふかも知れん

(答) 戰爭をしなければならんといふことになつたら、りんなら戰爭が出來るかといふと、戰爭は固より經濟上に都合の好い結果を直ちに及ぼすものでは無い、經濟上に多少の不便不利益を與ふることは是れは無論免かるべからざることであると思ふ、併ながら今日の日本の有樣では、經濟上から戰爭が何うしても出來ぬといふ有樣では無いと思ふ、成程財政は非常に豊かといふ譯ぢや勿論無い、或は隨分困難と云つても宜いかも知らんが併ながら金が全くない譯ではない是れは多少大藏省の秘密にも屬するから明かには分らぬけれども、兎に角三種基金の内北清事件の爲め費やされたるものは九百萬圓にして其内海外に流出したるは僅かに二百萬圓以内に過きずして基金の外償金部に屬するもの八千三百萬圓ありと云ふことなれば以て人意を強ふするに足る去れば金が全く無いではない此外にも尙

ほ隨分出し得るものが民間にあると思ふ、さうして民間は何うかといふと民間の經濟界は近時不景氣だとか何とか云つて頗る困つて居るけれども併し其の困つてるといふのは農工商を通じて全體がマルで何うも仕方がないと云ふならば餘義ないけれども、さう、何うも斯うも仕方が無いといふ有樣では無いと思ふ、何うも斯うも仕方が無いといふのは經濟界の全部にあらずして單に商業界のみだと思ふ此商業界も全部ぢや無くして寧ろ株式會社のみだらうと思ふ、株式會社は何うも斯うも仕方がないと云ふことが或は言へるだらう、多少其實もあるだらうと思ふけれども本邦國家經濟の基礎として居るのは今尙ほ農業ですから農業界さへ困窮せねば左まで憂ふるに足らぬ而して農業界近頃の有樣は何うかと云ふとまだうんなに困つちや居ない、農家の大部分といふものは隨分景氣の宜い方だらうと思ふ、さうすれば成程一時影響を蒙つて大變困るのは是れは商業社會が一番に困るが其中にても第一番に困るといふのは――一番困つて仕方が無いといふのは寧ろ全部で無くして株式會社のみであらうと思ふ單に株式會社のみの困ることは、全國の經濟上から見てうんなにエラク心配するに及ばん株の値が下るとか何とかいふことは、うれは善いことぢやないけれども一國の浮沈に關する場合にはうれは何うも已むを得んでせう、うれが爲に戰爭をしてはならんといふ程の恐懼を措くに及ばんと思ふ元來戰爭は好で之を爲すのでは勿論ないのです

(問) 私も今一國の浮沈に關する今日の場合であれば、うれは無論財政經濟上、其以上の問題であると思ふです、併し財政經濟上大關係のある問題であるからして……然るに此前の支那と戰爭をした時分から見ると經濟上の事情から、富の力とでも云ひますか、富の力といふものは兎に角日本でも餘程殖へて居るだらうと思つてます

(答) うれは何うも明かに殖へて居ると云つて宜しい、一方には成程奢侈の風が增長して、使ふ方も殖へて居るけれども、併し全體から云つたら財力は餘程殖へて居ると思ふ、ソコで今ま財政の上から見て、政府が使ひ得る所の金は無いではない、うればかりではなくイザ戰爭となれば、勿論他の事業はうれが爲に一時中止されるものもあるうれだけの不利益は何うしても免かれん、而してさう云ふ事業に平時ならは使はるゝものが使はれぬといふことであるから、其金が皆な軍事費の方に廻はされ得ることになる、敎育のことに使ふべき金も軍事費に廻はるし交通發達の方に使ふべき金も軍事費にもつて行かるゝうれは餘り望むことではないけれ

どもりういふこともやつて往かれる、戰爭をする場合の即ち財源といふものは、今が今ま浮た金が無くつても又出て來るといふ見込は色々あると思はれます

(問) 一部の事業が休んでも亦たりれが爲に他のことが起つて來る

(答) りれのみならず民間からも平生は成程租稅でも、增すとなれば、彼是れ反對をするけれどもイザ戰爭と云ふ事になると我が同胞兄弟姉妹は隨分忠君愛國の精神に富んで居るから、りれは格別憂ふるに及ばんと思ふ少しも憂へない譯ぢやないか、私は隨分地方などには金を出す力が無いではなからうと思つて居る

(問) さうでございませう、此前の戰爭の時に、アノ時大藏大臣をして居た渡邊から聞いたことがありましたが、彌々此政府で公債募集とか、其他の手段でやつても、金が無くつて困つても、未だ國民自身が持て居る金銀でも、一年位の間は十分敵對することが出來るといふ話でした

(答) りれはまだ使つて居らない今に殘つて居るのみならず殖へて居るだらうと思ふ其時から今まで古い金を藏にしまつて居つた計でも隨分殖へる殖へなければならん理由がある其上に餘裕が付いて居る

(問) さうしてマア全體の富といふものは、りれが力で續く一番基になるですな

(答) さうでおざいますとも

(問) りれから戰爭の濟んだ跡の經濟上の狀況が……

(答) 其前にまだモ一つ斯ういふことがある、戰爭をすれば金が大變要ることは勿論ですが、其戰爭に要る所の金の多くは何處で使ふか、外國に拂ふ分もりれはありませう、けれども矢張り軍事費の中の大部分は內地で消費するものが多い、糧食を買入れるにした所が或は軍人軍屬に給與する金、又は其他のものにしても多くは內地で使ふものである、內地で使ふものとすれば、詰り國庫から出して民間に振播くやうなものですから左まで憂ふ可き所はない全體財政は國民の經濟に基づく可きものでありますからネー

(問) 成程大きに其傾がおざいませう此前の時なども或方面では却て事業が勃興したですからな

(答) りれから資金を多く費消して往つて萬々一困つて已むことなくんば場合に依り免換を停止することも出來ぬことではない是れはマア誠に極端な場合ナンですけれども免換を停止しても戰爭は出來るりれが爲にりれこり物價は騰貴したり色々經濟上不利益の影響は免かれんでありませうがりれでも內地で支拂ふ

方が多いから差支ない、差支ないともないけれどもりれでも遣て往かれるです國權國利の爲め外交上の手段のみにて目的を達することが出來ず萬止むを得ずして戰爭となり一國の浮沈に關する大事件といふ場合には、何うも兌換の停止といふことに至つても是れは已むことを得んと思ふ、けれども亦たモウ一つ考へて見れば、戰爭といふものは兵器の改良と、作戰計畫の大分進歩と近來列國が皆經濟上の利害に重きを置くことになりたるとの結果として昔のやうに長く續くもんぢやない、マアアノ日清戰爭なんぞは近世の戰爭ぢや長い方と云つても宜しい、普佛戰爭なんぞはモット短いのでございましたろー、大抵……斯うとどの位でしたか、詰り幾ら長くつても一年位と思ふ、今後の戰爭は大抵モウりれより長いことはあるまいと私は思ふ一年位の軍事費を出してやつて行かうといふのには、まだ兌換の停止までに至らずして十分にやられると思ふ

(問) りれは確かにやれませう

(答) やれるのでありますから、其處まで往くといふ考を有つて往けば、戰爭が出來んといふ經濟上の有樣では無い、りれから戰爭を極端にまでやつて、戰爭した跡は何うかといふと是れは勝つたと負けたで勿論違ふですな

(問) 勝つたものとしたら何うなるといふ御考です

(答) 勝つものとすれば詰り……償金は取れん場合となるかも知れぬ

(問) 今度は取れんかも知れません

(答) 償金は取れんかも知れませんが、勝てば詰り日本の國威といふものは非常に揚るし、それから又日本が一般に世界の檜舞臺の上に於て優勢のものとなり各國も之を十分認めねばならぬ、ことゝなる故に、跡始末を附けるのに金を工面すると容易すくなる隨分外資輸入といふことも今日の如くむづかしくなくなるだらうと思ふ、斯かる場合になればそれのみならず、又勝つて油斷をするといふことを防ぎさへすれば、戰爭中にスッカリ妨げられた事業といふものを段々と起して往くと云ふことは、人氣は引立つて居るし、勢ひのある所であるから決してむづかしくは無い、殊に償金は取れんといふ事になると尙更戰勝の餘勢に乘じて知らず識らず油斷をすると云ふ傾きは少なからうと思ふ、償金が取れたといふので宜い氣になつて、奢侈の風が增長すると云ふ樣なことは餘程防ぐことが出來ると思ふ、

(問) どうも人氣といふものは大變に經濟上影響を來すものですからな

(答) 人氣といふものも妙なものですけれども、非常な影響を及ぼすものなるは疑

なき所であります

(問) 人心の振ふといふのと奢侈に流れて腐つて仕舞ふのとは、其結果大變な違ひですからな、戰爭が負けても勝つても富の減少する程度は、自體マア金は貰はんでも物があるといふ譯で……

(答) さやう無論富の進歩といふものは、本邦の如き進歩的の國に在りては年々歳々進んで往くもんだから、戰爭があればチョットの間は多少妨げられるだらうけれども、併しそれが全く終れは又々進歩して往くのです、前の軌道に恢復して行くといふこと左程むづかしいことではあるまいと思ふ、進歩が戰爭の爲め一時留められただけそれだけ損をすることは何うも免がれないけれども、後は却て進歩が大變早いです即ち反動です

(問) 歐羅巴邊りで屢々戰爭がありましたけれども、戰爭の爲めに經濟上に救ふことの出來ないやうな位地に沈んだといふ國は無いですか

(答) それは無いことも無いですけれども、そいつはモウ始終戰爭ばかりして居つて、而も其戰爭が長く續いて他のことはマルデ打捨て、そればかりに長く掛つて居る場合です、斯く休む時のないといふ場合ならばですけれども、併し其他の場合に

はりんな例は餘り知りません、勝つた方の國に在ては無論經濟上餘りむづかしいことは無い、唯償金が、取れた爲に國民が油斷を起して、それで却て非常な不利益を蒙むることはあるです、それで日清戰爭後も諸種の事業が勃興して經濟上非常に好い結果もあつたが又一方には經濟上忌むべき結果もあつたですがそれは即ち油斷から起つたのです、さういふ經驗は久しい以前にもあるし近かく二十七八年の經驗も持て居るからして、勝つて償金が取れたといふ所からして、無暗に油斷をするといふことは勉めて防がなければならん、戰後の經營といふことは餘程能く注意しなければならん、それ等は併し二十七八年の經驗もあるからして、將來に於ける戰爭の善後策は左まで下手にやらずに出來ると思ふ

(問) 露西亞は一體經濟上の事情は凡そどんな風ですか

(答) 露西亞のはサッパリ分りません報告抔は皆な嘘ださうです、大藏大臣の報告にしても各種の統計抔にしても皆な嘘だと云ひます、要するに露西亞といふ國は何うも矢張り一般經濟上少しも善くない樣子に聞及び居るのです財政も亦た金貨準備がドレだけあるなどゝいふがそれは何うも實際それ程無いらしい、殆ど其の半分も無いだらうといふ話ですから、露西亞は其點でもつて決して優勝な位地に

立つて居るとは私は思はぬです、りれで負けた時は何うかと云ふ話になると、負けたら成程大變困る、困るけれども併しながら今負けたからと云つて、日本は日本の現在有つて居る領土を取られると云ふ樣な結果までには到底至らぬと思ふ

(問) りれは萬々決して無いです

(答) 經濟上何うかと云へば、負けりや成程困るに違ひないが、併し是れは負けたとなると國民はりれはマア非常に意氣込が變りますから若し之れが爲め屈して仕舞ふ國民だと困るけれども、是れは私の考では日本の國民は決して屈して仕舞ふ國民では無いと思ふ

(問) 最も面白い所であらうと思ふです

(答) 屈して仕舞ふどころかりれこそ本當に臥薪嘗膽の實が擧るだらうと思ふ、勝て臥薪嘗膽の精神で本當にやることはむづかしい、りれはモウ日清戰爭の經驗でも本當の臥薪嘗膽は擧らなかつた、併かし負ければ必ず擧ると思ふ、さうすると負けたからと云つて恢復の望みが無い、ではない當分は隨分弱るだらうが併し時を經たならば恢復が出來ると思ふ、佛蘭西がアノ通り獨逸との戰爭でやられて仕舞つて五十億フランと云ふ莫大な償金を出した、而も巴里まで侵入せられて非常な

目に逢つた、償金を莫大に取られた計りでなく、非常な目に逢つたけれども、併しアノ結果佛蘭西國民は皆な擧つて奮發をして、直きに恢復して仕舞つたです、りれゆゑに十年計も經つたらモウ何うも戰爭前よりも却て經濟上の力が豐かであるといふことになつて仕舞つた、其點に於て日本國民は決して佛蘭西國民に私は負けることは無いと思ふ

(問) りれはモウ決して無いと思ひます、私共でさへ奮發心を起しますからな、佛蘭西などは國內を荒されたのですが、日本は今度負けても國內を荒されると云ふことは

(答) りれはありません、無いと斷言しても宜しい、それだけ感じが鈍いかも知れないと謂ふ理屈もあるけれども是までの經驗で見ると實際決して鈍くないと思ふ

(問) 鈍くはありません、負けたらりれこそモウ却て宜くなるだらうと思ふ、矢張り其人心の非常な奮發をするといふことは、悉く經濟上に現はれて來ますからな

(答) 詰り實際の話は斯樣と思はれる人は往々資本が足りないから事業が起らん、の何のかんのと云ひますけれども、畢竟は人心の……何といつて宜いか適當な言葉が無いけれども、人心の强弱といつても宜いが、人心の强弱とりれから其考の進、

んで實行され仕事が起るか起らんか、活發に働くか働かぬかと云ふことは人にあると思ふ、資本の少なきことなどは左まで憂ふるに足らぬ人が一度奮起してやつたならばどんなに資本が少なからうが事業は出來る資本が爲めに增加する又どんなに資本があらうが、どんなに見込のある事業があらうか、人物がなければ駄目だ資本だつて詰り人間が皆な作るのだから……

(問) うれはモウ實に私は前からさう云ふ考を有つて居る、どうしても人が基にならなければ出來るものも出來なくなる、矢張り人心といふものが土臺になつて往かなければならん、戰爭をすれば勝つても負けても兎に角人氣は振ふですな

(答) 振ふけれども勝てば油斷が生ずると云ふ事に注意せねばならない、負ければうれが無い、うれが無いから恢復が存外早いと思ふ、負けたから何うも斯うも仕方がなくなつて仕舞といふて尻込みをするのは誠にどうも弱い話で自ら何うも佛蘭西國民には迚も敵はんといふことを許して居るのであるうんな考では迚も可けん、佛蘭西國民は其點は豪かつたです、詰り初めから弱音を吹く樣では到底可けん、ナーニ負けるもんかといふ氣性が大事です、之を望むことは當世の小才子などにはむづかしいけれども、併し日本國民は今まで二千有餘年の歷史といひ、うれから今までの外國に對する國民一般の感情から見て、何うしたつて負ける抔といふ事はない、尙ほ遙か、優つたこともやり得るだらうと思ふ少なくも「イザ」と云ふ場合には此意氣込が必要である

(問) それはモウ十分やるでせう、マア要するに萬一戰爭は負けても、經濟上何うも斯ふも仕方が無いといふ位地に陷ることは無いと斷言して宜いでありませうか

(答) 私はそれはモウ確かに斷言出來ると思ふ、何うも斯ふも仕方が無いといふ大變な不利益を蒙むらば仕方が無いぢやないかと云ふ、斯ういふ論もありますが、併ながらそれはどうも一國の大事の場合にはそんなことで尻込みをすべきことでは無いと思ふ人間だつて病氣にでも罹つて、產を傾けて何うも斯うも仕方がないと云ふことはあるし、又たさうならんでも非常な病氣にでも罹つて、借金して跡が困るといふことは隨分あるのです、うれであるからと云つて醫者の診察も受けず藥も服まんといふことは出來ぬ

(問) 私共がやつて居る訴訟ですな、訴訟が何うしても權利を主張して、損得の償はないこともあるけれども、或る場合將來何うしても一時損をしても茲で權利を主張して置かなければならん場合がある、其爲めに活きて居るのが人間ですからな、

國であるからと云つて唯一時の損得だけの勘定ばかりぢや可けない其位なら何にも仕ないで死んで仕舞ふ方が宜い

(答) 病氣を癒すには良い醫者にかかつて十分に療養をしなければならん、それを金が無いから止めて置かうとすりや死んで仕舞ふより仕方がない、矢張り國だつてさうだらうと思ふ、況や今の日本の有樣では、據ろなければ軍さまで、やらうといふ所の決心の必要なる所以は、唯權利を主張するとか、さうでなきや國として男が立たんといふ許りではない、或る場合には一己人として男が立たん、利害の關係が少しも無くして一身を犧牲に供するともある、之を亦た馬鹿な奴とは云へん、國だつて或る場合に於てはさう云ふこともあることは免かれんことである、又今日の場合と云ふものは、りんな國としての男が立たんとか、正義が蹂躙されるといふ許りでは無い利益の關係があるのです前者の外に尙ほ利害の關係もある

(問) 此頃の樣子を見ますると、北淸の貿易は大變日本は發達して居るやうである、朝鮮も大分人間が寧ろ南よりも北の方に多く往つて居る、或は日本は北の方にする方が宜いかと思ふ、人間の數にすると朝鮮支那西比利亞へ大變往つて居りますが

(答) 詰り南の方には外の國の者が大層入込んで居りますから、英吉利人とか佛蘭西人獨逸人などが澤山に行つて居る、それが爲に自然北の方に……

(問) 支那人は南の方の奴は大變チョット斯ふ手が附け惡い、北の方の奴は質朴でやり宜いといふ……

(答) エヽマアさういふ關係も幾分あるでせう

(問) りこで引括めて、先づ今日日本の執るべき方針といふものを、一言して盡せば何うでございませう

(答) 一言して言へば日本の光榮並に利益の爲め、又東洋の永久の平和の爲に、何うしても此詰り支那保全といふ方針で往つて、支那の縱令一部たりとも領土を犯さるゝことがあつてはならん、之を防ぐには第一に勿論外交、外交の手段に據らなければならん、けれどもそれで旨く目的を達しない時には、據ろないからして兵力にまでも依るといふ覺悟を要する、進んで兵力に據るといふとにした際には之を實行することが出來るか、即ち戰爭が出來るか出來ないかと云ふことになると、戰爭は財政上から見ても、經濟上から見ても、勿論多少不利益を蒙るといふことは免がれんけれども、出來ないのでは無い十分出來る、殊に軍事上にては確かに成算があ

ると思ふ、うれから後の結果から言へば、勝敗に依つて別るゝにしても、ドチラにしても間接に經濟上の發達の刺撃になると思ふ、うれから斯ういふことを附加へて置く必要がある、露西亞の利害と日本の利害と衝突することは到底免がれん、何時か一度戰爭といふことは免がれんだらうと思ふ、さうすると今日のやうな時に、今日今の滿洲の有樣などの模樣から見て、今日やるが宜いか、或は今日よりも尙ほ後の方が宜いかといふ問題がある、即ち日本の經濟上の力をモツト進め軍備もスツカリ完成した其時を待つてやる、今はまだ少し此方の準備が足りないといふ斯ういふ考を有つて居る者もある、是れは私は餘り感服せんのです、なぜならば成程此方の準備は十分といふことには今出來て居らん、併し是れで十分だといふ時は何時來るか、まだ〳〵といふことを言つて唯モウ無暗に十二分の計算を立てゝ居ると、何時まで經つてもまだ滿足せんといふことになる、加之ならず此方ばかりの事を考へて居ても駄目ですモウ少し〳〵だとか言つて居るものが往々あるが、先方は何をやつて居るか、先方の準備は――先方でも何時か一度は衝突しなければならんと云ふことは考付いて居るから、先方でも準備は若々やつて居る、此方の準備が一歩進めば先方は二歩進む、是は今日の實際に照し先方の有樣を見れば、直に分かる早い

話が外資輸入でもさうです、金が要るからと云ふので外國の市場に於て公債を募る、日本と露西亞と兩方から他の外國に公債を募つた場合に今日では日本よりは屹度露西亞の方に能く應ずるものがあると云ふ有樣である、佛蘭西なんぞは迷惑千萬に思つて居るダローけれども露西亞に大變金を注込んで居る、金の點でも先方の準備の方が時を經れば經る程此方より速かに整頓し得るに違ひない、又兵力を動すに最も必要の交通機關、此交通機關の發達も實際此方が一歩進めば先方は二歩進めると云ふ有樣である、さうすればまだ可かん〳〵と云つてグズ〳〵して居らば可い時は何時來るのであるか、何時まで經つても同じことである私の考では寧ろ却て今日位な所が、一番其點に於て時期の好しき時だらうと思ふ、總て物といふものは何か計算する時に、さう何うも十二分の計算が立たなければやれんと云ふのは男らしく無い話だらうと思ふ、うれは無論さうしなければならぬものであるだらうけれども、うれは却て多くない多くの事は斯の如くグズ〳〵しては居られぬ居つては不利益ださう云ふやうな主義で即ちグズ〳〵主義で是迄歷史上事の成つたことは無からうと思ふ、是なら十分だと云ふ計算が立つて、うれから着手した爲に事が十分成効したと云ふ例は餘り澤山はない大抵事は戰爭にしやう

が何だらうが大低さうだ多少の危險を犯してやることです

(問) うれはモウ實に御尤もです

(答) 支那人の云ふ所の河清を待つが如くで何時まで待つて計算をして見ても何うしても、是で十二分大丈夫と云ふ時は利底到來せず、尤も兵力も經濟も財政も迚も仕方がないと云ふ時に、空威張するのは是れは少し無法でございませうが、併ながらさうではなくして多少危險はあるかも知れないが隨分望みあるといふ時に自ら求むるではなく國權國利の爲め止むを得ずしてやるといふは、是れ誠に至當の事なり歴史上の出來事は總てさう云ふ時に成立つて居ると思ふ、又サウ云ふ樣に成功した例が多くある

(問) 今日のやうな總ての事情が都合の好い時は、先方の方で云つたらば却て躍若して出來ないだらうと思ふ

(答) 此儘で往けば先方の勢力が段々伸びる許りと思ふ、露西亞が滿洲經營をやつて居るが此勢ひで往けば終には此方は尻込む許り、先方は取つた部分は勿論、取らない部分にも勢力を及ぼして、先方の準備は段々完成するが、此方の準備は比較的には恰も牛の歩むが如くで仕方かない、隨分日清戰爭の時などもさうでした、支那

と開戰するのはどうもまだ早いといふ人があつた、而も軍人の中にもあつたです確かに私は知つて居る、中々分つた人で大變尻込みをして居つたものもあるけれども輿論も一體にやる可しと認めて戰爭を始めた、始めた以上はさう云ふ人も無論働いたんですが其結果はアノ通り、うれはマア陸軍の方よりも海軍を大變案じたんです、北洋艦隊なんぞを大變恐がつて居つた

(問) 其前には丁汝昌が長崎から横濱に來た時なんぞは日本人は慄へた位ですからな

(答) 迚も海軍は敵はんと思つて居つた、大丈夫だと云ふ人は殆ど無かつた位、けれども、ナーニやらうと云ふ意氣込は恐しいもので、やつて見るとアノ通りの結果で海軍の方は實に豫想外であつた若し露西亞に佛獨二國が聯合したらどうかと云ふて心配する人もあるが是とて左まで恐るゝに足らぬ譯もあるのみならず此の聯合に對して施す可き外交上の手段がある……(九月十六日)

法學博士松崎藏之助君の意見

今日支那に於て起つて居りますす出來事は、啻に支那に於ける數千年來の大事件であるのみならす、又東亜に於ける大事件であります、啻に東亜に於ける大事件であるばかりでなく世界に於ける大事件であると云ふことは、歐亜の諸強國が鵜の目鷹の目で此事に注意して居るに依て分りまする、殊に日本に取つて一大事件であると云ふことは其境土か接近して居るし、文物制度が其趣を同ふして歴史上の關係親密なるか爲と云ふ計りでなく、一ッ間違ひますれば將來我日本國の世界に於ける政治上、經濟上の地位が大に變化せさるを得なひからであります、私は政治上の事に付ては經驗もないからして別段述べませんが假に經濟上又外の言葉を以て申せば世界列國間に於ける通商貿易上の關係からして、殊更此問題に付きまして日本が痛痒を感じて居る所以を述べたいのである

此清國問題が日本に取りまして、經濟上將來大關係を有すると云ふことをた話致すには、先づ世界の經濟上に於ける大勢の變轉、委しく申せば各國間の商業貿易上の關係が廿四五年以來大に面目を改めた事を知らなければ成りません、實に只今

の世の中は昔重商主義が盛んに唱へられまして、歐洲諸國の人心を支配し、其國々の政略は此主義に依て打算されました時と殆と同し有樣である、デ其證據は各國皆自國の工業商業を盛にせんことを計つて居りまするが、內國市場に對する關係よりは、寧ろ外國に對する關係上に最も重きを措いて居るに依て明である、之が爲に各國は頻りに外面に平和を裝ふて、以て其生產物に對する市場をば、外國に於て擴張せんことを圖つて居りまするが、其實平和の下には常に武器を整へて、領土の擴張を謀る形跡が歷然として現はれて居る、然るに最も怪むに堪へない事は、英吉利或は亞米利加の如きは暫く措くも、其他の强國中頻りに支那の國民の頑冥不靈を懲さん爲に或は宣敎師を送るとか、或は又訓練士官を送るとか、或は又敎師を送るとか言ふて居りまするが、此の如く支那に向つては門戶の開放を强いて居るに拘らず、顧みて自分の國に於ける通商貿易の政策、大きく申せば對外政策に至りまするとと、寧ろ門戶を閉づるの主義を採つて居る事である彼の露西亞の如きは重き關稅を施きまして、以て外國品の輸入を防ぎまするし、佛蘭西獨逸亞米利加の如きも亦其跡を履んで居り、英國は獨り其例外であると云ふに拘らず、近頃に至つては彼の帝國主義とか謂ふやうな、一方より言へば干涉主義を唱へます者が出て來て、

矢張り多少關稅制度を改良して、自國の產業を保護せんが爲め他國に對しては通商の門戶を閉ぢやうとする者があります程である、是等の諸國に於ける商業政策の主義が變更致しましたのは、實に十九世紀の後半期に於ける學說、及び人心の一大變調でありまする吾人は殊に獨逸に於て其著しいのを見まする、喩へて見ると近頃該帝國が、其帝國議會に提出せる海軍擴張案を通過させまする爲にベルリン大學のある敎授などは相謀つて海軍擴張協會なるものを起して、相互に論說を出版し、其賣上金を以て擴張費に充てやうと云ふことを圖つて居る位であります、是等は學者が其本國に對しまする義務として左程怪むべき事ではないでせうが、最も怪むに堪へないのは經濟學者中極端の說を主張致しますものがあることであります、デ極端の說とは外ではない、今の世の中では各國間に於ける交通は强ち昔の如く必要でない、されば過去に於けるが如く電信、汽船、鐵道等の便をば將來更に便にするの必要はない」と云ふことである以上謂ふ所によつて見ますると、各國が競ふて其工業、商業、殊に外國に對して之を發達せしめんことを計りますると云ふは明かな事で、歷々として見ることか出來ます、人或は此の如きを見まして、通商貿易の主義は唯其外國に於ける販路を擴張すれば則ち足ると云ふ者がある、喩へて見

れば英國の政治家、或は經濟學者等は之を唱へまする者が尙現今に於てもありまする、併ながら英國の外國貿易擴張は、唯販路を擴張するに止まらすして、遂には其領土の擴張と相伴ふと云ふ證據がある、諺にも佛蘭西などの外國貿易は常に其國旗の跡を追ふて擴張するが、英國の貿易は之に反して國旗が貿易の擴張に連れて往くと云ふことがある、國旗が貿易の擴張に伴ふと云ふのは則ち取も直さず貿易が擴張するに從つて領土を擴張すると云ふ譯であります、デ從來の歷史を見ても英國などの貿易擴張は領土の擴張と離るゝことが出來ない關係があると云ふことを證するに足るでせう、ソコで現今に於ける各國の商業政策は此主義に依て此事實を實行せんとするに外ならんである、唯外國に於て其領土を擴張すると云ふことは、勿論政治上經濟上容易に言ひ得べき事ではござりませんけれども、しかも諸國が競ふて之を爲まする所以は外ではない、世界に於ける經濟の大勢の變轉上若し敢て之を爲さなければ遂には人後に落ちまして、假令一たび强國と稱せられたものも、遂には和蘭若くは西班牙の如き境遇に陷る虞があるからであります

經濟上から見ますれば、人皆國富の增加を希望致しまする、實業家の如きは在らゆるものが悉く富に如かずと云ふ感念を持つて居りませうが、國家の經濟の上から

見まするとナカ〳〵さうではないのです、富よりも最も貴いものがある、それは何ぞと申しますれば、富を生じまする源泉である、根源である、富を生ずるの根源は申すまでもなく生產上の要素でありますが、私の茲に謂ふ生產上の要素と云ふのは、唯勞力土地資本と云ふ如き形の上に現はれました物のみを言ふではなく、是等の三ッのものゝ外、更に生產の上に貢獻することが出來まする在らゆる勢力(フォーセス)を云ふのでありまする、デ勞力資本に付きましても、私は資本及勞力其者を以て必要とはせず、生產上資本或は勞力が働き得る所以の關係上に最も重を措きまする者である、此點から申しますると、一國の經濟上、又其發達上、最も必要でありまするのは第一に土地である、なぜと申せば勞力或は資本をして働かせまする場所であるのみならず、在らゆる經濟上の現象をして起らせまする場所であるからです

ソコで經濟上の進步と云へば吾人人類の生活をして益々複雜便利ならしむる所以であるが之が爲めには領土の大なるより必要なことはないのであります、土地が大きければ氣候も從つて遠つて居りまするし、動植物界或は鑛物界も從つて種々でありまするを以て、假令西伯利の如き氣候寒冷であつて、不毛の地が多かるに致しましても尙ほ之なきに勝るや萬々である、一口に申せば假令斯かる不毛の土

地であつた所が其之を所有する國をして經濟上大なる潛勢力を有せしむるものである、此潛勢力を有することが必要であるし、又其潛勢力を利用して將來益々發達させて、遂には他國との通商貿易を待ちませずして、經濟上の獨立をなし得るのが一國の商業政策上、大きく申せば經濟政策の最終の目的と言はなければならん、是が獨逸の經濟學者などが頻りに海軍の擴張を贊成致して、暗々裡に領土の擴張を希望致します所以であります

而して歐羅巴に於ける二三の經濟學者などは將來世界に於ける三大帝國說を唱へる者があります、所謂三大帝國とは露西亞、大英帝國、及亞米利加合衆國であります、近頃佛蘭西が、亞弗利加に於ける領土の擴張に鋭意なるを認めて、之を併せて四大帝國となしまする者もありますデ過去數千年間に於ける盛衰興亡の跡を探ねて見まするに、若し許多の國々が相並んで競爭するに當りまして、其最終の勝を制する者は領土人民多き國であるは到底免るゝことが出來ない數でありまする、これで以上の四大國、又之に續いて獨逸などが其國力の擴張を圖りまするので、詰り國際間に於ける競爭上、他國の後に落ちないが爲であつて、若し之を圖らなかつたならば、遂には亡びないまでも第二流第三流の國となるに至るは明かであります

る、此に依て見ますると、日本は最も現今及將來に於ける出來事に着目して、百年の長計を盡さなければ成らぬのである

是れ即ち清國事件が日本に取りまして最も重大の關係を有すると云ふ所以であります、若し之を忽かせにして居つて、唯他人の驥尾に付きまして唯々諾々他國の爲すが儘にして置いたならば、將來發達の舞臺、發達すべき舞臺を失ひまするに違ひありません、日本の如き、假令其領土の緯度が擴がりて大に南北に延びて居ると は言ひますけれども、其土地たる誠に狹くあつて、なか〳〵將來增加すべき多數の國民を養ふことはむつかしい、而已ならず又將來まさに發達させなくては成らぬ經濟上の潛勢力を、蓄へて置きまする餘地は殆とありますまいと思ふ、デ若し三流或は四流の國を以て滿足せずして、或は又現在の地位を維持しやうとするは、必ずどちらかの方面に向つて、經濟上發展すべき場所を求めなければ成らない、斯く申した所が强ち日本の領土を擴張せなくてはならぬと云ふ譯ではありません、唯實際上日本の勢力が何れの地にか及んで居つて、日本國民は其處に於て己の生活又は安身立命の地を求むることが出來ると云ふことであります

りれならば日本は將來何れの方面に向ふべきやと云ふに、是は實に將來百年の國

是を定むるとも云ふべき程の大問題でありまするが、私の考へる所に依りますと南に延びまするのは難くして北に延びまするのは易からうと思ふ、政治家又は學者中北の方は氣候が寒冷でありまする上に、不毛の地が多くあつて事業を計畫するに困難であるし當に困難であるのみならず殆と爲すべきの事がないからして、將來苟も事を爲さうとするには南の方に向はなくては、成らぬと云ふ者があります、併なから南に延びやうとするには、現今日本の最も不得意である方法を以て、困難なる土地に仕事を敢てするのであると云つて差支なからうと思ふ、何故かと申せは亞細亞の西南に向ッては大抵うれ〳〵歐州諸國の企畫する所があり、而して此方面に向ッて延びやうとしまするには是等の諸國と競爭しなければならぬ、而して競爭の裏面に於ては腕力の競べ方が最後の問題を決する者でありまするが、此場合に於ける腕力は日本の海軍力でありまする、勿論現今に於ても海軍擴張をば唱へるものが尙ほありまするからして、之を擴張し得るとしまするも、日本の國力は海軍の擴張を以て以上の諸國と爭ふことは隨分むつかしい事であらうと余輩は思ふ、況して亞細亞の西南地方は人口稠密でありまして經濟上大に發達して居りまする、現に支那の長江一帶の沿岸の如きは、在らゆる經濟上の發達に於きまして

殆ど遺憾なき程でありましやう、唯是等の地方に於きまして將來新に計畫し得べきは歐洲の規摸に倣つて計畫せる大生産、大工業のみである、是等は未だ日本の得意とする所ではなくして遙に勝つて居る國が多いのであります、現にうれ等の地方に於ける支那人などは、資本の點に於きまして或は日本の起業者などよりは優つて居りまする者も少なくない、是等の人民と競爭し或は其中に入りて根據を据ゆる事の困難であると云ふことは、現に支那南部、譬へば上海などに於ける日清貿易に徵して明かでありまする、是に依て見ると商業上から見ますも、將た國際の關係上から見まするも、日本の經濟力を南に延ばすは誠に困難であること明瞭である今一ッ忘れては成らぬ事があります、勿論、其事は一の妄想に過ぎませんが假に日本の政治的勢力が東南亞細亞に延びるの日があると假定致した所で、人口稠密、資本充實して、其文化も亦古い地方を統御致しまするとは實に困難な事であります既往に於ける歴史に徵しまするも斯かる國を治めまするには決して懷柔政策を以てし得べからす非常なる威力を加へるでなければ出來ないと云ふことが分つ居る、之に反し北の方になりますると人口は稀薄でありまするし、人民も亦無氣力であります、從つて將來發達すべき經濟上の潜勢力も、日本人の來るを待つて居る

と云ふ傾きがあると私は竊に考へまする、現に北清地方に於ける貿易に從事しまする日本人は、上海方面に働いて居りまする者よりは大に成功したと云ふことは實際の證しまする所である、朝鮮及滿州などが將來日本人の開發を待ちますることは、廣東或は湖南湖北の地方に較べまして其の大なるは言ふに及びますまい、而して是等の地方に向つて將來日本國が事を爲さんとするに當つては、前者に較べて大に容易ひと云ふことがありまする、是等の地方に於てはサマデ現在日本の不得手でありまする海軍力を用ひまする必用は主でありますまい、且つ朝鮮は既に二十七八年の役に於て試みたこともありますが、尙此以北になりますると大分沃野千里の地方もありますので、此等の地に於て日本の陸軍を使用するのは其勞少なくして功が最も多くあらうと考へます、右の理由に依り、私は日本國の經濟上南に伸ばすやうに政策を採るよりは北に伸べまする政策を採るのが得策であると考へます

尤も單に軍略上から致して、南にあつては即ち厦門或は福州等の形勝を占めて臺灣と相呼應し、北にあつては朝鮮の南部、例へば釜山或は馬山浦に勢力を据へて以て之に應したならば將來東亞の全勢力は日本の掌中にあると云ふやうな論もあ

りますけれども、私は斯の如き箱庭的の仕事は最も不得策であらうと思ひます、なぜと申せば私の考は將來日本の經濟力を發展せしむるべき場所則ち土地が入用であるからであります、デ是をば歴史に徴しまするに、軍略上から大陸諸國などに險要の地位を占めたもの程國力を縻し遂に之を失ふに至るものであります、例へば英吉利が嘗て佛蘭西のブリタニヤを領有して居つたなれど、遂に全く之を失つて其爲に國力を弱めたと云ふことです、故に經濟上の根底がなくして土地をば有した所が殆ど効能がないのであります、唯國費をば消磨するに過ぎない、愚考するに若し滿洲の地に於て日本の經濟的勢力を伸ばす(政治的勢力は別でしやう)事が出來ましたならば、又出來るやうな方法を取つたならば、頻りに世人の憂へて居りまする朝鮮問題の如きは手に唾きして解決する事が出來ると思ふ、此時に於ては朝鮮の如きは殆ど日本の成すが儘であらうと思ひます、斯の如く單に經濟的勢力を扶殖する理由により、之に相應する所の手段を取りましたならば、世人の憂慮する朝鮮國の掠奪とか云ふやうなことは、現在避けることが出來まする、而已ならず之を避けて其實之を掌に入ることが出來ると思ひます

現在日本の輿論は殆ど亞米利加英吉利などゝ同じく、支那の保全論に同和して居

るやうに思はれます、支那の保全と云へば現今の愛親覺羅氏の朝廷を保全すると同じことであらうと思ふ、なぜなれば愛親覺羅氏にして亡びることになれば、四百餘州の紛糾覆沒致しますることは鏡に懸けて見るが如きであります、而して愛親覺羅氏を保全し、且之をして、支那四百餘州を統一せしむるだけの力、若しくは政治的威力を有せしめまするには、滿州の保全を以て第一とするであらうと思はる、現在愛親覺羅氏も滿州を以て發祥の地と致して殊更之に重を措て居られます、若し愛親覺羅氏にして果して其發祥の地を失ふことになりましたならば、最早其威力は四億萬の生靈を威服させることは出來ません、して見ると愛親覺羅氏の爲に滿州を保全するは所謂支那を保全する所以である、又日本の輿論に從つて世界の表面に立ちまして、實に日本の將來世界に於ける地位を作ります所以であるのですされば名義上からした所が實益上からした所が、滿州の保全と云ふことは日本の爲め最も得策でありまする、私は若し此事にして實行致されたならば愛親覺羅氏の日本に對する關係、支那四億餘万の人民の日本に對する感情は實に言ふべからざる結果を生ずるであらうと思ひます、而して愛親覺羅氏の爲に滿州の保全を圖らうとしまするには、勢ひ多少の出來事、多少の紛擾を生じまする覺悟がなければならんが、此覺悟は固より日本の爲め百年の長計を立つる上に於て斷じて進んでやらなければならん時代でありまする、又之を實行しまするに就ては必らず財政上の懸念を生ずるに違ひありません、現在本邦の政治家などが憂へて居りまするのは主として財政の如何である、私の見る所を以てしますれば、左迄のことはないと思ふ日本が貧窮でありまするとか或は財政が不整理であると云ふのは多少所謂實業とか何とか云ふ事に關係があつて自分の利益上資金を要しまする即ち資本を要しまする人の言葉でありまして、若し最終の覺悟があるに於きましては、一億或は一億五千万圓の資金を調達しまするとは決して難いことゝは思はれません、是に就きましては密かに御話し致したくありまするが余り冗長に渉りまするから唯其大體の數字に止めて置きまする、若し假りに一億五千万圓の資金が一年中に使用し得ることゝしましたならば、私の前から述べまする政策を實行するに於て決して難くないことゝ思ひまする、現に日清戰爭の際に於て一師團を支へまする一ヶ月の費用は二百二十七万圓余であつたと云ふとでありまするが、大なる經驗を積みましたる今日に於ては之を節約致しまして二百万圓内外で豐かに之を支へることが出來ませう、一ヶ月二百万圓とすれば一年は僅かに二千万圓であり

ます、一億五千万圓でありますれば、七師團位の費用をば辨ずる譯です、其他海軍の事、勿論多少の經費を要しまするが其經費を支辨しまするに十分の成算があり得る事と考へます、唯斯く申しますると私の考が誠に雜駁であと云ふことを疑ふ人もありませうが、日本の國力は四五年以來余程發達して居ります、例へて見れば普通銀行の預金は二十七年に較へて幾と三倍して居まする、貯蓄銀行の預金の如きは六倍以上になつて居り、一般銀行の積立金は四割以上の增加を爲して居ります諸會社の積立金の如きは五倍余になつて居る、これからして貯蓄銀行の積立金は二十二倍の增加を呈して居るのであります、斯く增加したに拘らず資本が缺乏して居ると云ふのは、數年前に較べまして計畫され又計畫されんとした仕事が多いのに基いて居つて其實資本が二十七年以前に較べて少なくなつたと云ふ譯ではない、是は最も當局者の注意すべき點であります、假りに若し大事件などが起ると しますれば、既に計畫されて居る事業は姑く措きまするが、將に計畫されんとするやうな事業は自然止むものでありまするからして見れば民間に於ける資金の如きは、直ちに方向を變じて政府の用途に供することが出來るやうになるに違ひありませんし、且つ又是等の事件の外に尙更に大事件が起つた時には、日本銀行の免換を停止しまするも差支ない、さうなれば政府の直に處分し得る資金は壹億五千万圓に止らず豐かに貳億万圓位に上るを得るでしやう、是は勿論万一の場合を豫想しての話でありまするが、今年此場合に當つて、昨年なとに於ける國力の缺乏と云ふ聲に迷はされまして、國力の衰頽を氣遣ひ百年の長計を過りまするが如きは、私共の斷じて取ざらる所であります(九月十六日)

進午志ノ中最モ多ク之チ讀ミ殊モ多ク之ヲ研究シタルハ戸水博士ニシテアリキ

寺尾ノ二氏カ發固ナ意志ヲ以テ意見ノ編纂印刷ニ幹旋シ短時日之ヲ遂行シタルノ勞ヲ深謝スト曰ク小川成田

當時吾輩ハ西比利亞滿州ニ關スルノ書籍ヲ讀ムコト未タ甚タ多カラズ日本ト露西亞トノ關係ヲ研究スルコト日尚ホ淺ク隨テ時局問題ニ關スルノ意見頗ル幼稚ニシテ數年ヲ經タルノ今日此意見筆記ニ對シテ汗顏ニ堪ヘサルモノ有リ然レトモ顧ミルニ其當時ニ在テハ日本人中西比利亞滿洲ノ事情ヲ知ルモノ甚タ少ク時局問題ヲ研究シタル者亦甚タ少シ吾輩ハ其研究ニ付寧ロ先鞭ヲ着シタルモノナリ且ツ時局問題ニ關スル意見ハ幼稚トハ云ヘ皆其當時ニ熱血ヲ濺キテ述ヘタルモノナルヲ以テ此ニ之ヲ收錄ス

右意見筆記ヲ印刷スルニ先チテ小川氏余ニ謂テ曰ク速記者ハ既ニ貴君等ノ意見ヲ記シ了リタリ唯其出版ヲ內務省ニ届出ルトキハ必ズ其配付ヲ禁止セラルヽナラント余曰ク是何ゾ憂フルニ足ラン其出版ヲ內務省ニ届出デズトモ別ニ意見書ヲ世人ニ示スノ方法有ラント小川氏曰ク然リト其辭色甚タ勵シ其心決スル所有ルモノヽ如シ

後余ハ意見書ノ發表ヲ小川氏ニ催促セシニ氏ハ曰ク必ズ之ヲ遂ゲント既ニシテ根津少佐ノ軍事私見三十部及ヒ前記二箇ノ諸大家對外意見筆記各三十

進午曰事少シク當ノ道ヲ逸スルノ當ノ觀ノ狀態ハ此ノ時ノ他ノ樣ニ變チ用フル方法ナシ見ザルベシモノナリシモノナリシコトヲ根津少佐ノ軍事私見ハ佐藤與助氏ノ抄記シタルモノニシテ吾輩ノ意見書ハ東亞同文會ノ成田與作氏カ內務省ニ對シテ無屆ニ印刷ニ付セシメタルモノナリ余之ヲ見テ喜ンテ曰ク之有ル哉之有ル哉ト而シテ心竊カニ小川成田兩氏ノ度胸ノ頑强ナルヲ祝セリ

一兩日ヲ經テ警察官余ノ家ニ來リテ余カ受取リタル右印刷物ノ數ヲ問ヒ余ハ實ヲ以テ答ヘシカハ警察官ハ曰ク根津少佐ノ軍事私見ハ配付ヲ禁止セラレ差押ノ手續ニ若手シタリト余曰ク余ハ既ニ知人ニ軍事私見ヲ送リタレバ今ヤ之ヲ回復スルニ由無シ且ツ余カ家ニ殘ルモノ數部ニ過キズ之ヲ差押ヘタレバトテ何ノ効カ之有ラン請フ警察署ニ歸リテ之ヲ再議セヨト警察官曰ク諾ト

進午曰ク此告訴事件其後如何ニ成行キシヤ

警察官又曰ク貴君等ハ對外意見筆記ハ內務省ニ何等ノ屆出無クシテ出版シタルモノナレバ之ヲ告訴シタリト余笑テ曰ク警察署ヨリ既ニ成田與作氏ニ交渉シタリヤ曰ク然リ曰ク成田氏ノ答辯如何曰ク成田氏ハ印刷ヲ以テ筆寫ニ代ヘタルモノナレバ此行爲ハ罪トナラスト主張シタリト聞ク余ハ曰ク成田氏ノ答辯ハ當レリト曰ク果シテ然ルカト余其狀貌ヲ視シニ吾輩ノ意見書ガ無屆ニテ出版セラレタルノ大膽ニ驚クモノヽ如シ

寄尾曰意見書差押ニ關シ戶水中村博士對警察官ノ談判ノ記事序

警察官ハ余ノ家ヲ辭シテ警察署ニ行キ復タ來リテ曰ク貴君ノ家及ヒ富井博士ノ家ニ在ルモノハ之ヲ差押ヘズ請フ之ヲ人ニ配付スル勿レト余笑テ曰ク若シ紛失スレバ如何セント警察官モ亦笑テ去レリ

一兩日ヲ經テ中村博士ニ逢ヒシニ博士余ニ謂テ曰ク軍事私見ノ差押事件ニ關シテ紛擾ヲ生シタリト余其紛擾ノ顚末ヲ問フテ概略ヲ知ルコトヲ得タリ即チ左ノ如シ始メ一巡査博士ノ家ニ來リ軍事私見ヲ差押ヘント欲セシニ由リ博士ハ之ニ謂テ曰ク余ノ私見財產ハ貴君等之ヲ差押フルノ權無シト巡査曰ク內務大臣ハ其差押ヲ命令シ警察署長ハ其命令ヲ奉シ余ハ又警察署長ノ命令ヲ奉シテ差押ヲ行ナフモノナリ貴君ハ此命令ニ抗セント欲スルカト博士曰クコハ不法ノ命令ナリ內務大臣ハ人ノ私有財產ヲ差押フルノ權無シト巡査曰ク若シ之ヲ差押ヘズンバ貴君或ハ之ヲ人ニ配付セント博士曰ク之ヲ

シ得テ妙ナリ宛然二博士ノ目前ニ見ルカ如シ

進午曰ク長ト云ヘバ警察署ノ恐ロシキ人ナリテ至ツテ長ケ敬ヘキ態度ナリ

寺尾曰ク然リ且ツ進午ノ思ハ富ミ必ズ終ヲ全ウスル

寺尾曰ク然リ富ム余ノ獨リ思ヒ煩ハシ富ミテ若シナ

毀ツモ之ヲ火ニ投スルモ余ノ勝手ナリ余ハ未タ之ヲ人ニ配付スベシト言ハズ是皆余ノ私有財産ナリ差押ハ斷シテ行フ可ラズト曰ク貴君ハ法律論ヲ爲サント欲スルカ曰ク然リ余ハ法律家ナリ法律論ヲ爲スハ無論ナリ巡査强ユルコト能ハズシテ去レリ其翌日四谷警察署長新居友三郎氏中村博士ノ家ニ來リテ曰ク貴君ノ家ニ在ル軍事私見ハ之ヲ差押ヘザル可シト然リ而シテ對外意見筆記ノ無届出版ニハ何等言及スル所無カリシト云フ蓋シ中村博士ガ之ヲ關知セザリシコトヲ警察署ニ於テ知悉シタレバナリ

夫レ斯ノ如ク中村博士ハ其容貌ノ温雅ナルニモ似ズ侃々トシテ警察官ト爭論シテ終ニ軍事私見ノ差押ヲ免カレタリ、言フコト勿レ中村博士ハ温雅ノ人ナリト、其實ハ剛毅無比ノ人物ナリ而シテ圓滿余ノ如キハ唯警察官ト懇談シテ差押ヲ免レタルハ豈奇ナラズヤ聞ク寺尾、金井等ノ諸博士ノ家ニ於テモ右差押事件ニ關シテ毫モ紛擾ヲ生セシコト無カリシト

對外意見筆記ノ無届出版事件ハ如何ニ落着セシヤ余ハ其後屢バ小川成田ノ兩氏ニ逢ヒシモ何等聞ク所無シ而シテ其意見ノ世間ニ發表セラレシヤ否ヤ

寺尾曰ク予ノ意見ハ書ハ予ノ承諾ヲ待タスシテ直チニ日本新聞第一面ニ數日間連載セラレタリ文ノ揭ケタリ其全ルノ當時ノ外務大臣加藤高明氏ハ予ニ注意シテ曰ク個人ノ意見ハ論ジテ時ノ政ニ非ルコトヲ公ニスルトコロ公ニ非ルコトヲ世ニ告ル

大阪朝日新聞ヲ始トシテ他ノ諸地方ノ新聞ニ揭載セラレ大ニ世人ノ注目ヲ惹ケリ如何トナレバ世人ハ是迄大學教授ハ總テ温良恭謙讓ノ人ノミト思ヒシニ吾輩ハ忽焉トシテ對外硬ノ議論ヲ主張シ而カモ其議論ノ發表方法ガ稍ヤ果斷ナリシノ故ヲ以テ益ス世人ノ注意ヲ惹クニ至リタリ曩キニ國民同盟會ノ志士ガ吾輩ニ先チテ對外硬ノ議論ヲ吐キシニ當リテ其議論ノ頗ル巧ナリシニモ拘ハラズ御用新聞ノ記者ハ毒筆ヲ揮テ之ヲ罵倒シ甚シキニ至リテハ之ヲ同迷會ナリト唱リ、チヨン髷カ神輿ヲ舁クノ諷刺盡ヲ公ニスルニ至リシガ吾輩ノ議論世間ニ發表セラレテ後ハ同論者ハ急ニ增加シテ之カ爲メニ御用記者モ其筆鋒ヲ鈍クスルニ至リシハ頗ル愉快ニ堪ヘザリキ然リト雖露人ハ依然トシテ滿洲ニ割據シ日本ノ內閣ハ之ニ對シテ何等ノ異議ヲ狹ムノ勇氣無ク恰モ猫ノ前ノ鼠ノ如キ感無キ能ハズ是吾輩ノ大ニ憤慨セシ所ナルヲ以テ蹶然袂背シテ起チ益ス輿論喚起ニ從事シタリ

此ノ時ニ當リ國民同盟會ノ外ニ尙高橋秀臣氏松本正純氏等ノ組織シタル靑年同盟會ナルモノ有リ亦大ニ輿論喚起ニ從事シタリ

寺尾曰ク予ハ此ノ交ニ害アリ受ケタル外務ハ注意ヲ來タスノ淡解ヲ議スルニ對シテ國名ノ公然論ヲ揭ケタル此ノ公ニ紙上ニ掲ムルトコロ

進午曰ク何人カ故ナリ兼職アカ

「然リト雖」露人ハ依然トシテ云々」ノ後ニ「然リト雖」ノ使用法ハ甚タシク奇拔ナリ

進午曰此會アリシヨリ以後余ハ我々ガ此種ノ會ニ出席スルニ不適當ナルコトヲ自覺シ爾後此種ノ會合ニハ必ラズ缺席シタリ戸水博士ノ「聽者中ニモ亦演說者ニ對シテ禮ヲ缺キシ者アリシガ如シ」トハ諸同人ノ演說後某將軍ガ「大分長々シク聞キテ飽々シタル故速ク三味線ヲ持テ參レ」トノタマヒテ演說ノ終ルヤ否ヤデレ〱ノ體ニテ俗謠ヲ歌ハセ玉ヒタルコトヲ暗指シタルモノナランカ茲ニ至リテ同士諸博士ノ演說ガ紅葉館裏一妓ノ咽ニ及ハサルコトヲ殘念ガリデ我々ガ眞面目ニナリテ唱道スルコトノ未ダ世人ノ耳ニ入リ難キコトヲ歎シタルモノハ余ナリ

明治三十三年ノ冬ト覺ユ余ハ寺尾、金井、中村等ノ諸博士ト共ニ紅葉館ニ於ケル新聞記者ノ會合ニ出席シ法學博士有賀長雄氏モ亦席ニ在リ各自己ノ考フル所ヲ演說シ其演說ノ趣意ハ今ヤ半バ之ヲ忘却シタルモ大抵ハ兵力ニ訴ヘテマデモ露人ト爭ハサル可ラズト論セシハ甚タ可ナリ唯當日ノ演說ハ概シテ冗長ニシテ不出來ナリシノミナラズ聽者中ニモ亦演說者ニ對シテ禮ヲ缺キシ者有リシカ如シ考フルニ此ノ種ノ會ハ吾輩ノ演說ニ適當ト謂フ可ラズ

寺尾曰何人ノ小策ゾ敢テ這般ノ小刀細工ヲ事トス

第三節　明治三十四年一月ヨリ明治三十四年四月露清密約破棄ノ時ニ至ルマデノ情況

明治三十四年一、二月ノ交余ハ民間同志ノ青年ト共ニ東亞研究會ナルモノヲ組織シ東亞同文會ノ田鍋安之助及ヒ成田與作ノ兩氏爲メニ斡旋ノ勞ヲ取レリ會合者ノ中ニハ稍ヤ無賴ノ徒モ混入セシガ如キモ東亞研究會ハ吾人ニ裨益ヲ與ヘシコト少カラズ而シテ會合者ノ大多數ハ盛ニ露國討ス可シ滿洲蹂躙ス可シトノ議論ヲ主張セシカバ反對論者ハ之ヲ以テ有害無益ノ會合ナリト考ヘタルノ形跡無キニ非ズ或ハ一橋ノ學士會ヲ以テ其會場ト爲シ期ニ至リテ余ハ學士會ニ行キシニ小使ハ甚タ不服ナル顏ヲ爲シテ余ニ謂テ曰ク公ハ先刻電話ヲ以テ會合ノ申込ヲ取消サレタルニ非スヤ今ニ至テ又會合ヲ爲サントハ何事ゾ公等ニ當タル室ハ業既ニ和田垣博士等ニ貸シタリト余反問シテ曰ク誰カ會合ノ申込ヲ取消タリヤト小使茫然トシテ曰ク嗚呼公ノ名

ヲ以テ取消サレタリ余ハ戸水ナリト曰ツテ之ヲ取消サレタリ……公ハ取消サレタルニアラサルカ然ラバ一杯喰ハサレタルカト余曰ク取消シタル人ハ如何言ヒシヤト曰ク錦輝館ニ於テ會合セントヽ言ヒタリト

斯クシテ吾輩ハ何人カニ會合ヲ妨害セラレタレバ止ムヲ得ス其日ハ學士會ノ食堂ニ於テ會合スルコトヽ爲シタリ

右東亞研究會ハ單ニ亞細亞東部ノ事情ヲ研究センカ爲メニ設ケタルモノニシテ今日ニ於テモ成田與作氏ノ斡旋ノ下ニ時トシテ會合ヲ催フスコト無キニ非ス

進午曰苦心察スベシ

寺尾曰閣員チ吳下ノ阿蒙ト斷言スレレ著者ノ識見

進午曰閣員チ吳下ノ阿蒙ト罵ルハ是レ戸水博士ノ世ニ容レラレサル所以カ

却説明治三十四年ニ入リテ後モ日本ノ内閣ハ露國ニ對シテ斷乎タル處置ニ出テズ其閣員ハ悉ク是吳下ノ阿蒙ニシテ東亞ノ實情ニスラ通セザルノ感無キニ非ズ此ニ於テ故近衛公モ國民同盟會ノ志士モ寺尾博士等モ憤然トシテ輿論喚起ヲ以テ己ノ任ト爲シ新聞ニ雜誌ニ其意見ヲ發表シタリ而シテ余モ亦其驥尾ニ伏シテ意見ヲ公ニシタルコト幾回ナルヲ知ラズ此ニ其主要ナルモノヲ擧クレバ、

明治三十四年一月二十日發行ノ日本人ニ於テ「露國ニ對スル大覺悟」ト題スル論文ヲ掲ケタリ即チ左ノ如シ

今マ人アリ外地ヲ占略シテ日本ノ領土ヲ擴大スルノ利ヲ說カバ世人ハ必ズ以テ大言自ラ快トシ兼ネテ世ヲ惑ハス者トシテ群起之ヲ非難スベシ而カモ若シ日本ニシテ現時ノ疆域ヲ以テ滿足シ甞テ領土ノ擴張ヲ念頭ニ置カズンハ他日必ズ成立ヲ持續スル能ハザルノ時アルベシ蓋シ領土ノ擴張ハ即チ自存ヲ保ツ所以ノ方略ニシテ又タ國脈ヲ維持スルニ缺クベカラザルノ要素タレバナリ試ミニ上古ニ溯リテ國家ノ興隆發達シ來レル跡ヲ觀ズルニ矇昧野蠻ノ世ニ在テハ小ナル部落ヲ成シテ各處ニ散在分居シ以テ互ニ相ヒ爭鬪セリ然ル後强者弱者ヲ兼ネ優者劣者ヲ併セ而シテ最モ優强ナル者畢ニ全部落ヲ併合シテ一大國土ヲ搬建ス其ノ當初互ニ兼併蹂吞スルニ際シ會々部落中ノ或ル者領土ヲ擴大スルノ必要ナシトシテ擴張政策ヲ採ラザランカ他ノ部落ノ群民倏然掩至シ敗亡ノ禍踵ヲ回ラサズシテ到ルベク畢竟最始ニ領土擴張ノ必要ヲ感知シ且ツ之ヲ實行スルニ適當ナル

部落獨リ最後ノ勝ヲ制シテ竟ニ全部落ヲ支配スルハ必然ノ事實ニシテ其跡史乘ニ歴々彰見セリ近ク例ヲ我國ニ徴スルモ國内ノ統一ハ遠ク建國ノ以前ヨリシテ然リシニ非ズ百千ノ部落散在シ各聚相爭フテ強弱ヲ兼ネ優劣ヲ併セシガ爾後幾多ノ星霜ヲ經テ是等ノ部落互ニ結合シ遂ニ日本國民ヲ形成シ以テ今日ニ至リヌ更ニ變化多端ナリシ歐洲列國ノ事歴ニ徴スルニ先ヅ部落競爭ノ時代ヨリシテ小國相軋ル時代ニ移リ再轉シテ大國兼併シ小邦敗滅スルノ時代ニ入リヌ其ノ中古ニ在リテ幾百ノ小諸侯互ニ割據ノ態ヲ作シ市府覇ヲ相ヒ競フノ勢ヲ現セシモノ今日ニ迨ビテハ既ニ儼乎タル雄國ノ境域ヲ限畫スルアリ面積幾千方里ノ邦國ヲ以テシテハ其間ニ介立シテ國脈ヲ維持スルノ頗ル困難ナルニ至レリ夫ノ瑞西ノ若キ白耳義ノ若キ中古ニ在リテ彼ガ如キノ領土ヲ有スル者ハ決シテ小國ノ列ニ班スベキニ非ザリシ而ルモ今日ニ於テハ大國ノ間ニ介シテ國脈ヲ維持スルノ漸ク困難ト爲リ名ハ獨立トイフト雖モ實ハ永久中立ノ稱下ニ獨立ヲ保テルニ過ギズタヾ夫レ列國合議ノ下ニ協定セル永久中立國ナリ故ニ其ノ獨立ハ以テ永久ニ持續スルヲ得ルナルベキモ若シ然ラズバ獨立ヲ持續スルコト頗ル難事タルヲ免カレズ是レ即チ今日ノ趨勢ニシテ小國ノ漸次大國ニ兼併セラルヽハ必然ノ事實タルベシ故ヲ以テ歐人中ノ或ル者ハ云ヘラク現今ノ小邦比耳義ノ若キハ遂ニ佛國ニ併合セラレ和蘭ノ若キ亦タ獨逸ノ一部分ヲ形成スベキ運命ヲ有スト斯カル豫言ノ果シテ的中スルヤ否ヤハ知ル所ニ非ザレド是等小國ガ遂ニ現實ニ於テ其ノ獨立ヲ失ヒ單ニ史上ニ空名ヲ留ムルニ終ルノ日必ズ之レ有ルベキナリ

我ガ日本帝國ニシテ益々國威ヲ宣揚シ國權ヲ伸張セント欲ス必ズ此ノ趨勢ヲ知悉セザルベカラズ若シ今日ノ領土ヲ以テ滿足シ全ク領土擴大ノ政策ヲ排スルアル恐ラクハ世紀ヲ累スルニ隨ツテ次第ニ獨立ヲ保持スルノ難キヲ感ズルニ至ラン而シテ其ノ原因ヤ素ト種々アルベケレド交通機關ノ發達モ亦重モナル源因ノ一タルベシ抑モ交通機關ノ發達ハ領土ノ擴大ニ便利ヲ與フルコト大ナリ一タビ十九世紀下半期間ニ於ケル形勢ヲ瞥見スル者ハ直チニ其ノ謬ラザルヲ知察セン然ラバ小國ヲ以テ獨立ヲ保持ス

ルノ益々困難ナルベキハ確然タル事實トシテ見ルベク勢ノ促ス所或ハ我ガ日本ヲ驅リテ同一ノ渦中ニ投ズルノ斷シテ之レ無キヲ保シ難シ但ダ我國ヲシテ斯種ノ悲運ニ遭遇スルヲ免カレシムル唯一ノ方略ハソレ領土ノ擴大ニ在ルカ朔ヤ人口增殖ノ點ヨリ言フモ亦タ爾カセザルベカラザルノ必要アルヲヤ我日本ハ斯ク領土擴大ノ政策ヲ採ラザルベカラザル必要アリトセバ領土擴大ノ手段トシテ先ヅ南洋ニ領ヲ擴ゲンカ將タ又タ大陸ニ地ヲ拓カンカ必ズ其一ニ出デザルベカラズ余輩ノ觀ル所ニ據レバ機會ノ擴大ニ便スルアル毎ニ南洋ニ領ヲ擴ゲ更ニ大陸ニ地ヲ拓クヨリ可キハ莫シ而シテ南洋ノ事ハ之ヲ他日ニ讓リ聊カ大陸ニ就キテ左ニ陳ブル所アラントス

大陸ニ在リテ現時最モ指ヲ染ムルニ便ナルハ即チ朝鮮ト滿洲トヲ推ス朝鮮ノ如キ十九世紀ニ在リテコソ獨立ヲ全ウスルヲ得タレ小國ノ亡滅遂ニ今日ノ趨勢タリトセバ彼國ノ獨立ヲ保持スルノ年ヲ遂フテ益々難キヲ倍スハ爭フベカラザル所トス若シ朝鮮ノ上下ヲシテ一大奮發ヲ作シ弊政ヲ刷新シテ領土ノ擴大ヲ盡ルニ堪ヘシメバ幸此ニ過グル無キモ今日ノ情勢殆ド之レ有ルヲ望ムベカラズ寧ロ日ヲ遂フテ積弱ノ勢ヲ表ハシ到頭他ノ併合スル所ト爲ルヲ免カレシ縱シ併合サレザルニセヨ窮竟强國ノ權柄ノ下ニ立ツヲ脫カレザルベキナリ日本人ノ見地ヨリセバ朝鮮ヲ以テ露ノ權柄ノ下ニ立タシムルノ可ナルカ其ノ可否ノ如キ多言セズシテ自ラ瞭ラカナリ露ニシテ一タビ朝鮮ニ割據シ釜山或ハ馬山ニ至ルノ地ヲ擧ゲテ悉ク其ノ管下ニ置カンカ日本ノ不利眞個ニ多大ナルモノアルベシ徒ラニカクノ如クナランヨリハ寧ロソヲ日本ノ掌裡ニ收メ以テ地ヲ太陸ニ拓クノ楷ト爲スノ優レルニ若クアラズ斯ク言ヘバ或ハ不毛磽确朝鮮ノ如キヲ領有スルノ益無キヲ唱ヘテ駁擊ヲ試ムル者アルベキモ朝鮮ハ決シテ不毛磽确ノ瘠地ニ非ズ東部ノ地ハ稍々膏腴ナラズトハイヘ南部及ビ西部ハ頗ル肥沃ニシテ豐饒ナリ加フルニ全國ニ連亘セル山嶽ニハ雜多ノ遺利收ムベキアリ誰レカ此ヲ領有ニ加フルノ却テ負擔ヲ倍スニ過ギザルヲ唱フル者ゾ更ニ滿洲ニ就テ言フ概シテ肥沃豐饒ノ地麥アリ豆アリ穰々地ニ垂ル之ヲ

進午曰朝鮮ニ關スル此斷論ニ對シテハ何人モ異議ナカルベシ

進午曰其言ノ熱誠ナル戸水博士ノ如キ人ナカルベシ

取リテ收用スルノ多少困難ヲ感ズルナルベキモ領有ニ加ヘテ却テ日本ノ不利益ヲ致ス如キハ毫モ之レ有ル無シ是レ地ヲ朝鮮ト滿州トニ拓クノ日本ノ長策タルヲ唱道スル所以ナリ然ルニ朝鮮ヤ滿州ヤ露ノ夙ニ取ラント欲スル所蓋ニハ朝鮮政府ニ對シテ馬山浦附近ノ地ヲ請求シ且ツ現ニ滿州占略ヲ實行シツヽアリ露人ハ世界全體ニ對シテ宣言シ其ノ滿州占領ノ一時的占領ニシテ清國治平ノ日ヲ待チテ之ヲ還附スベキ由ヲ聲ラセリ而モ清國ノ容易ニ治平ニ歸セザルベキハ明白ノ事實ニシテ假令治平ノ日速カニ到ルニセヨ血ヲ流ガシ財ヲ糜シ獨力以テ占領セル土地ヲ擧ゲテ一旦其ノ故主ニ返還センコトハ容易ニ實行シ得ベカラザルノ事ニ屬ス況シテ露ノ現ニ行ヘル擧措ニ徵スレバ其ノ宣言ノ如何ニ拘ハラズ永久占領ノ計畫ヲ成シ新タニ「チヽハル」及ビ愛琿ヲ改稱シテ「チヽハル」ニハ「ボゴロダナヤ、ポスト」ノ名ヲ附シ而シテ愛琿ニハ「マリンスカヤ、ポスト」ノ名ヲ附シ盛大ナル命名式ヲ擧行シテ以テソヲ紀念シキ夫レ他人ノ土地ヲ占領シテ縱マヽニ其名ヲ更ヘ且ツ命名式ヲ擧行シテソヲ紀念ス其ノ如何ノ意思ヲ持シテ占

露國ガ滿洲撤兵條約ヲ履行セサルベキハ戸水博士ノ論文ヲ草スルニ當時既ニ遙ニ先ダチテ海外ニ於テ所謂見ノ明アリタリト謂ツベシ

領セルヤ既ニ炳焉タリ詳言セバ露ノ眞意ハ滿州ト朝鮮トヲ占領シ了ラントスルニ在リテ事ヤ既ニ形跡ノ上ニ彰見セリ

是ニ由リテ觀ル露ノ利害ト日本ノ利害トハ全ク正反對ニ出デリ古來正反對ノ利害ヲ有セル邦國ノ永ク和親ヲ保テルノ例ハ殆ド之レ有ル無シ我ガ日本國民中ノ或ル一部ハヨシ戰爭ヲ嫌忌スルトモ露ヨリ來リ促ガシテ之ヲ求ムルハ必然ナリタヾ今日ハ東方ノ防備未ダ完カラザルガ故ニ勗メテ釁ヲ啓クヲ避クレドモ日本ト戰フノ準備ハ汲々之ヲ整ヘテ懈ラズ日本軍隊ノ來リ攻メンコトヲ慮カリテハ旅順ノ防禦ヲ嚴ニシ日本人民ニ對スル敵愾心ヲ興起セントシテハ只管ラ我ニ對シテ憎怨ノ念ヲ鼓舞スルノ手段ヲ講セリ一例ヲ擧ゲテ證センニ西比利亞ノ小學校ニテハ孰レモ皆ナ大津事件ノ顚末ヲ詳記シテ故ラニ往來ニ面セル人目ニ觸レ易キ處ニ掲ゲザルハ莫ク更ニ其ノ內部ニハ之ヲ繪畫ニシテ掲揚シアリ其事件ノ發生セシ日到ル每ニ乃チ僧ヲ招キテ祈禱セシメヌト聞ク是レ州內ノ露人ヲシテ幼時ヨリシテ日本ヲ憎怒スルノ念ヲ腦裡ニ浸染セシムルノ手段ニ非ズシテ何

進午曰露ノ利害ハ日本ノ利害ト全ク相反スル斯ノ如ク其ノ官民相擧リテ日本ヲ憎怨スルノ手段ヲ講ズル亦タ彼ガ若シ日露ノ戰爭ハ竟ニ避クベカラザルベシ若シ日本ニシテ朝鮮ト滿州トヲ露ニ與フルヲ肯ンズルノミナラズ日本全州ヲモ擧ゲテ彼ニ捧グルノ決心ナラバ則チ兩國ノ交仗ヲ見ズシテ止ムベキモ苟モ然ラザル露トノ戰ハ到底避クベカラザル所其ノ避ケ得ベキヲ明言スルハ畢竟近視眼者タリ日露ノ開戰竟ニ避クベカラズトセバ其ノ兵火相交ハルノ日ハ知ラズ何レノ時ニ在ルベキ今日カ明年カ將タ又タ數年若クハ十數年後カ是ヲ陸海軍ノ準備ニ度リテ察ス我ガ日本ノ爲メニハ今日戰ヲ交フルヨリ便利多キハアラズ若シ一年ヲ贖フセバ則チ一年ヲ贖フスルノ害アリ更ニ數年十數年ヲ贖フスル徒ラニ彼ヲシテ便利ヲ增サシムルニ過ギズ今ヤ旅順ノ防備未タ完カラズ背面ノ防備ハ稍々整ヘリト雖モ全體ヨリ言ヘバ猶ホ不備ノ點多シ是レ一ナリ石炭ノ供給足ラズシテ今マ其ノ欠乏ニ窮メリ是レ二ナリ鐵道ヲ各地ニ敷設セル結果トシテ財政頗ル困難ノ狀アリ是レ三ナリ露ノ陸軍ハ太ダ强大ナリトイフト雖モ其ノ

進午曰戸水博士ノ言ハ現今ノ實狀ニ徵シテ正鵠ヲ得タルコトヲ知ルベシ

進午曰戸水博士ノ衝突ノ言葉ハ戸水博士ノ自然的ノ衝突ナリトシテ人爲的ニ害ヲ與ヘンカ如キモノナリトシテ突進ムルモ惟スルモ如何

絶東ニ送派シ得ベキ軍隊ハ極メテ僅少ノミ强キテ多大ノ兵ヲ送派セントセバ邊疆ノ守備爲メニ薄弱ト爲リ且ツ暴徒ノ蜂起ヲ來タスノ憂アリ往年舊都莫斯科ニ露帝ノ戴冠式ヲ擧行セル時聖彼得堡ヨリ許多ノ軍隊ヲ撤シ來レルニ白晝暴徒ノ帝都ニ蜂起スルヲ見キ是レ四ナリ前陳ノ危害アルニ拘ラズ多大ノ軍隊ヲ絶東ニ送派ストセンカ忽チ兵站ノ欠乏ヲ訴フルナルベシ是レ五ナリ今日露ト干戈相見ミヘバ我ニ前述ノ五利アルニ徒ラニ一時ノ苟安ヲ偸ミテ更ニ數年ヲ贖フセンカ露ハ直チニ其ノ鐵道ヲ利用スルヲ得ベク以テ旅順ノ防備ヲ完成スルヲ得ベク財政漸ク整フベク石炭ノ供給亦タ既ニ充分ナルベシ此時ニ當リテ露ト戰フハ我ニ不利多クシテ捷勝或ハ期シ難カラン一派ノ國人ハ露戰備ヲ整フレバ我レ亦タ此ヲ整フルニ因リ毫モ兵力ノ懸隔ヲ來タスノ憂アル無シト言ヘド旅順ノ防備ノ完否ハ兵力ノ强弱ニ關スル大ナルモノアリ寧ロ今日ノ我ニ便利多キニ乘ズルノ可ナルニ若カザルナリ

論ジテ此ニ至レバ世或ハ駁擊ヲ試ムル者アラン曰ク島國人民ノ領土ヲ大

進午曰卓見

進午日黄河今ヤ清清メリ唯永世ニ清マンコトヲ樂天覩スベカラズ

陸ニ有スルハ便利ナラズ英人ハ昔時佛國ニ領土ヲ有セシモ後チ之ヲ喪ヘリ今日印度ニ大版圖ヲ有スルモ常ニ統治ニ苦シメリ是レ島國ヲ以テ領土ヲ大陸ニ有スルノ利少クシテ害多キヲ證スベカラズヤト論者ノ言フ所頗ル謬レリ英人ノ昔時領土ヲ佛國ニ喪ヒシトテ是ヲ以テ直チニ島國ノ人民ハ領土ヲ大陸ニ有スル能ハズトイフノ理安クニカ在ル又タ印度ノ統治ニ苦シミツヽアレバトテ此ニ因リテ領土ヲ大陸ニ有スルノ徒ラニ利少クシテ害多キヲ即斷スルハ亦タ早計ニ失セリ共ニ其一ヲ知リテ其二ヲ知ラザルノ言未ダ以テ領土擴大ノ利ヲ否定スルニ足ラザルナリ或ハ又タ言ハン日露ノ開戰ハ到底避クベカラズトモ今マ暫ラク此ヲ延ベ以テ一層ノ好機到來ノ日ヲ待タンニ若カズト然ルモ今日ハ東洋ニ動亂アリカヽル好機會ハ復タビ得ルニ難カルベシ謂ユル今日ニ優ルノ好機會トハ果シテ何樣ノ機會ナルベキカ英人ハ果シテ日本ニ同情ヲ寄セテ公然相提携スルノ時アルベキヤ余ノ見ル所ヲ以テセバ此ヲ待ツハ宛モ河清ヲ待ツト同ジ決シテ到來ノ時アラザルベシ從來英人ノ採ル所ハ他ヲシテ兵火相爭ハシメ而シ

テ己レ其間ニ立チテ鷸蚌ノ利ヲ收ムルニ在リ己レ與ミスルノ態ヲ裝フテ巧ミニ利ヲ制スルヲ常トス延キテ恃ミトスベキ國ニ非ザルナリ且ツ印度北西境ノ情勢ハ英人ヲシテ容易ニ動キ能ハザラシムルモノアリ其ノ北境「パミール」高原ノ一部ハ既ニ露ノ把握ニ歸シ其勢力普ク高原ノ東方支那土耳其斯坦ニ延及セリ喀什噶爾ニ滯在セル露ノ總領事ハ近頃マテ「ペトロブスキー」氏ナリキ今日モ猶ホ然ルベシ斯人敏才ニシテ機畧アリ孜々トシテ露ノ爲メニ經營シ喀什噶爾及ビ其ノ附近ノ地ニ勢力ヲ振ヘリ又タ「パミール」高原中ノ「チャロツク」及ビ其他ノ數處ニ露ノ兵營アリ日々間諜ヲ放チテ印度北境ノ事情ヲ偵察セシメリ轉ジテ印度ノ西境ニ及ベバ阿富汗坦ハ英露ノ孰レニモ從屬セザレド露ハ次第ニ勢力ヲ斯地ニ及ホシツヽアリ而シテ土耳其斯坦一帶ノ地ハ既ニ悉ク露ノ有ト化シ其地ヲ横截セル大鐵道ヲ敷設シテ裏海ノ舟運ニ頼リテ高加索トノ聯絡ヲ通ジ諸般ノ準備着々緒ニ就ケリ印度北西境ノ憂フベキ寔ニ斯ノ如キアリ幸ニ露ノ力ヲ東方經略ニ專ラニセルガ故ニ潛心印度ノ攻擊ヲ畫スルニ遑アラザレドモ一旦東方ノ

經略ヲ放棄スルニ決セバ必ズ此ヲ窺フニ躊躇セザルベキナリ是ニ因リ英ノ利害ニ料リテ言ヘバ露ト日本トヲ爭ハシムルヨリ良キハ莫ク日本ト提携スルハ其利益トスル所ニ非ズ或ハ一時ノ便利ヲ度リテ提携ヲ裝フコトアルヤ測ラレザルモ公然同盟スルハ決シテ之レ無ケン

或ハ又タ曰ハン日露交仗スルノ時ハ獨佛必ズ露ヲ援クベケレバ勢ヒ三國ヲ敵トスルノ覺悟無カルベカラズ是レ我ガ國力ノ能ク敵スル所ニ非ザルベシト亦タ均シク謬見タルヲ免カレス佛獨果シテ露ト同盟シタレバトテ幾何隻ノ軍艦ヲ絕東ニ派遣スルヲ得ベキ此ト同時ニ伴伍シ來ルベキ陸兵ヤ亦タ知ルベキノミ詎ゾ恐ルヽニ足ランヤ今日ノ情勢タトヘ三國横連ノ師來リ攻ムルトモ我ガ兵力ハ以テ邀ヘ戰フニ堪フベキナリ

斯ノ如ク論シ來レバ直チニ目スルニ燕趙悲歌ノ流ヲ以テシ敢テ攻擊ヲ試ムル者アルベケンモ彼等攻擊ヲ試ムルノ徒ハ果シテ情勢ヲ孜察シ利害得喪ヲ研究スル所アリテ然リシカ北清動亂ノ初メテ起レル時仔細ニ眞情ヲ孜察シ利害得喪ヲ研究セル者ハ洵ニ寥々タリキ今日ニ在リテモ亦タ此ト同シク仔細ニ戰爭ノ利害得喪ヲ研究セル者ハ眞トニ晨星モ啻ナラザルベシ苟モ此ガ利害得喪ヲ研究セル者アル必ヤ余ノ所言ニ首肯スルニ躊躇セザルベキナリ

又同年三月二十日發行ノ倫理界ニ於テ左ノ論文ヲ掲ケタリ

侵畧主義ト道德

竹内君ガ度々來ラレテ倫理界ノ第二號ノ材料ヲ欲シイ云フコトデアリマシタ折惡シク不在デ竹内君ニ逢フコトガ出來マセンデシタガ手紙ヲ見マスト何カ盛ンナル議論ヲ出セト云フコトデアリマス倫理ニ關シテ盛ンナル議論ト云フコトハムヅカシイコトデアリマスケレドモ侵略主義ト道德トデモ論ジタナラバ竹内君ノ注文ニ適フタラウト思ヒマス私ハ元來侵略主義ヲ唱ヘテ居ルモノデアリマス領土擴張主義ヲ唱ヘテ居ルモノデアリマス敵國撲滅策ヲ唱ヘテ居ルモノデアリマス併ナガラソレガ道德ニ反スルト云ハレテハ大ニ困ルノデ此處ニ其反セザル所以ヲ少シク述ベヤウト思フノデアリマス

極野蠻ノ時代デハ部落ガ澤山互ヒニ爭ツテ居リマシタ其時代ニ於テ最モ侵略ヲ好ム所ノ最モ強イ部落ガ後ニ殘ツタノデアリマスソレカラ世ノ中ガ段々進ンデ部落ガ合併シテ一ノ國ヲ成スヤウニナツテ來タ歐羅巴ノ中古時代デハ餘程世ノ中ガ進ンデ居ツタモノデアルカラ國ガ既ニ大分大キクナツテ居ツタ併ナガラ其時代ノ國ト云フモノハ今日ノ國ト比較シテ見ルト形ガ餘程小サイ其國ヲ持ツテ居ル所ノ諸侯ガ互ヒニ攻合フテ互ヒニ爭ツテ居ツタ其中デ領土擴張ニ最モ熱心ナル所ノ最モ強イ諸侯ガ後ニ殘ツタノデアリマス段々世ノ中ガ進ンデ十九世紀ニナルト國ノ形ガ中古時代ト比ベテ見ルト餘程大キクナツテ居ル和蘭ノ樣ナ所[ベルジツク]ノ樣ナ所ソレカラ[スイツルランド]ノ樣ナ所ナドハ國ヲ成シテ居ルト云フダケノコトデアツテ今日ハ薩張リ勢力ヲ振フト云フ譯ニハ行カヌ若シモアヽ云フ面積ヲ持ツテ居ル國ガ中古時代ニアツタナラバ其國ハ餘程強イ國デアツタノデアリマス所ガ今日ニ於テハアレダケノ面積アレダケノ人口デハ到底強國ノ中ニ列スル譯ニ行カヌ和蘭ハ歐羅巴ノ西ノ方ニ位シテ僅カニ獨立シテ居ルト云フダケノコトデアル[スイツルランド]ヤ[ベルジツク]又ハ[ルクサンブルグ]ノ樣ナ所ハ永久中立ノ名ノ下ニ獨立ヲ保ツテ居ルノミデアツテアヽ云フ所ハ本統ノ獨立トハ云ハレヌ歐羅巴列强ノ共同ノ屬國ト見テモ差支ナイ是カラハ二十世紀ニナルト云フ所デアルガサウナツテ來ルト云フトアヽ云フ國ナドハ永ク獨立ノ體面ヲ保ツテ行ケルカドウダカ疑ハシイソレカラ土耳古ノ北ニ小サイ國ガ澤山アル[ブルガリヤ]ヲ始メ色々ナ國ガアルアヽ云フ國ハ今日ハ皆獨立ノ體裁ヲ備ヘル樣ニナツテ居ルケレドモアノ邊ニ變亂ガアルト永ク獨立ノ體面ヲ保ツテ行ケルカドウカ疑ハシイアノ邊ノ變亂ト云フモノハ今日人ノ皆豫想シテ居ル埃地利ニ何カ變亂ガアルト土耳古ノ北ニモ變亂ガアルニ相違ナイト人ノ皆想像シテ居ル所デアル埃地利ノ皇帝ハ餘程老年デアルカ今暫ク經ツト云フト皇帝ノ崩御ノ時モ來ルサウスルト土耳古ノ北ニハ變亂ガ起ルト云フコトハ人皆豫想シテ居ル所デアリマス其時代ニ於テアレ等ノ小サイ國ガ或ハ外ノ國ニ取ラレルカ或ハ互ヒニ合併シテ一大國トナルカ此二ツノ中デアラウ

ト云フコトハ皆人ノ想像シテ居ル所デアリマスソレ等ハ極小國ノコトデアリマスガ大キナ國ノコトニ付テ申シマスト佛蘭西ヤ獨逸ナドハ今日ニ於テハ餘程強國ノ位置ニ据ヘラレテ居ル成程今日ニ於テハ強國ニ相違アリマスマイ併ナガラアレダケノ領土ヲ持チアレダケノ面積ヲ有シテハ久シク強國トナツテ行クト云フコトハムヅカシカラウト思ハレルノデアリマスナゼト申シマストアヽ云フ國ヨリモ更ニ大ニ盛ンニナラウト云フ國ガ色々アル其重モナルモノハ即チ英吉利ニ露西亞ニ亞米利加ト此三ツデアリマス先ヅ露西亞ニ付テ申シマスト

露西亞ハ彼得大帝以後盛ンニ領土ノ侵掠ニ從事シテ居ル彼得大帝自身ハ或ハ中央亞細亞ノ手ヲ出ストカ或ハ西比利亞ニ手ヲ出シ掛カルト云フ樣ナ譯デ色々ナ計畫ヲナシマシタケレドモ目的ガ達シナカツタ併ナガラ侵略ニ關スル遺訓者デアル其遺訓ニ依ルト云フト東洋諸國ナドハ先ヅ宗教ヲ廣メテ置イテ然ル後其領土ヲ侵掠シタ方ガ宜イナドヽ云フテ居ル今日露西亞ハ皆其流義デヤツテ居ル併ナカラ西比利亞ノ事ヲ申シマスト彼得大帝以前ヨリ既ニ大分侵略ニ從事シテ居ツタノデ侵略ニ最モ與ツテ力アル人間ハ「ヤルマック」ト云フ人デアリマス之ガ西比利亞ノ西ノ「オビ」河ノ邊デ大勳功ヲ建テヽ居ル「ヤルマック」自身ハ蒙古ノ酋長ノ爲メニ遂ニ殺サレテ仕舞ヒマシタケレドモ併ナガラ其事業ハ西比利亞侵略ノ土臺トナツテ居ルノデアリマス彼得ヨリモズツト後ニ「ムウラヴヰヨフ」ト云フ豪傑ガアツテアレガ東部西比利亞ノ總督ニナリマシタノガ僅カ三十七歳デアツタ隨分露西亞ト云フ所ハ拔擢ヲ行フ所デアルガソレデスラ三十七歳デ總督ニナツタナドヽ大抵ノ人ガ皆驚イテ居ツタ位デアル併ナガラ其「ムウラヴヰヨフ」ト云フ人ハ拔擢セラレルダケノ人物デアツテ「ムウラヴヰヨフ」ノ力ニ依ツテ西比利亞ノ大部分ハ露西亞ノ手ニ歸シテ仕舞ツタ千八百五十八年ノ愛琿條約ニ依ツテ露西亞ガ黑龍江地方ヲ取ツタノハ全ク「ムウラヴヰヨフ」ノ功デアリマスソレカラ二年後レテ千八百六十年ニ「イグナチエフ」ガ北京條約ヲ結ンデ烏蘇利地方ヲ手ニ入レタ即チ浦鹽斯德ヲ手ニ入レタノデアリマス此「イグナチエフ」モナカ々ノ豪傑デアツタサウシテ此頃ニナツテ

來ルト云フト西比利亞ダケデハ足リナイデ滿州モ取ルト云フ譯デ滿州ダケデ足リナイデマダ朝鮮ヘモ手ヲ伸バスデアラウ朝鮮ヲ取ッテ仕舞ヘバ必ズ日本モ欲シガルデアラウ

又露西亞ガ中央亞細亞ニ於テナシタル計畫ヲ申シマスト云フト「ボッカラ」、「サマルカンド」ナドヽ云フ所ハ大分前ニ手ニ入レテ仕舞ッタノデアリマス「サマルカンド」ハ誰デモ知ッテ居ル通リニ帖木兒ノ都シテ居ッタ所デアル帖木兒ノ遺跡モ彼處ニアレバ帖木兒ノ墓モ彼處ニアッテ帖木兒ガ自分ノ姉妹ノ爲メニ建テタ所ノ家モアル是等ノ建物ハ美術ノ點カラ見テモ立派デアルシ構造ノ點カラ云ッテモナカ〳〵ニ大キナモノデアルソレカラ「メルブ」モ十六七年前手ニ入レテ居ル「メルブ」ト云フ所ハ「アレキサンドル」大王ノ拵ヘタ街デアッテ成吉汗ガ毀シタノデ帖木兒ガ再興シテ後ニアノ地方ノ韃靼人ノ爲メニ毀サレタ所デアリマス今日ハ舊ノ街ハ餘程微〳〵タルモノデアリマスソレカラ「パミル」高原ハ露西亞ガ六七年前ニ手ニ入レテ居ルアレヲ取ッテカラハマダ十年ニハナリマセン「パミル」高原ノ高サヲ申スト一萬二三千尺デアリマス即チ其平均ノ高サガ富士山ヨリハ少シハ低イケレドモ併ナガラナカ〳〵ニ高イ所デアルアレハ高原ト稱シテ居ルケレドモ實ハ山ノ塊リダサウ云フ所デアルカラ極寒イ穀物モ餘計ナイ人口モ餘程稀少デアル人口ハ二千ニ充タヌ位デスソレ位ノ人ヲ治メルニ露西亞ガ毎年十萬留ハ費シテ居ル一寸見ルト割ニ合ハヌ仕事ヲシテ居ル併ナガラ露西亞ガ斯ノ如ク割ニ合ハヌ仕事ヲシテ居ル所以ハ「パミル」高原ヲ土臺トシテソレヨリ東ノ方ヲ侵略シヤウト云フ積リデアルカラデアルソレヨリ東ノ方ハ支那ノ土耳其斯坦ノ方ハマダ露西亞ノ領土ト云フコトデハナイガ露西亞ノ總領事ガ彼處ニ住ッテ居ッテアノ地方ニ大ニ勢力ヲ振ッテ居ル先達ッテ西藏ト使節ノ往來ガアッタノハ全クサウ云フ關係カラ起ッタコト、思ハレル此「パミル」ノ高原ノ方ハ餘程高イカラ彼處ノ所ニ鐵道ガ來テ居ルト云フ譯デモナイガ併ナガラアノ近傍ニハ既ニ鐵道ガ來テ居ルソレカラ「ボッカラ」「サマルカンド」ノ方ノ西土古其斯垣ノ方ニハ鐵道ハ既ニ來テ居ル又只今申シタ

所ノ「メルブ」ニモ固ヨリ鐵道ハアル約十六七年前ニ其處ヲ取ツテ置イテ鐵道ハ既ニ通ジテ居ル「メルブ」ノ舊ノ街ニハ露西亞人ハ餘リ餘計住ツテハ居リマスマイガ併ナガラ停車場ノ近傍ニハ露西亞人ハ大分居ル舊ノ街ト停車場ノ距離トヲ申ストザツト二十五英里位アル露西亞人ガ鐵道ノ停車場ヲ造ルニハ必ズ舊ノ街ヨリハ少シ離レテ造ル「ボッカラ」ノヽハ十二三英里アル「サマルカンド」ノハ舊ノ街ヨリ五六英里アルサウ云フ譯デ停車場ハ必ズ舊ノ街ヨリ離レテ居ルソレデ停車場附近ニハ露西亞人ガ段々增加スルソレガ露西亞ノ流儀デアリマスサウ云フ工合デ露西亞ハ中央亞細亞ノ方ヲ取ツテ　猿臂ヲ「パミル」ニ伸バシ更ニ東ニ伸バサウトシテ居ル加之印度ニ對シテハ常ニ攻勢ヲ取ツテ居ルナカ々々盛ンナ國ト云ハナケレバナラス先ヅザツト申シマスト露西亞ノ皇帝ハ誰デモ知ツテ居ル通リニ羅馬皇帝ノ系統ヲ繫イテ居ルモノト考ヘラレテ居ツテソレガ彼得大帝ノ拵ヘタ所ノ聖彼得堡ニ都シテ彼得大帝ノ遺訓ニ從ツテ諸處ヲ侵略シテ今日ノ所デハ成吉汗ノ支配シテ居ツタ所モ取レハ帖木兒ノ都モ取リ「アレキサンドル」

進午曰ハナシテ思ハズ戰慄セシム

ノ造ツタ市モ手ニ入レテ居ルノデアル誠ニ世界ヲ併呑スルノ勢ヒガアルノデ日本ナドハ無論其望ノ中ニアル露西亞ノ事ハソレダケニシテ次ニ亞米利加ノ事ニ付テ一言致シマス

亞米利加ハ元來ガ共和國デ温和ナ國デアツタ所ガ近頃ニ至ツテ段々侵略主義ヲ行フ樣ニナツテ居ル餘リ古イコトヲ言ハヌデモ現ニ布哇ヲ取ツタノデアリマス又非拉賓ニ手ヲ伸シテ未タ非拉賓ヲ取ツタト云フ譯デハナイケレドモ併ナガラ重モナル部分ヲ占領シテ熱心ニソレヲ取ラウト掛ツテ居ルノデアリマスソウシテ合衆國ノ面積ヲ見ルトナカ々々廣イ人口モ年々非常ナ勢ヒヲ以テ增加シテ行ク殖產興業モ非常ニ進ミ學問モ大ニ進歩シテ富モ大ニ增加スルサウ云フ譯デアルカラ少シク活眼ノ士ハ露西亞ヤ亞米利加合衆國ノ前途ヲ考ヘルト數十年後ニハアノ二ケ國ハ非常ナ大キナ國ニナルダラウ盛ンナモノニナルダラウト言ツテ居ルガ成程其通リデアラウト思フ今ハ既ニ死ンデ仕舞ヒマシタガ英吉利ニ「シイリー」ト云フ人ガアツタアレガ其二ケ國ノ盛大ニ趣キツヽアルノヲ見テアノ二ケ國

ガ盛ンニナルヤウデハ迚モ獨逸ヤ佛蘭西ハ後ヘニ膛若タルヲ免レナイ英吉利モ昔ノ狀態デ以テ行クト大抵此二ヶ國ノ爲メニ壓倒サレル英吉利ノ爲メニ策ヲ立テルモノハ濠太利デアルトカ加奈陀デアルトカアヽ云フ所ヲ合併シテ協力セシメテサウシテ一大帝國ト成ツタラ宜カラウト言ツテ居ル併シアヽ云フ飛ビ々々ノ土地ヲ一緒ニ合併シテ一大帝國ト成ルト言ツタナラバ氣ノ小サナ人間ニハ可笑イカ知レヌケレドモ今日ハ交通ガ非常ニ便利デアルカラチツトモ可笑シクナイト言ツテ居ル成程「シイリー」ノ言フ通リデアツテ今日ノ英國ノ政治家ハ大抵皆同ジ樣ナ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス

ソレデ英吉利ガ近頃ニ至ツテ經營シタ所ニ付テ申シマスト英吉利ハ阿非利加ニ於テ大ニ事ヲ爲サウトシテ居ル現ニ近頃「ファショダ」ヲ取ツタサウシテ又「トランスバール」ヲ取リツヽアル阿非利加ノ「カイロ」カラ「ケープ、コロニー」マデ縱貫鐵道ヲ敷設シツヽアルアノ縱貫鐵道ガマダ終ツタト云フ譯デハナイケレドモ必ズ目的ヲ達スルダラウト想像スル若シアノ阿非利加ノ縱貫鐵道ガ成ツタナラバ殆ド阿非利加ヲ併有スルニ均イ話デアル英吉利ノ本國ハ餘リ大キクナイケレドモ併ナガラ濠太利ト加奈陀トヲ合併シ加フルニ阿非利加ヲ併有シタナラバ非常ナ大國ト云ハナケレバナラヌ夫故今後ノ傾勢ヲ申シマスルト前ニ述ベタ所ノ亞米利加ト露西亞ト此英吉利トガ非常ニ盛ンニナツテ他ノ國ハグヅ々々シテ居レバサウ云フモノニ悉ク壓倒サレテ仕舞フ

十九世紀ノ上半期以前ニハ交通機關ガ不十分デアツテ武器モ鋭利デナカツタ此二ツノ原因ノ爲メニ餘リ大キナ國デナクテモ國ヲ維持スルコトガ出來タケレドモ今日デハ武器ガ迅速ナ勢ヒヲ以テ改良セラレテ居ルシ又交通機關ガ非常ニ進ンデ來タ此武器ノ進歩ト交通機關ノ進歩ト云フコトハ大ニ注目シナケレバナラヌコトデアリマスソレガ爲メニ私ハ歷史ヲ太古ト中古ト近代トニ分ツコトガ出來ルモノトスルナラバ十九世紀下半紀以後ヲ近世ト稱ヘタイノデアル歷史上ノ事實ヲ擧ケタナラバ本體ハ「クリミア」戰爭以後カラ近世ニ繰込ンデ宜カラウト思フ先ヅ何レニ致シマシテ

モ此頃ハ武器ト交通機關トノ二ツノ改良ノ爲メニ小サナ國ガ獨立ヲ維持スルト云フコトハムヅカシクナツテ來テ居ル亞米利加ヤ露西亞ヤ英吉利ガ既ニアンナ大キナモノニナツテサウシテ交通機關ガ非常ニ盛ンニナツタナラバ其上ニ武器モ改良セラレタナラバ日本ノ樣ナ所ハ枕ヲ高クシテ眠ルト云フ譯ニハ行カヌ日本モ大ニ侵略主義ヲ取ラナケレバ遂ニ亡ビルデアラウト思フ

日本ノ人口ノ殖增ノ點カラ考ヘテ見テモ領土ノ擴張ト云フコトハ必要デアラウト思フ日本ノ人口ハ年々五十萬人モ殖エル露西亞ハ年ニ二百萬モ殖エルト云フコトデアルガソレニ比較シテ見レバ日本ノ人口增殖ハ少ナイモノデアルケレドモ併ナガラ年々五十萬人ノ增加ト云ヘハ大シタモノデアル之ガ諸國ニ移住スルト云フコトハ必要デアル併ナガラ日本人ガ他ノ國ニ移住スル目的ヲ達シタカト云フト決シテサウ云フ譯ニハ行カス亞米利加ニ移住スレバ叱ラレテ歸ル濠太利ニ移住スレバ矢張是モ苦メラレテ歸ル日本人ハ安全ニ他國ニ移住スルコトガ出來ナイノデアルサウシテ

見タナラバ此餘ツタ人口ヲ植付ケルト云フ點カラ見テモ領土擴張ト云フコトガ必要ナノデアル領土ヲ擴張シタナラバ二十世紀以後ニ於テモ獨立ヲ保ツテ行クコトモ出來ルシ又餘ツタ人口ヲソレニ植付ケルト云フコトモ出來領土擴張ヲシナカツタラバ餘ツタ人口ヲ植付ケル所モナシ甚ダシキニ至ツテハ二十世紀以後ノ大勢ニ適スルコトガ出來ナクテ亡ビルデアラウト思フ若シモ亡ビルトスレバ是即チ祖先ノ守ツテ居ツタ所ノ國ヲ失フノデアル即チ祖先ニ對シテ不孝デアル若シモ亡ビルトスレバ日本ニ君臨セラレテ居ル所ノ　皇室ガ領土ヲ失ハレルノデアル坐視シテソレヲ待ツノハ是ハ　皇室ニ對シテ不忠デアル詰リ私ノ考デハ今日ニアツテハ侵畧主義領土擴張主義敵國撲滅策是等ハ皆必要ナノデアツテ之ヲ行ハナケレバ祖先ニ對シ不孝デアル　皇室ニ對シ不忠デアルト思フノデアル一口ニ言ヘバ不道德デアルト思フノデアル尋常一般ノ道德家ニ質スト云フト他國ヲ占領スルナドヽ云フコトハ餘程不道德ノ樣ニ考ヘテ居リマスケレドモ私カラ言ヒマスト他國ヲ侵畧シナイノガ非常ナ不道德――不道德ノ

骨頂ダト思フノデアリマス

雜誌東洋ハ故近衛公ノ機關雜誌タリシコト人ノ能ク知ル所余ハ同年四月十日其第一號ニ於テ左ノ論文ヲ掲タリ

露清條約ト對外政策

去年五月清國團匪ノ亂有テ以來、北京正ニ世界外交ノ中心トナリ、列强互ニ馳騁追逐、北清ノ天動モスレバ風雲甚急今即チ露清條約ノ說愈疑フ可ラス、滿州三十餘萬方哩沃土亦將ニ折レテ露ノ掌中ニ入ラントス、偉ナル哉、坤輿五洲國ヲナス者多シト雖モ、宏謀遠圖、夙ニ擴張ノ策ヲ確立シ斷乎侵畧ノ計ヲ決行シテ憚ラサル者ハ實ニ露西亞帝國ニ如ク莫ルベシ今此ニ露國謀圖ノ由テ來ル所ヲ案スルニ、侵略擴張ノ計策ハ早ク已ニ「イヴアン」四世ノ頃ヨリ始マリシガ、其大ニ此ニ從事スルニ至リシハ即チ「ペートル」大帝ナリ、一千六百八十九年八月二十七日清國康熙皇帝ノ時ニ當リ、露清ノ間彼「ネルチンスク」條約ヲ締結セシノ際ニハ「ペートル」ハ年齒猶弱ク、彼ガ其ノ國內ノ敵ヲ掃蕩シテ漸ク政權ヲ握ルヲ得タリシハ、即チ一千六百八十九年九月十二日實ニ「ネルチンスク」條約ヨリ二週間ノ後ニ在リ、此ニ由テ考フレバ「ネルチンスク」條約ノ「モスコウ」マデニ達センニハ多少ノ時日ヲモ要スベケレバ其到達ハ必ズ大帝政權掌握ノ後ナラサルベカラズ、サレド爾時康熙皇帝ノ世ハ清國恰モ冲天ノ勢アリシ時ニシアレバ、遠隔ノ身ノ「ペートル」如何ニ豪邁ト云フト雖トモ遂ニ又如何トモスル能ハズ、乃チ「ペートル」ハ此面白カラス條約ヲ得テ敢テ之ニ向テ爭フヲ爲サズ、却テ暫ク其支那ニ對スルノ畫策ヲ拋チ、更ニ中央亞細亞ノ地ニ向テ大ニ企圖スル所アラントシ、其「ボクカラ」金鑛發見ノ報ニ接スルニ及ンデヤ、一千七百十三年愈々之ガ經略ノ策ヲ立テ一千七百二十二年ノ頃ニハ即チ猿臂ヲ伸シテ南方遙ニ波斯ヲ計ラントシ、一說ニヨレヾ此時已ニ印度侵略ノ計畫ヲモナシタリト云ヘリ、印度侵畧計畫ノ果シテ眞ナリヤ否ヤハ未タ必スベカラズト雖トモ、兎モ角モ「ペートル」大帝ガ、獨リ歐羅巴ノ地ニ於テ覇ヲ企テシノミニ止マラズ、更ニ亞細亞ノ土ニ向テ雄圖ヲ抱キシハ蔽フベカラサルノ事實ナリ、即チ彼ノ露國人ガ今ニ至テ猶大帝ノ遺圖ヲ棄テズ、只管遺詔ヲ奉戴シテ偏ニ領土ノ擴張ニ全力ヲ注

進午曰ク傑モ時ニ雖伏スルコトアリ戸水博士心チ安ンズヘシ日本ノ國家モ亦自ラ慰ムルノ所アルベシ

進午曰老巧ノ言

グモノ、之ヲ他國人ノ眼ヨリ觀レバコソ忌ムベキガ如クモアレ其彼ガ謀圖ノ如何ニ宏壯ニシテ其計畫ノ如何ニ雄大ナルカヲ見バ、我日本帝國ノ如キモ少シハ之ニ倣フノ心ヲ起シテ可ナリ、唯古ノ所謂英雄豪傑ハ一時直ニ世界併呑ヲ企テシモ、今幸ニ日本ニシテ露ノ爲ス所ニ倣ハント欲セバ、敢テ必シモ焦燥急迫ヲ要セズ、寧ロ成功ヲ數百年ノ後ニ期シ全局ヲ掩フテ必ズ目的ヲ達スベキヲ誓ヒ、唯平常ニ在テ造次ニモ領土擴張ノ念ヲ忘レズ、苟モ機會ノ乘スベキアラバ每ニ必ス若々之ガ歩ヲ進ムルコトヲ要スルノミ

サテモ露國ハ[ペートル]大帝ノ遺圖ヲ紹ギ、既ニ中央亞細亞ヲ侵略シ[パミール]ノ地ヲ蠶食シテ、早ク使節ヲ西藏ニ通シ、西南又直ニ印度ノ土ニ向テ壓迫シ來ラントス、而シテ北ハ則チ西比利亞無限ノ廣野夙ニ其領有ニ屬スル所實ニ今ノ露人ハ[ペートル]ノ雄圖ヲ襲キテ成吉斯汗ノ君臨セシ全土ヲ横領シ帖木兒ノ都セシ[サマルカント]ニマデ猿臂ヲ容レ[ツアール]ノ號空シカラズ、居然トシテ世界ニ雄視シ、更ニ進ンデ滿洲全土ヲ席卷セントナセルナリ

今ノ所謂露清條約ノ如キ亦唯此畫策ヲ成就スルノ一具タルニ過キズ、其之

進午曰照臨甚ダ妙

アルヤ洵ニ是レ自然ノ趨勢、必至ノ數理ノミ、獨リ愍ムヘキハ我邦一派ノ政治家等ガ一度增祺[アレキシェーフ]條約ニ驚カサレ、二度揚儒[ラムスドルフ]條約ニ驚カサレ今カノ如ク遽ニ膽ヲ破リテ騷キ立ツルニ至リシハ如何ニモ其淺見無識ヲ表白セルモノニシテ只管神經過敏ノ致ス所ト謂ハサルヲ得ズ、人洵ニ苟セ露國謀圖ノ由來ト其計策ノ組織系統ヲ知ルアランニハ、斯許リノ事、固ヨリ今更ニ訝カルヘキニモアラス、サルニテモ羨ムヘキハ實ニ彼レノ宏謀遠圖、希フヘキハ偏ニ我レノ膨脹擴大ナル哉、ソハ兎モ角モ露國已ニ滿州ノ占領ヲ解カス、却テ愈々其掠奪ノ野心ヲ暴露シ併呑ノ意ヲ逞フセントストセバ、是豈ニ寧ロ我島帝國ノ乘シテ以テ一大飛躍ヲ試ムベキノ時ニ非スヤ。

世ノ露清條約ヲ說ク者往々ニシテ其條項ノ內容ニ論及シ或ハ云々ノ規定アルガ故ニ抗議ノ餘地ナシト云ヒ將タ斯々ノ明文アルヲ以テ干涉シテ可ナリト唱ヘ、甚シキハ中ニハ其規定ノ綿密周到ニシテ遺漏ナキヲ稱シ感心ノ首ヲ傾クル者サヘアリ、然レドモ余ヲ以テ之ヲ觀レバ、我邦ニシテ眞ニ果

進午曰再ビ戸水博士其人ノ本色ヲ見ル

シテ露ト爭フノ決心アラバ、區々條項ノ末節ノ如キハ、敢テ之ヲ論セスシテ可ナリ、日本ハ寧ロ斷乎直ニ露ノ行動全般ニ對シテ抗議スベキノ至當ナルヲ信ス、初メ增祖[アレキシェーフ]條約ノ傳ヘラルヽヤ、時ニ流言頻リニ至ル、日本政府乃チ露國政府ニ其眞僞如何ヲ質セシニ、露國政府ハ暴慢無禮ニモ頑然我ノ問ヲ斥ケ辯明ノ限リニ非ストカ答ヘシトノ說アリキ、然レトモ之ヲ西比利亞滿州等ノ露ノ派遣將校ナリトセバ中ニハ隨分蠻勇憚ナキノ輩モアル事ナレバ或ハ無顧着ニモ此ノ如キ回答ヲ致スニ躊躇セサル事モアルベキナレド、唯之ヲ露本國ノ中央政府トシテハ假令胸中ニハ世界併呑ノ心モ包藏スル事アルベキモ、之ヲ口外ニ出シテ公然表白スルガ如キコトナカルベシトハ識者ノ已ニ觀破スル所、余輩モ寧ロ敢テ之ヲ信セズ、然レバトテ露ノ滿州ニ於ケル決シテ今日ノ地位ヲ以テ滿足スルモノニハアラス、否寧ロ增祖[アレキシェーフ]條約以上ノ權利ヲモ獲得セントナシツヽアルハ寔ニ明白疑フヘカラサルノ事ナリトス下テ揚儒[ラムスドルフ]條約ノ報トナリ近日又清國政府ガ駐露公使揚儒ニ命シテ其[ラムスドルフ]伯トノ條約ヲ取消サシメタリトノ上海電報ノ東京ニ着スルヤ、我一派政治家中ニハ、之ヲ見テ欣然愁眉ヲ開キ、清國政府未ダ侮リ易カラズナドト遽ニ悅喜セシモノヽアルヤモ知ルヘカラス、然レドモ清國政府ノ如キハ素言フニ足ラズ、例令彼ノ如キヲシテ露清條約ヲ締結セシメタリトテ何カアラン、彼ノ如キヲシテ露清條約ヲ拒絕セシメタリトテ何カアラン、畢竟彼ガ如キ者ノ其條約ヲ追認スルト其條約ヲ排斥スルトノ如キハ、毫モ之ヲ眼中ニ置クニ足ラス、露ノ方面ヨリシテ之ヲ言ヘハ、假シヤ清國政府カ如何ニ增祖[アレキシェーフ]ノ條約ヲ敗棄シタレハトテ、將タ如何ニ揚儒[ラムスドルフ]ノ條約ヲ撤去シタレバトテ、彼レ決シテ之ヲ以テ其彼カ無頓着ニ、大膽ニ、容赦ナク滿州ノ設計ヲ遂行セントセルノ初志ヲ飜スモノニアラスサレハ我帝國政府ノ如キモ眞ニ果シテ國家百年ノ大計ヲ思ヒ東洋平和ノ擔保ニ任セントスルノ心アラバ彼清國政府ノ擧措ノ如キハ須ラク之ヲ眼中ニ置カス、寧ロ全局ノ大勢ニ視テ、露國謀圖ノ由來ヲ案シ速ニ蹶起シテ彼カ異圖ヲ破摧シ彼カ野心ヲ斷滅スヘキナリ、而シテ之ヲ摧クニ道アリ、敢テ區々條約條項ノ內容規定ニ論及

進午曰我ニ若シ此ノ如日望ム本ノ發展個人ノ神經質ナル家要ス亦神經質ナル國ニ要ナル

シテ拘泥スルノ必要ナシ、又唯宜シク無頓着ニ大膽ニ容赦ナク遠慮ナク直ニ露ノ行動全般ヲ否認シテ干渉ノ手ヲ容ルヘキナリ、彼已ニ無頓着ナリ我モ亦無頓着ニシテ可ナリ、彼已ニ大膽ナリ、我モ亦大膽ニシテ可ナリ、彼已ニ容赦ナク、遠慮ナシ、我モ亦容赦ナク、遠慮ナクシテ可ナリ、唯此ノ如クニシテ初メテ彼ト抗爭スルコトヲ得ヘク初メテ彼ト對敵スルコトヲ得ヘシ、我已ニ此決心アリ、之ヲ以テ彼ニ對セントス則チ其干渉ノ辭ノ如キハ、之ヲ求ムル眞ニ是レ易中ノ易、我ハ唯彼ニ向テ其露西亞カ形式ノ如何ニ拘ハラズ滿州ヲ占領スルハ、長ク東洋ノ平和ニ障害ヲ與フルモノト認ムルカ故ニ、露西亞ハ須ラク其占領ヲ解キテ之ヲ日本帝國ニ引渡スヘキヲ求メハ、此ノ如クニシテ即チ可ナリ、但露國ノ之レガ爲果シテ其畫策ヲ改メ其施設ヲ解キ之ヲ他國ノ手ニ委セン事ノ甚望ムヘカラサレハ、結果ハ先ヅ最後ノ手段ニ訴フルノ已ムナキ事ト覺悟セサルヘカラズ、事此ニ至ラハ我ニハ即チ二十餘萬噸ノ戰艦ト十四師團半ノ陸兵ノ在ルアリ之ヲ以テ彼ニ臨ム、又唯朽ヲ破リ腐ヲ摧クニ異ナラサルヘキノミ、元來日本ノ政治家等ハ露ノ勢力ヲ見ル其實ニ過キ、日本ノ勢力ヲ信スル其實ニ及ハス然レトモ露西亞ハ決シテ爾ク恐ルヘキノ國ニ非ス、日本ハ決シテ爾ク侮ルヘキノ國ニ非ス、實ヲ言ヘハ余ノ如キモ北清事件ノ初メテ起リシ際ニハ當時猶多少彼此ノ兵力ニ疑アリ、人ニ就テ之ヲ質セシニ、專門家ノ言フ所、稍々滿足ノ答ヲ得タリシガ、爾來兵力ノ强弱如何ニハ常ニ意ヲ用ヒテ注視シ來リシニ、今ニ於テハ愈々我ノ優勢ナルヲ信スルニ至レリ、且夫レ今日ノ情勢ヲ以テスレハ彼獨佛二國カ我ト兵ヲ交ヘテヤテモ、果シテ露國ヲ援クヘキヤハ甚疑問ニ屬ス、假シ或ハ二國ニシテ露國ヲ援クルアリトスルモ、是モ亦敢テ恐ルヽニ足ラス、交戰二三回唯三國ノ勢力ヲ併セテ、共ニ之ヲ摧破シ去ルニ過キサルベキノミ。

進午曰事實ハ今日ニ於テ之ヲ證明ス

露國ヲ擊退シテ其勢力ヲ攘蕩ス、日本ノ代テ滿州ヲ保持スヘキハ勿論ノ事ナリ、然ルニ人或ハ曰ク日本已ニ英獨協商ニ加盟シテ清國領土ノ保全ヲ約セリ、今日滿州ヲ侵スハ此協商ノ意ニ反スルモノナリト、然レトモ余ヲ以テ觀レハ、日本カ戰勝ニ乘シテ滿州ヲ占領シタリトテ、之ヲ以テ直ニ滿州ヲ掠奪スルモノトハ斷言スヘカラズ、日本ハ唯清國ノ自ラ其領土保全ノ實ヲ全

追テ曰英獨協約ナルモノ畢竟是レ「シール」篇ノ空約ナリシノミ

フスルニ堪ヘサルヲ以テ清國ノ爲一時代テ其保持ニ任スルノミニシテ則チ可、若シ其レ異日亂止ミ事成ルノ後徐ニ我清國ノ讓與ヲ受クルハ寔ニ是レ易々ノ事而シテ自ラ別種ノ問題ニ屬ス敢テ此ニ論セスシテ可ナリ、世又往々ニシテ說ヲナス者アリ、帝國政府ハ、英獨協商ヲ以テ清國ノ全領土ニ關スルモノト爲セリ、然ルニ獨逸政府ノ外務大臣ハ之ヲ以テ滿州ニ關係ナキモノト公言セリ、帝國政府ハ宜シク獨逸政府ニ向テ質問スル所アルヘキナリト、然レトモ此ノ如キハ實ニ無用ノ交涉ノミ、英獨協商ノ如キハ、之ヲ以テ滿州ニ關スルモノトスルモ可、滿州ニ關セサルモノトスルモ亦大ニ可、至竟斯ノ如キハ論セスシテ可ナリ、何ノ要カ又交涉ヲナスヘキヤ、我ハ唯我武力ヲ以テ鐵腕一揮直ニ滿州ヲ占領スルアランノミ、爾時獨逸政府ニシテ英獨協商ハ滿州ニ關係ナシト云フ是寧ロ甚妙ナルニ非スヤ、獨逸彼レ將ニ自ラ干涉ノ辭ヲ失ハントス、我何ソ求メテ之ヲ誘フノ愚ヲ爲スヘケンヤ。

世又或ハ日露交仗ノ日ニ當リテ、英ノ干涉ヲ容レ或ハ露ヲ援クルニ至ランコトヲテモ恐ルヽ者アリ、杞人ノ憂ト稱スルハ眞ニ斯ルヲコソ謂フヘキカ今夫レ英露ノ間感情ノ背馳一日ニアラス、遠キ昔ハ暫ラク言ハズ近クハ直隸灣ニ於ケル露船追捕ノ事アリ、天津鐵道ノ論爭ハ危機ノ甚迫レルヲ傳フ之ニ見ルモ英國カ露國ヲ援クルナトヽハ殆ント想像タモスヘカラス、況ンヤ彼レ近年頗ル南亞ノ戰爭ニ疲レ、又敢テ東洋ノ事ニヤテ干涉シテ用モナク日本ヲ敵トスル如キ餘裕ナキニ於テヲヤ米國ノ如キモ彼レ已ニ「キユーバ」島事件ニ次テ比利賓島ノ征服ニ全力ヲ注キツヽアルナレハ、是モ亦日露ノ間ニヤテ干涉セントハ思ハレス、要スルニ今日ハ實ニ我ノ露西亞ニ對スル問題ヲ解決スルニ於テ最良好ノ時期ナリトナスナリ。

人又曰ク日露關係ノ解釋ハ獨リ之ヲ學者、政治家ノ論斷ニ依リテノミ決スヘキニ非ス宜シク之ヲ國民全般ノ決意ト覺悟トニ問フヘシト嗚呼是亦我日本國民ノ禀性特質ヲ知ラザルノ言ノミ、抑モ日本國民ノ禀性特質ハ利害ヲ打算シテ然ル後ニ動クモノニ非ス寧ロ一片ノ義憤ニ感シテ忽チ發動奮起スルノ所ニ在リ、是レ此特質實ニ我國民ノ短所ニシテ兼ネテ又其長所ナリ短所トシテ謂ヘハ短所ニハ相違ナキモ、長所トシテ見レハ實ニ大ナル長